

高知県立大学年報

令和2年度



高知県立大学

目 次

I	理念・使命・方針	
1	高知県立大学の理念	1
2	使命	1
3	基本方針	1
II	沿 革	
1	概要	3
2	沿革図	3
3	主要年表	4
4	名称及び所在地	7
III	組織及び教職員	
1	組織	8
2	教員（令和2年度）	12
IV	教育及び研究	
1	学部・大学院の概要（3つの方針）	27
2	受講者の状況	53
3	科目等履修生・特別聴講学生・研究生の状況	67
4	教員免許状取得状況・国家資格等合格状況	68
5	学位及び大学賞・学長賞等の授与状況	69
6	S D・F D活動実施状況	74
V	学 生	
1	行事実績	79
2	入学の状況	81
3	学生数（令和2年5月1日現在）	84
4	休学・退学・修業年限を超えて在籍する学生数及び単位互換の状況	85
5	課外活動	87
6	授業料等の納入状況	88
7	日本学生支援機構奨学金受給状況（令和3年3月1日現在）	89
8	卒業（修了）者状況	90
VI	総合情報センター	
1	概要	92
2	組織・委員会	92
3	図書等受入状況	93
4	図書館利用状況	94
5	学内LAN状況	94
VII	地域教育研究センター	95
VIII	健康長寿センター	99
IX	健康管理センター	103

X	国際交流	
1	正規学生（留学生）数の推移	1 0 8
2	協定校数の推移	1 0 8
3	協定校一覧	1 0 8
4	協定大学への派遣実績	1 0 8
5	協定大学からの受入実績	1 0 9
6	外国人学生に対するプログラム	1 0 9
7	海外機関との共同研究・教育事業支援	1 0 9
8	本学学生への留学・奨学金等の支援	1 0 9
XI	開かれた大学	
1	公開講座等実施状況	1 1 0
2	学会役員等の状況	1 1 2
3	学外提供用刊行物作成状況	1 2 6
XII	財 務	
1	はじめに	1 2 8
2	貸借対照表	1 2 8
3	損益計算書	1 3 0
4	その他の主要諸表	1 3 2
5	外部資金導入の状況	1 3 3
6	学長助成事業等の状況	1 4 3
XIII	キャンパス	
1	土 地	1 4 4
2	建 物	1 4 4

I 理念・使命・方針

1 高知県立大学の理念

本学は、平和な社会の発展及び人々の生活の質向上に向け、知の創造に寄与する学術研究を行うとともに、地域志向の教育研究を通じ、地域の文化の発展と健康・福祉の向上に貢献することを理念とします。

2 使命

これまで本学は、学生の主体的な学びと他者を尊重する姿勢を育み、地域に開かれた知の拠点として、地域社会の課題解決に貢献する教育研究活動を展開してきました。この歴史を継承し、人口構造の変化、科学技術の発展、グローバル化の進展など、急激な変化の中で社会の要請に常に応えつつ、未来を拓く実践力を育成する大学、知識基盤社会を支えていく新たな知を創出する大学、地域と共に育ち地域に育てられる大学を目指します。

「多様性の尊重」、「連携の強化」、「戦略的な挑戦」を大学運営の基盤とし、恒常的な評価活動を行いながら、教育改革の推進、学術研究の質向上、社会連携活動の強化に取り組みます。

3 基本方針

1. 学生受入れの方針を定め、多様な学生を受入れ、豊かな人間性と倫理観を育む教育を行います。
2. 本学の伝統を紡ぎつつ、学生中心の教育、自己実現を支える教育を通して、未来社会を生き抜くことができる人材を育成します。
3. 最新の学術の動向を踏まえて、学術力・研究力を高め、産学官民との連携を推進し、専門性を追求する研究や実践的研究に挑戦的に取り組み、創出した知を社会に還元します。
4. 地域志向の教育研究活動を展開し、地域の人々と協働して、グローバル社会、持続可能な社会、多様で豊かな社会、安全・安心な社会づくりに取り組みます。
5. 社会の変化や県民のニーズを踏まえ、社会との接続を常に意識し、社会の期待に応える大学として機能を果たします。
6. 学部・大学院・センターの力の結集や教職協働の推進に戦略的に取り組み、知識基盤社会を支える知の拠点としての役割を果たします。

教育の方針

1. 幅広い教養と専門的な知識を活用して課題をグローバルで複眼的な観点から分析し探究できる人材を育成します。
2. 地域の文化の発展と健康・福祉の向上に向けて活躍できる人材を育成します。
3. 地域志向の教育を通して、地域社会や現場の課題を人々と協働して解決できる人材を育成します。
4. 大学院においては、専門性に基づいて変革をもたらす実践的な知のプロフェッショナル(高度専門職業人・研究者・教育者)を育成します。

学生支援の方針

1. 一人ひとりの学生が自らの専門性を高め、その人らしく自己実現ができるよう、多様な学生のニーズに応える教育支援を行います。
2. 学生との対話を重視し、学生が主体的に学ぶことができるよう、教職協働で教育環境を整えます。

3. 心身ともに健康で安心して学業に専念し、豊かな人間性を育むことができるよう、学生生活への支援を行います。

学術研究の方針

1. 専門領域の発展・知の創造に向けて、関連機関と協働して、教員の多様な研究志向を尊重しつつ、専門的研究、学際的研究及び国際的研究を推進し、その成果を社会に発信します。
2. 地域の文化の発展、健康・福祉に関わる課題の解決に向けた実践・地域志向の研究を戦略的に推進し、地域社会の研究拠点としての役割を果たします。

社会連携の方針

1. 知の拠点として、地域の文化の発展と健康・福祉の向上に向けて、県民の学び直しや専門職者のキャリア向上に取り組みます。
2. 域学共生の理念のもと、地域との協働体制を強化し、課題解決や活性化に地域のみなさまと共に取り組みます。
3. 地域や産学官民との連携を図り、南海トラフ地震などの災害への対応や健康長寿県の実現に向けた健康福祉に関する活動を積極的に行います。

国際交流・連携の方針

1. 海外の提携大学を拡大し、国際交流の活性化、教育・研究の国際化を推進します。
2. 地域社会に根ざした国際交流・国際連携を推進し、地域社会と世界をつなぎ、外国人材の受入れや共生社会づくりを支援する拠点としての役割を果たします。

II 沿革

1 概要

高知県立大学は、高知県立女子専門学校(昭和22年設立認可)を母体とする、家政学部生活科学科の単科大学である高知女子大学(昭和24年設立認可)を前身とする。その後、昭和31年に文学部を新設して2学部体制となった。

平成10年4月には、21世紀を展望し、教育文化の拠点として地域とともに発展する大学を目指して大規模な改組を行い、生活科学部・文化学部・看護学部・社会福祉学部の4学部6学科体制となるとともに、大学院看護学研究科を新設した。平成22年には、生活科学部食物栄養学科が健康栄養学部健康栄養学科へと学部に昇格した。平成26年4月には生活科学部を廃止し、平成28年3月には健康生活科学研究科を廃止し、看護学研究科及び人間生活学研究科をそれぞれ博士前期課程と博士後期課程からなる体制へと変更を行った。

平成23年には公立大学法人化を行い、男女共学化とともに、名称も高知女子大学から高知県立大学法人高知県立大学へと校名変更を行った。平成27年には公立大学法人高知工科大学と法人統合を行った。

2 沿革図

昭和19年

高知県立女子医学専門学校設立認可



昭和22年

高知県立女子専門学校設立認可



昭和24年

高知県立高知女子大学設立認可

【学部】

家政学部

生活科学科



昭和27年

家政学部

生活科学科

看護学科



昭和31年

家政学部

文学部

生活科学科

看護学科

国文学科

英文学科



(S34 看護学科 → 衛生看護学科に改称)

昭和39年

家政学部

文学部

家政学科

食物栄養
学科

生活
理学科

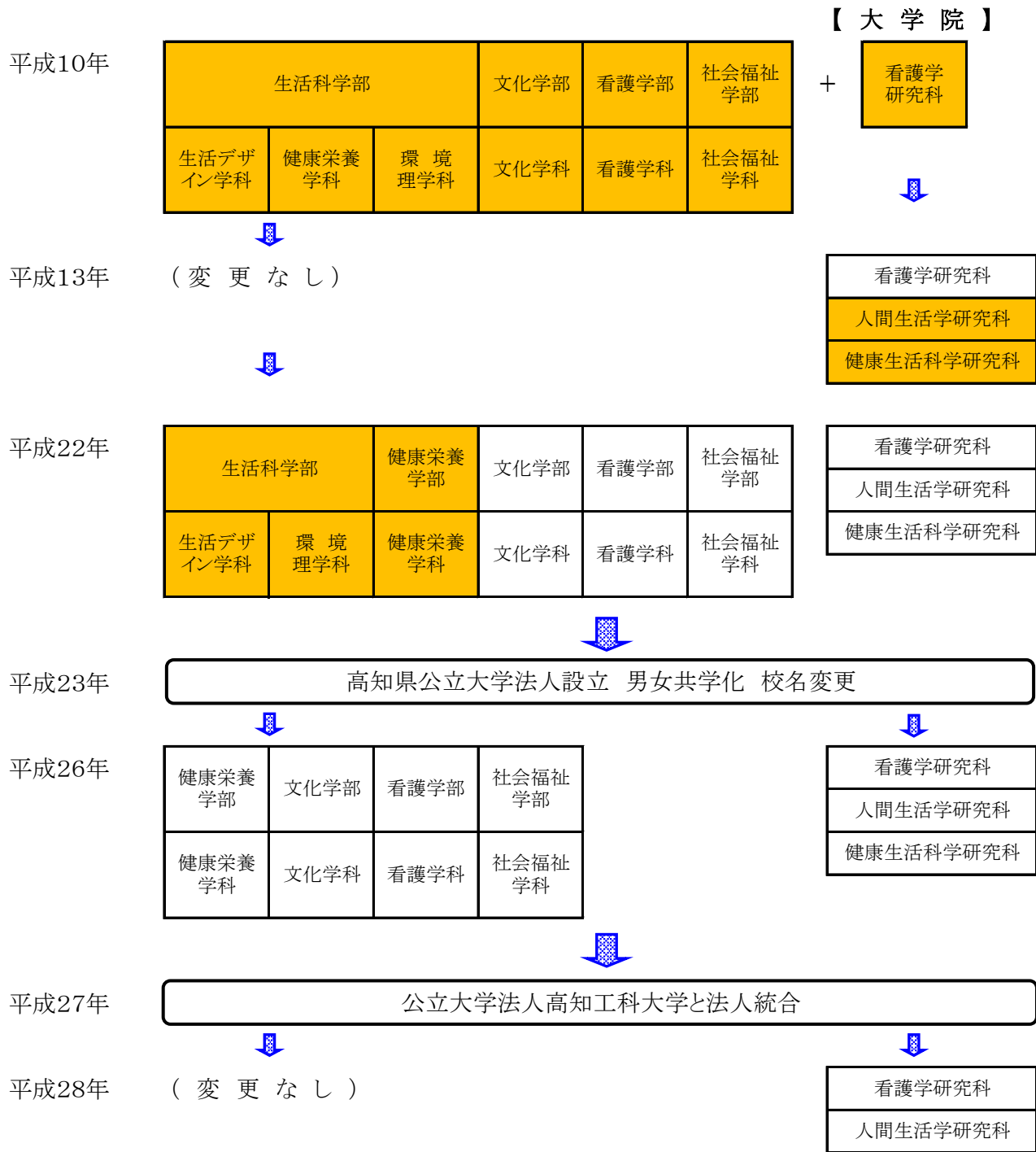
衛生看護
学科

国文学科

英文学科



(S56 衛生看護学科 → 看護学科に改称)



3 主要年表

昭和19年12月29日	高知県立女子医学専門学校設立認可
昭和20年 8月 8日	高知県立女子医学専門学校開学式及び入学式(同年1月8日学則発表)
昭和22年 3月31日	高知県立女子専門学校(生活科・生物科・英文科)設立認可 (県議会で2月25日女子医学専門学校廃止、女子専門学校設置の決議)
昭和24年 2月21日	昭和22年創立の県立女子専門学校を母体とし、県立高知女子大学 (家政学部:生活科学科・生物学科)設立認可
昭和24年 4月 1日	初代学長岡本重雄就任
昭和25年 4月 1日	家政学部生活科学科を栄養士養成施設として指定

昭和26年 3月31日	教職課程を設置、中学校・高等学校教諭(家庭)免許状授与資格を取得させるための課程として認定
昭和27年 2月20日	家政学部看護学科増設認可
昭和27年 3月18日	学長岡本重雄退職、教授福田俊治学長事務取扱に就任
昭和27年 9月22日	看護婦学校として指定
昭和27年10月 1日	第二代学長志波清時就任
昭和29年 3月21日	学長病気のため教授中村慶三郎学長代理に就任
昭和29年 4月 1日	正規の課程及び聴講生の課程を中学校・高等学校教諭(理科、保健、家庭、英語)・養護教諭の免許状授与の資格を取得させるための課程として認定
昭和30年 3月29日	保健婦学校として指定
昭和30年 9月10日	第三代学長中村慶三郎就任
昭和31年 3月 1日	文学部(国文学科、英文学科)増設認可
昭和32年 4月 1日	正規の課程を中学校・高等学校教諭(国語)免許状授与の資格を取得させるための課程として認定
昭和34年 4月 1日	家政学部看護学科を衛生看護学科に改称
昭和34年12月 1日	第四代学長紫藤貞一郎就任
昭和38年 8月 3日	学長紫藤貞一郎退職、教授田中亮学長事務取扱に就任
昭和39年 4月 1日	家政学部生活科学科を家政学科・食物栄養学科・生活理学科に改称
昭和39年 4月10日	第五代学長徳田弥就任
昭和41年 3月31日	附属図書館新館落成
昭和42年12月10日	家政学部実験棟新館落成
昭和43年 4月10日	第六代学長藤本薫喜就任
昭和43年10月15日	管理棟及び講義棟新館落成
昭和44年 9月10日	講堂兼体育館落成
昭和45年 4月 2日	第七代学長安中正哉就任
昭和46年 3月31日	学生寮落成 集団給食実習室落成
昭和46年 4月 1日	正規の課程及び聴講生の課程を高等学校教諭(看護)免許状授与の資格を取得させるための課程として認定
昭和47年 3月31日	作法室落成
昭和48年11月 7日	運動場完成
昭和50年 1月10日	高知女子大学保育短期大学部認可
昭和50年 4月 1日	高知女子大学保育短期大学部開学
昭和55年 4月 2日	第八代学長岡崎正一就任
昭和55年10月 7日	南学舎改築学生会館新築落成
昭和56年 4月 1日	家政学部衛生看護学科を看護学科に改称
昭和59年 4月 2日	第九代学長木原正雄就任
昭和62年11月15日	情報処理施設設置
昭和63年 6月28日	附属図書館増改築落成
平成 2年 3月26日	聴講生の課程を中学校・高等学校教諭(国語)免許状授与資格を取得させるための課程として認定
平成 2年 3月27日	弓道場落成
平成 2年 4月 2日	第十代学長池川順子就任

平成 8年 4月 2日	第十一代学長成田十次郎就任
平成10年 3月31日	池校舎落成
平成10年 4月 1日	改組 生活科学部(生活デザイン学科・健康栄養学科・環境理学科) 文化学部(文化学科) 看護学部(看護学科) 社会福祉学部(社会福祉学科) 大学院看護学研究科 教員の免許状授与の所要資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成10年 4月 1日	高知女子大学保育短期大学部廃止
平成12年 4月 1日	教育職員免許法改正による教員の免許状授与の所要資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成12年 8月29日	社会福祉士国家試験に係る指定科目の読替について認定
平成13年 4月 1日	大学院研究科の増設 人間生活学研究科(修士課程) 健康生活科学研究科(博士課程後期) 二級建築士試験及び木造建築士試験の受験資格として認定
平成14年 9月 5日	精神保健福祉士国家試験に係る指定科目の読替について認定
平成14年10月15日	学長成田十次郎退任、副学長吉野公喜学長事務代理に就任
平成15年 1月22日	第十二代学長吉野公喜就任
平成15年 4月 1日	第十三代学長青山英康就任 生活科学部健康栄養学科を管理栄養士養成施設として認定
平成16年 4月 1日	高等学校教諭(福祉)免許状授与の所要資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成17年 4月 1日	栄養教諭免許状授与資格を取得させるための大学学部等の課程として認定
平成19年 4月 1日	第十四代学長山根洋右就任 看護学部看護学科を助産師学校として指定
平成21年11月30日	看護福祉棟新築落成
平成22年 2月28日	本部・健康栄養学部棟新築落成
平成22年 4月 1日	健康栄養学部健康栄養学科の設置(届出) 本学本部機能を池校舎に移転 社会福祉学部社会福祉学科に介護福祉士養成課程を新設し、介護福祉士養成施設として認定 健康栄養学部健康栄養学科を栄養士養成施設として認定 健康栄養学部健康栄養学科を管理栄養士養成施設として認定
平成22年10月31日	共用棟増改築落成
平成23年 4月 1日	大学の設置者を高知県公立大学法人に変更(許可) 男女共学化により大学名称を高知県立大学に変更(届出) 初代学長南裕子就任
平成24年 4月 1日	学芸員資格取得教育課程の廃止 地域教育研究センターの設置
平成25年 4月 1日	中学校・高等学校教諭(英語)専修免許状及び栄養教諭専修免許状授与資格を取得させるための大学学部等の課程として認定

平成26年 4月 1日	大学院課程の増設 ・看護学研究科看護学専攻(博士後期課程) ・人間生活学研究科人間生活学専攻(博士後期課程) ・看護学研究科共同災害看護学専攻(博士課程) 生活科学部の廃止
平成27年 4月 1日	公立大学法人高知工科大学と法人統合 永国寺キャンパス教育研究棟落成 文化学部を拡充(夜間主の設置)
平成28年 3月31日	健康生活科学研究科健康生活科学専攻(博士後期課程)を廃止
平成29年 3月	永国寺キャンパス体育館・食堂、図書館落成 池キャンパスさくら寮落成
平成29年 4月 1日	第二代学長野嶋佐由美就任
平成30年 3月23日	永国寺キャンパス整備完了(永国寺キャンパス西側敷地に緑の広場とモニュメント、学生会館の改修完了)。お披露目式を開催。モニュメント「詩の翼」は同窓会しらすぎ会からの寄贈

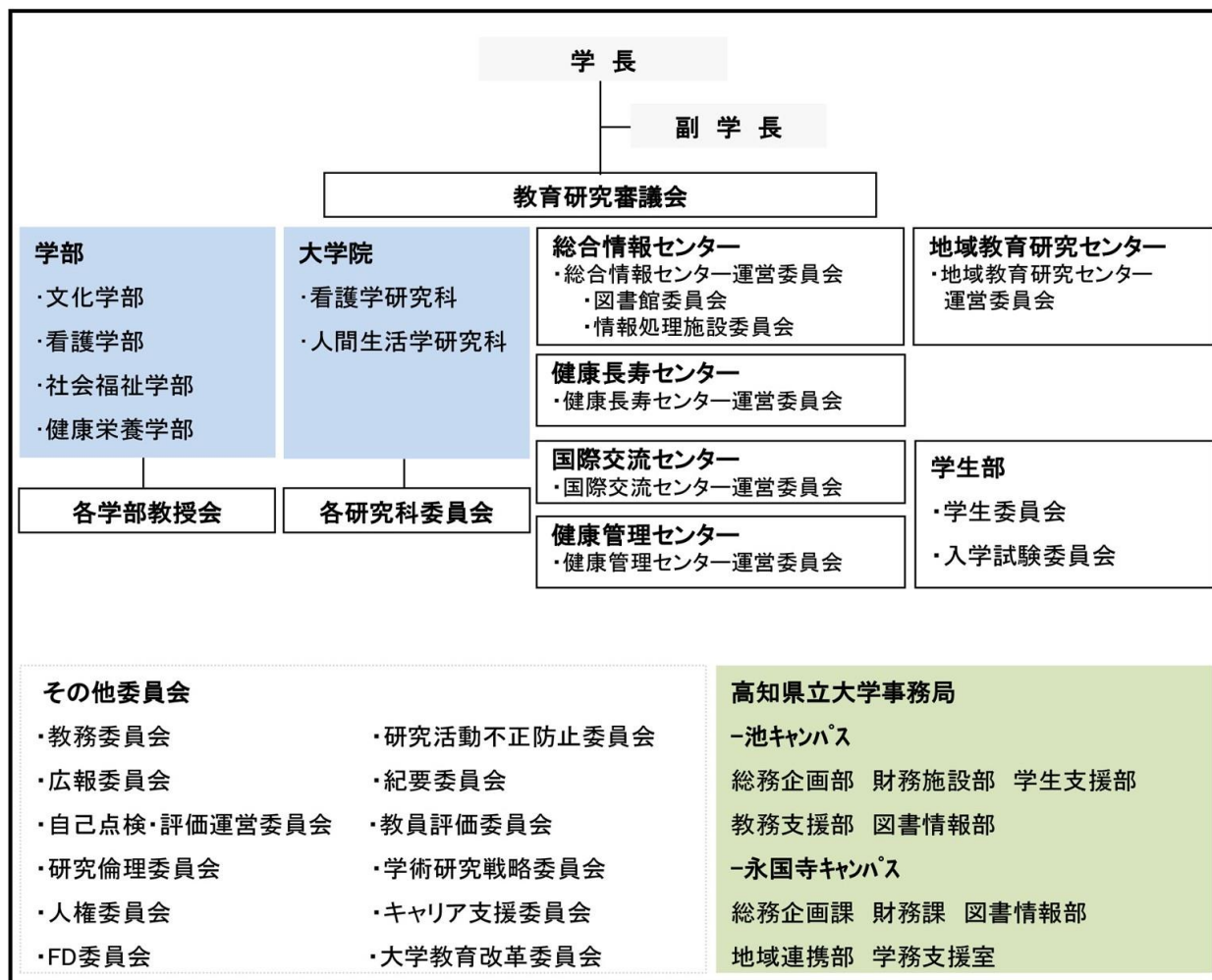
4 名称及び所在地

名 称		所 在 地	TEL・FAX
池 キ ャ ン パ ス	看護学部	〒781-8515 高知市池2751-1	TEL: 088-847-8700 (代表) FAX: 088-847-8670
	社会福祉学部		
	健康栄養学部		
	大学院看護学研究科		
	大学院人間生活学研究科 (栄養・生活学領域、社会福祉学領域)		
	事務局		
	附属図書館		
永 国 寺 キ ャ ン パ ス	文化学部(夜間主含む)	〒780-8515 高知市永国寺2-22	TEL: 088-821-7104 (代表) FAX: 088-821-7103
	大学院人間生活学研究科 (文化学領域)		
	事務局		
	附属図書館		

III 組織及び教職員

1 組織

(1)組織図



(2)教職員構成

(令和2年5月1日現在)

区分	教 員								事 務 局 職 員					合 計	
	学 長	副 学 長	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	計	局 長	事 務 職 員	司 書	保 健 師	計		
現 員	1	2	42	30	15	34	1	125	1	62	1	3	67	192	
内 訳	学 長	1						1							
	副学長		2						2						
	文化学部			10	12	2	0	0	24						
	看護学部			16	7	5	21	0	49						
	社会福祉学部			7	6	4	7	0	24						
	健康栄養学部			4	3	3	4	1	15						
	大学院			1	0	1	0	0	2						
	地域教育研究センター			4	0	0	0	0	4						
	総合情報センター			0	1	0	1	0	2						
	健康長寿センター			0	1	0	1	0	2						

(3)令和2年度新規採用教員数

	学 長	副学長	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	計
学長	0	0						0
文化学部			0	1	0	0	0	1
看護学部			0	0	0	5	0	5
社会福祉学部			0	0	0	0	0	0
健康栄養学部			0	0	0	1	0	1
看護学研究科			0	0	0	0	0	0
人間生活学研究科			0	0	0	0	0	0
地域教育研究センター			0	0	0	0	0	0
総合情報センター			0	0	0	0	0	0
健康長寿センター			0	0	0	1	0	1
合 計	0	0	0	1	0	7	0	8

(4)名誉教授

現在までに名誉教授の称号を授与された教授は、66名である。

高知女子大学

(平成23年3月31日現在)

	氏名	所属(退職時)	授与年月日		氏名	所属(退職時)	授与年月日
1	正木 喬	文学部	昭和46年7月12日	26	岡崎 芳子	家政学部	平成9年4月1日
2	田中 亮	家政学部	昭和48年5月7日	27	宇久 真雄	文学部	平成9年4月1日
3	市川 一夫	家政学部	昭和48年5月7日	28	徳満 澄雄	文学部	平成9年4月1日
4	笹原 邦彦	家政学部	昭和50年5月19日	29	中山 喜代子	家政学部	平成10年4月1日
5	山崎 良幸	文学部	昭和50年5月19日	30	金谷 嘉郎	文化学部	平成11年4月1日
6	丸山 和雄	文学部	昭和50年5月19日	31	岡本 健児	文学部	平成12年4月1日
7	和井 兼尾	家政学部	昭和51年12月20日	32	橋本 名正	文化学部	平成12年4月1日
8	深瀬 亀美	家政学部	昭和52年6月27日	33	秋田 利彦	生活科学部	平成12年7月7日
9	三宮 慎助	文学部	昭和54年4月19日	34	濱田 美智	社会福祉学部	平成13年4月1日
10	安中正 哉	学長	昭和55年4月10日	35	藤田 加代	文化学部	平成14年4月1日
11	山本 壽春	家政学部	昭和55年4月10日	36	坂本 肇	文化学部	平成14年4月1日
12	岩 貞 好	家政学部	昭和55年4月10日	37	寺内 アヤ子	生活科学部	平成14年4月1日
13	赤沢 時之	家政学部	昭和56年4月10日	38	山崎 美恵子	看護学部	平成14年4月1日
14	芝田 不二男	家政学部	昭和59年4月10日	39	津曲 裕次	社会福祉学部	平成14年4月1日
15	畠中 幸	文学部	昭和60年4月10日	40	今西 一實	社会福祉学部	平成14年4月1日
16	作田 芳次	家政学部	昭和62年4月10日	41	松本 女里	看護学部	平成15年4月1日
17	平見 嘉彦	家政学部	平成3年5月10日	42	生田 勝彦	文化学部	平成15年4月1日
18	児平 文雄	家政学部	平成4年4月1日	43	阿部 捷男	生活科学部	平成16年4月1日
19	松崎 淳子	家政学部	平成4年4月1日	44	山口 俊治	文化学部	平成18年4月1日
20	山崎 智子	家政学部	平成6年4月1日	45	原 絢子	生活科学部	平成18年4月1日
21	市村 金次郎	文学部	平成7年4月1日	46	松田 眞一	社会福祉学部	平成18年4月1日
22	矢野 昭典	文学部	平成8年4月1日	47	住友 弘一	文化学部	平成19年4月1日
23	藤村 千賀	家政学部	平成8年4月1日	48	山根 久之助	文化学部	平成20年4月1日
24	池川 順子	学長	平成8年4月1日	49	川崎 育郎	社会福祉学部	平成21年4月1日
25	松崎 沙和子	家政学部	平成9年4月1日				

	氏名	所属(退職時)	授与年月日		氏名	所属(退職時)	授与年月日
1	青山英康	学長	平成23年5月19日	10	前山智	社会福祉学部	平成26年5月1日
2	成田十次郎	学長	平成23年5月19日	11	井本正人	文化学部	平成27年4月1日
3	山根洋右	学長	平成23年5月19日	12	逸見幾代	健康栄養学部	平成27年4月1日
4	北川明	文化学部	平成23年5月19日	13	荻沼一男	健康栄養学部	平成28年4月1日
5	大久保茂男	生活科学部	平成24年5月31日	14	森下利子	看護学部	平成28年4月1日
6	青木晴男	文化学部	平成26年4月1日	15	南裕子	学長	平成29年4月20日
7	佐藤恵里	文化学部	平成26年4月1日	16	芋生裕信	文化学部	平成30年4月1日
8	宮武陽子	看護学部	平成26年4月1日	17	宇野浩三	地域教育研究センター	平成30年4月1日
9	川村美笑子	健康生活科学研究科	平成26年4月1日				

2 教員(令和2年度)

(1)学部

○文化学部 文化学科

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教授	五百蔵 高浩	兵庫教育大学大学院 連合博士課程単位取得退学	博士(学校教育学) (兵庫教育大学)	英語音声学、英語科教育法、教職実践演習	英語音声学・音韻論 コーパス言語学的アプローチによる語法研究 第二言語学習者の音声習得
教授	井上 次夫	大阪外国語大学大学院 外国語学専攻修士課程修了	修士(言語・文化) (大阪外国語大学)	国語科教育法、日本語学専門演習	国語科教育における指導法及び教材開発 日本語における様式的位相の研究
教授	岩倉 秀樹	広島大学大学院社会科学 研究科法学専攻博士課程 後期単位取得退学	法学修士 (広島大学)	日本国憲法、文化と人権、 文化と統治システム	表現の自由 選挙法
教授	大井 方子	東京大学大学院経済学 研究科第2種博士課程単位 修得退学	修士(経済学) (東京大学)	経済学、文化と経済、地 域産業論、社会調査論	技術革新、教育と労働に関する実証研究
教授	大村 誠	京都大学大学院理学 研究科博士後期課程 単位取得退学	博士(理学) (京都大学)	地域防災論、地域文化 論、観光と自然環境(共 通)自然災害と防災の科 学	防災全般(防災教育、地域防災、災害看護支援) 人工衛星/航空機搭載合成開口レーダー(SAR)の応用 理科・科学教育、サイエンスコミュニケーション
教授	小長谷 悠紀	立教大学大学院観光 学専攻博士課程後 期課程単位取得退学	博士(観光学) (立教大学) 修士(工学) (東京大学)	観光学総論、観光まち づくり論、観光産業論など	観光都市、観光まちづくりの計画・デザイン 観光文化研究(観光地形成過程、他者寛容性の高い風土・都市 空間)
教授	高西 成介	広島大学大学院文学 研究科博士課程後期 単位取得満期退学	修士(文学) (広島大学)	中国文学講読	六朝志怪小説、唐代伝奇小説、六朝詩、唐詩の解読、およびそ れらの作品を通して当時の社会・文化、および人々の心性の解 明
教授	橋尾 直和	東京都立大学大学院 人文科学研究科博士 課程単位取得退学	教育学修士 (鳴門教育大学)	日本語学専門演習	東アジアにおける地域言語(日本語諸方言・アイヌ語・琉球語)の 文化環境言語学的研究
教授	東原 伸明	国学院大学大学院文 学研究科博士課程 単位取得退学	博士(文学) (名古屋大学)	平安朝文学演習、古典 文学講読、基礎古典	土左日記、竹取物語、伊勢物語、源氏物語の語りと言語・テキスト 分析
教授	三浦 要一	大阪府立大学大学院 生活科学研究科後期 博士課程修了	博士(学術) (大阪府立大学)	住文化論、景観文化論	伝統的集落・町並みの保存と生活空間計画 歴史的建造物の復元に関する調査研究 大阪の都市空間に関する住居史的・都市史的研究
教授	ヨース・ ジョエル	ルーヴェンカトリック 大学日本学科博士課 程修了	博士(日本学) (ルーヴェンカト リック大学[ベル ギー])	日本思想史、国際日本 学	自由民権運動、明治時代の思想と文化、日本の歴史と社会を英 語で表現する
准教授	飯高 伸五	東京都立大学大学院 社会科学専攻博士 課程単位取得退学	博士(社会人類 学) (東京都立大学)	文化人類学、民俗学、観 光文化論	ミクロネシア地域における日本統治経験 アジア・太平洋戦争の記憶と戦跡観光 同郷者集団のネットワーク
准教授	宇都宮 千穂	京都大学大学院経済 学研究科博士後期課 程修了	博士(経済学) (京都大学)	文化政策学、地域づくり 論、地域学概論	近現代における企業城下町形成 都市的生活様式とコミュニティ形成に関する研究 地方移住政策と移住者
准教授	オバーク・ アンドリュウ	ウェールズ大学文学 研究科哲学博士課程 修了、レーディング大 学文学研究科語学教 育課程修士修了	博士(哲学) (ウェールズ大学) 修士(応用哲学) (ウェールズ大学) 修士(英語教育) (レーディング大 学)	国際理解、比較日本学、 教育法、英語ライティ ング、英語スピーキン グ	自己学、宗教の現象学、美術の現象学、応用哲学
准教授	梶原 太一	同志社大学大学院商 学研究科商学専攻博 士課程後期課程修了	博士(商学) (同志社大学)	NPO論、キャリアデザイ ン論、キャリア形成論、ビ ジネスリテラシー	投資の見返り(ROI)の多様な計算方法 複式簿記情報と資本コスト情報の固有価値 人間の計数能力形成と発達に関する歴史・制度的研究
准教授	金澤 俊吾	東北大学大学院情報 科学研究科博士後期 課程修了	博士(情報科学) (東北大学)	英語学概論、英語文法 論、英語学専門演習	英語における形式と意味との対応関係に関する研究 英語における形容詞が関わる構文の意味的ネットワークに関する 研究

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	菊池 直人	京都産業大学大学院 法学研究科博士後期 課程単位取得退学	修士(法学) (京都産業大学)	文化と権利、生活と法文 化	生命保険契約における被保険者の法的地位 消費者教育
准教授	清水 直樹	立命館大学大学院政 策科学研究科政策科 学専攻博士課程後期 課程修了	博士(政策科学) (立命館大学)	政治学、地域分析論、地 方自治論、地域づくり フィールドスタディなど	政治制度が公共政策や社会経済に与える影響
准教授	白岩 英樹	大阪芸術大学大学院 芸術文化研究科博士 後期課程修了	博士(芸術文化 学) (大阪芸術大学)	米文化・文学史、米文 化・文学論、国際文化専 門演習	米文学をベースにした他者論、比較芸術、比較文学
准教授	鳥飼 真人	関西大学大学院文学 研究科英文学専攻後 期博士課程修了	博士(文学) (関西大学)	英文化・文学史、英文 化・文学論、国際文化専 門演習	近現代英文学 現代文学理論 比較文化 East-West Studies
准教授	根岸 忠	上智大学大学院法学 研究科博士後期課程 満期退学	修士(法学) (法政大学)	労働契約と法文化、社会 保障と法文化	介護労働者の労働条件保護、ワーク・ライフ・バランスに関する法的研究
准教授	向井 真樹子	ニューカッスル大学 大学院 School of English & Linguistics修了	博士(言語学) (ニューカッスル大 学)	対照言語学、比較言語 学、言語教育実践論研 究、英語学専門演習、英 語コミュニケーションI、日 本語II	生成文法における英語、スカンディナビア諸言語族、ロマンス諸 語、日本語の複合語の普遍的特徴 外国語学習者の言語特徴と習得理論(特に生成文法)
准教授	吉川 孝	慶應義塾大学大学院 文学研究科哲学倫理 学専攻後期博士課程 修了	博士(哲学) (慶應義塾大学)	哲学、倫理学	現象学派の倫理学 生き方の哲学 ケアの哲学
講師	田中 康代	関西学院大学院法学 研究科後期課程単位 取得中退	修士(法学) (甲南大学)	社会秩序と法、文化と裁 判	国際人権法から見た精神障害者の処遇
講師	田中 裕也	同志社大学大学院文 学研究科国文学専攻 博士課程後期課程修 了	博士(国文学) (同志社大学)	近代文学講読、日本文 学史(近代)	三島由紀夫文学における思想系テキスト受容の研究 戦後文学における〈人間〉と〈美〉の表象研究 文学の検閲 解釈学と生成論

○看護学部 看護学科

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教授	畦地 博子	高知女子大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	行動科学、保健行動論、 人間と看護、看護研究方 法論、看護哲学と倫理	精神科看護師のケア技術に関する研究
教授	池添 志乃	高知女子大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	養護概説、学校保健、臨 床看護論Ⅱ、家族関係 論、教職実践演習、小児 看護学の動向と課題、養 護実習	さまざまな健康レベルにある子どもと家族の生きる力を支えるケア についての研究 家族の生活の再構築に関する研究
教授	池田 光徳	岡山大学大学院医学 研究科博士課程修了	博士(医学) (岡山大学)	医学の世界、診断学、治 療学総論、人体のしくみ の乱れⅠ・Ⅱ、臨床看護 論、医学と看護の統合	代謝異常症 角化細胞の生物学 皮膚アレルギー 転写因子 褥瘡 皮膚機能検査
教授	内田 雅子	日本赤十字看護大学 大学院博士課程修了	博士(看護学) (日本赤十字看護 大学)	看護学総論、健康と看 護、援助関係論、慢性期 看護論、慢性期看護援 助論、治療援助論Ⅰ・ Ⅱ、症状と看護、治療 と看護、臨床看護論Ⅳ(慢 性の病と生活)、総合看 護実習(慢性期)、看護と 政策、慢性期看護実践 論、看護実践能力開発 実習、看護研究、慢性期 看護学の動向と課題	高知県の血管病ハイリスク群への重症化予防推進・看看連携モ デルの開発 慢性看護実践における事例研究法の再構築 慢性透析者における生活の再編成 チーム・プロセスに焦点化した継続教育プログラム
教授	瓜生 浩子	高知県立大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	生活援助論Ⅰ、フィジカ ルアセスメントⅠ、人間と 看護、看護過程論、看護 援助の動向と課題、看護 研究	高次脳機能障害者とともに生きる家族の体験と支援に関する研究 家族レジリエンスを促す看護に関する研究 家族看護実践における倫理調整力強化のための教育に関する 研究
教授	大川 宣容	高知県立大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	フィジカルアセスメント Ⅱ、治療援助論Ⅰ、急性 期看護論、回復期看護 援助論、急性期看護援 助論、総合看護実習、急 性期看護の動向と課題、 バイオリジカルナーシ ング	悲嘆ケアに関する研究 治療期にある患者・家族の体験に関する研究
教授	久保田 聡美	高知女子大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	特別講義(看護学研究 科)、管理者研修、看護 管理者研修、コーデ ィネット能力習得研修(退 院支援事業)	災害に強い専門職育成に関する研究 看護職のストレスマネジメントに関する研究 慢性疾患や禁煙支援、学生やスタッフ支援における動機付け面 接(MI)の臨床活用
教授	田井 雅子	高知県立大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	精神看護学総論、精神 の健康と看護、精神看護 の動向と課題、総合看護 実習、看護と政策	精神障害者の地域生活に向けた援助 統合失調症患者のセルフマネジメントに関する研究 家族のレジリエンスを促進する看護に関する研究
教授	竹崎 久美子	高知女子大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	老人看護学総論、老人 看護援助論、老人看護 の動向と課題、老人看護 実践論、生活援助論Ⅱ、 災害と看護Ⅰ・Ⅱ、看護 研究、ふれあい看護実 習	高齢者の「居がい」について 小規模デイサービスの場づくりとケア効果 高齢患者の自宅退院支援プログラムの開発 認知症高齢者の術後安静をより安楽に保つためのケア開発 南海トラフ巨大地震準備期における災害看護
教授	時長 美希	高知女子大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	健康と看護・人間と看 護・学校保健・地域看護 学総論・地域看護援助 論・保健行動論・保健統 計学・疫学	アウトリーチ活動を基盤とした地区活動モデルの構築 脆弱性を有する家族への支援活動ガイドラインの開発と地域母 子支援システムの構築 災害後における家族レジリエンスを促す看護支援モデルの構築 とその活用
教授	長戸 和子	高知女子大学大学院 健康生活科学研究科 博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	生活援助論Ⅱ、生活と看 護、看護援助の動向と課 題、看護研究	病者特に慢性疾患患者とその家族への看護、家族マネジメント 力に関する研究

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教授	中野 綾美	日本赤十字看護大学大学院看護学研究科博士課程満期退学	博士(看護学) (日本赤十字看護大学)	小児看護学総論、小児の健康と看護、看護研究方法論、看護と政策	命に向き合う子どもと親のエンドオブライフケアへの看護に関する研究 臓器移植を受ける子どもの家族に関する研究 子どもセルフケアに関する研究 災害後における家族レジリエンスを促す看護に関する研究
教授	藤田 佐和	聖路加看護大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学) (聖路加看護大学)	看護学総論、看護哲学と倫理、終末期看護援助論、看護と政策	がん認知症を併せもつ高齢がん患者の緩和ケアと認知症ケアの統合ケアモデルの開発 外来治療する高齢がん患者を支える協働型包括的機能評価に基づく統合ケアモデルの開発
教授	森下 安子	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程満期退学	博士(看護学) (高知県立大学)	在宅看護学総論、在宅看護援助論、在宅看護リエン論、在宅看護の動向と課題、人間と看護、臨床看護論 I	在宅生活の継続と自立を支援するケアマネジメント技術に関する研究 在宅移行支援システム構築に関する研究 多職種協働に関する研究 災害看護支援ネットワークに関する研究
教授	森本 悦子	千葉大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学) (千葉大学)	症状と看護、治療援助論 II、治療と看護、終末期看護援助論、がん看護論、看護研究、慢性期看護実習、看護実践能力開発実習	がん治療を継続する患者への看護 地域でがん治療を受ける高齢患者への看護 外来通院がん患者の主体性を活かして行う実践のための外来看護師育成プログラムの洗練
教授	山田 覚	東海大学大学院工学研究科博士課程修了	博士(工学) (東海大学)	看護システム論、人間工学	看護管理システムの分析と設計 看護サービスの質の向上と安定 災害看護支援ネットワークに関する研究
教授	渡邊 聡子	兵庫県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学) (兵庫県立大学)	生命の科学と倫理、人間と看護、母性看護学総論、母性看護対象論、母性看護援助論、母性看護の動向と課題、助産看護の動向と課題、母性看護実習、助産看護援助論、助産看護実習 I、看護研究	妊婦やその家族、および、ケア提供者における災害への備えに関する研究 災害時のケア方略に関する研究
准教授	内川 洋子	高知県立大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	看護サービス論、看護管理の動向と課題、看護管理実習、チーム医療実習、看護研究、援助関係論、対人関係とメンタルヘルス、看護基盤実習	看護におけるリーダーシップについて(看護師長、中堅看護師、看護師のリーダーシップ) 看護におけるチームワークについて 看護師に対するチームワーク教育プログラムの開発、看護教育に関する研究
准教授	川上 理子	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	健康とヘルスプロモーション、環境と看護、生活援助論 III、在宅看護対象論、在宅看護援助論、在宅看護実習、在宅看護の動向と課題	高齢者の在宅療養における家族介護者の看取り 地域を基盤とした在宅移行支援システムの開発 訪問看護師の質保証のためのプログラム検討
准教授	木下 真里	名古屋大学大学院医学系研究科博士課程修了	博士(医学) (名古屋大学)	グローバルヘルス、看護と文化 I・II、災害と看護 I・II、看護セミナー III(病をもつ人の理解と看護)、看護実践能力開発実習、最新専門看護実践講座 I	災害サイクルでの HIV/AIDS 療養継続支援 ネパール地震被災地の復興支援 外国人 HIV 感染者支援 四国 HIV/AIDS ケア体制の整備
准教授	佐東 美緒	広島大学大学院医学系研究科博士前期課程保健学修士課程修了	修士(保健学) (広島大学)	看護研究、小児看護実践論、小児の健康と看護、小児看護援助論、小児看護の動向と課題、母性看護対象論、助産看護診断論、助産看護援助論、助産技術論 II、総合看護実習、助産看護実習 I、母性看護実習、保健行動論	NICU を退院した子どもとその家族を支える看護に関する研究 看護基礎教育における遠隔授業に関する研究 エンドオブライフケアに関する研究

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	嶋岡 暢希	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	母性看護援助論、母性看護実習、母性看護の動向と課題、助産看護学総論、助産看護診断論、助産看護援助論、助産技術論Ⅰ・Ⅱ、助産看護管理論、助産看護実習Ⅰ・Ⅱ、助産看護の動向と課題、看護実践論、総合看護実習、看護と政策	乳児期の子どもをもつ親のMastery獲得を促進する看護援助
准教授	高谷 恭子	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士(看護学) (高知女子大学)	小児の健康と看護、小児看護援助論、看護セミナーⅤ、小児看護実習、総合看護実習(小児)、保育学	病いとともに生きる子どもと家族が辿る軌跡に関する研究 臓器移植を受ける子どもの家族に関する研究 子どもセルフケアに関する研究
准教授	藤代 知美	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	精神の健康と看護、精神看護援助論、精神看護の動向と課題、精神看護実践論、精神看護実習、看護研究、援助関係論	精神障害者の地域生活移行・定着を促進するための交渉スキル 未治療・治療中断の精神疾患をもつ人の受療行動を促すための交渉スキル
講師	有田 直子	高知県立大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	人間と看護、小児の健康と看護、小児看護援助論、臨床看護論Ⅲ・Ⅵ、小児看護の動向と課題、総合看護実習、領域実習(小児看護)	病気を持つ子どもと家族の意思決定に関する研究
講師	井上 正隆	高知県立大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	急性期看護実習、急性期看護援助論、総合実習急性期、保健統計、看護セミナーⅥ	ストレスバイオマーカーを用いた周手術期患者のストレスの測定 急性期看護におけるケアデザインの習得を促進する教授方法の開発 一般市民にとって実施可能な胸骨圧迫法の実験研究デザインを用いた検討
講師	小澤 若菜	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知女子大学)	地域の健康と看護、地域看護援助論、地域看護実習、地域看護の動向と課題、保健統計学、疫学、保健行動論、地域看護実践論	生活習慣病予防、働く人の健康づくりに関する研究
講師	小原 弘子	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	老人の健康と看護、老人看護援助論、看護過程論、老人看護実践論、老人看護の動向と課題、看護研究、生活援助論Ⅲ、看護基盤実習、総合看護実習、ふれあい看護実習	高齢者ケアに関すること 訪問看護師対象のシミュレーション教育に関すること
講師	山中 福子	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知女子大学)	健康とヘルスプロモーション、チーム形成論、生活援助論Ⅰ・Ⅱ、フィジカルアセスメントⅠ、慢性期看護援助論、慢性期看護の動向と課題、慢性期看護実習、看護研究、慢性期看護実践論	慢性心不全をもつ人への看護に関する研究
助教	岩崎 順子	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知女子大学)	母性看護対象論、母性看護援助論、助産看護援助論、助産技術論Ⅰ、母性看護実習、助産看護実習Ⅰ・Ⅱ、総合看護実習	Maternal Confidenceについての研究 Family Confidence)に関する研究
助教	神家 ひとみ	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	治療援助論Ⅰ、看護過程論、看護基盤実習、ふれあい看護実習、急性期看護実習、総合看護実習、家族看護実習	ICUにおける人工呼吸器装着患者の集中治療後症候群に関する研究
助教	川本 美香	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	保健行動論、地域看護援助論、地域看護実習、総合看護実習、看護管理実習	中山間地域に暮らす高齢期にある住民のPlace Attachmentについて 大腸がん検診精密検査受診促進のための看護ケアについて 事例検討を活用した保健師の人材育成について 保健師による地区活動について

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
助教	源田 美香	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	家族関係論・臨床看護Ⅱ(家族と健康)・看護基盤実習・在宅看護実習・家族看護実習	先天性の心臓病のある子どもと共に生きる家族の対処行動発達障害をもつ子どもとその家族の家族ストレス
助教	坂元 綾	高知県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了	博士(看護学) (高知県立大学)	地域学実習Ⅰ、治療援助論Ⅰ、フィジカルアセスメントⅡ、看護過程論、ふれあい看護実習、看護基盤実習、家族看護実習、チーム医療実習、看護実践能力開発実習、急性期看護実習	病棟看護師長のスタッフ育成における役割に関する研究 在宅酸素療法を要するCOPD患者の社会参加の促進に関する研究 2型糖尿病患者のフットケアにおけるエビデンスに関する研究
助教	塩見 理香	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	看護基盤実習、地域学実習Ⅰ、精神看護実習、ふれあい看護実習、チーム医療実習、看護管理実習、生活援助論Ⅰ	地域で生活する精神障がい者に関する研究
助教	庄司 麻美	大阪府立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (大阪府立大学)	症状と看護、看護基盤実習、慢性期看護実習、看護実践能力開発実習、臨床看護論Ⅵ	全人的呼吸困難感を体験するがん患者の看護に関する研究 がん患者の緩和ケア主体の治療への移行に関する研究
助教	高橋 真紀子	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	地域看護実習Ⅰ、総合看護実習、地域学実習Ⅰ	地域住民のケアリングに関する研究 地域で生活する精神障がい者に関する研究
助教	瀧 めぐみ	愛知県立大学大学院看護学研究科修了	修士(看護学) (愛知県立大学)	精神看護援助論、総合看護実習、精神看護実習	行動制限最小化における多職種間の倫理調整に関する研究 高幡保健医療圏における精神障害者への包括的支援マネジメントの現状と課題
助教	竹中 英利子	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	在宅看護援助論、生活援助論Ⅱ、在宅看護実習、看護基盤実習、ふれあい看護実習	慢性疾患患者の外来看護に関する研究
助教	田中 雅美	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	(育児休業中)	トランジションを基盤としたICU新人看護師の看護実践能力向上支援プログラムの開発
助教	田之頭 恵里	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	小児の健康と看護、フィジカルアセスメントⅠ、総合看護実習、領域実習(小児看護)	臓器移植を受けた子どもや家族に関する研究
助教	中井 あい	和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科博士前期課程修了	修士(保健看護学) (和歌山県立医科大学)	総合看護実習、看護基盤実習、慢性看護実習、看護実践能力開発実習、ふれあい看護実習、チーム医療実習	中山間地域の一人暮らし高齢者の栄養と食環境に関する研究 在外中高年者の健康増進に関する研究
助教	中井 美喜子	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	家族関係論・看護過程論・臨床看護Ⅱ(家族と健康)・地域学実習Ⅰ、看護基盤実習、家族看護実習、ふれあい看護実習、チーム医療実習	人工呼吸器を装着した児と家族のヘルスケア機能に関する研究
助教	永井 真寿美	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	母性看護実習、助産看護実習Ⅰ・Ⅱ、母性看護対象論、母性看護援助論、助産看護援助論、助産技術論Ⅰ・Ⅱ、看護セミナーⅡ・Ⅳ	家族形成期にある家族のヘルスリテラシーに関する研究 シミュレーション教育を活用して行う助産師教育に関する研究 精神疾患をもつ女性が親になる過程に関する研究
助教	西内 舞里	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知女子大学)	母性看護援助論、母性看護対象論、母性看護実習、助産技術論Ⅰ・Ⅱ、助産看護援助論、助産技術論Ⅱ、助産看護実習ⅠⅡ、母性看護実習、フィジカルアセスメントⅡ、家族関係論	糖尿病合併妊婦と夫の妊娠期の協働に関する研究 助産師の妊娠期ケアにおける臨床判断に関する研究

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
助教	藤村 真紀	千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (千葉大学)	総合看護実習(慢性期)、看護基盤実習、慢性期看護実習	施設に入所している認知症を有する高齢者に関する研究
助教	益 宏実	高知県立大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	慢性期看護実習、総合看護実習:慢性期、看護実践能力開発実習	高知県の血管病ハイリスク群への重症化予防推進・看看連携モデルの開発
助教	森本 紗磨美	東京医科歯科大学大学院博士前期課程修了	修士(看護学) (東京医科歯科大学)	生活援助論Ⅲ、急性期看護援助論、総合看護実習:急性期、看護管理実習、急性期看護実習、ふれあい看護実習	消化器がん患者の周術期ヘルスリテラシー支援プログラムの開発
特任助教	青木 良枝	高知大学大学院総合人間自然科学研究科修士課程修了	修士(看護学)	助産看護実習、助産看護実習Ⅱ、総合看護実習	
特任助教	三浦 由紀子	高知女子大学大学院看護学研究科修了	修士(看護学) (高知女子大学)	小児看護実習、看護実践能力開発実習	病気の子どもと家族への看護介入に関する研究 人材育成に関する研究
大学院教授	神原 咲子	岡山大学大学院医歯学総合研究科国際環境科学講座公衆衛生学博士課程修了	博士(医学) (岡山大学)	看護と文化Ⅰ・Ⅱ、保健統計学、災害と看護Ⅰ・Ⅱ	平時の地域モニタリングを有する減災看護モデルの構築
大学院特任教授	野嶋 佐由美	カリフォルニア大学サンフランシスコ大学院 (University of California San Francisco) 博士課程修了	博士(看護学) (University of California San Francisco)	理論看護学Ⅱ	脆弱性を抱えた家族のレジリエンスを促進するケアガイドラインと教育プログラムの構築
大学院特任講師	李 賢珠	ハワイ大学大学院 (University of Hawaii at Manoa) 博士課程修了	Ph.D (Anthropology) (University of Hawaii at Manoa)	Professional writing	Anthropology of disaster Anthropological perspectives in nursing

○社会福祉学部 社会福祉学科

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教授	杉原 俊二	香川医科大学大学院医学研究科環境生態系専攻博士課程	博士(医学) (香川医科大学)	心理学理論と心理的支援、実践記録法、発達と老化の理解、面接技法	ナラティブアプローチによる対人援助、自分史分析とその応用
教授	田中 きよむ	京都大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学	経済学修士 (滋賀大学)	社会保障論、地域福祉論、福祉行財政と福祉計画、公的扶助論、権利擁護論	人間発達理論に基づく社会保障制度の再構築、「小さな拠点」を軸とする住民共生型地域づくりの形成要因と持続モデル 地域福祉計画に基づく住民主体の福祉型地域づくりの形成要因と発展プロセス
教授	長澤 紀美子	新潟大学大学院現代社会文化研究科博士後期課程修了	博士(学術) (新潟大学)	国際福祉論、現代社会と福祉、女性福祉論	欧米(特にイギリスを中心とした)介護政策の動向と国際比較 ケアまたは福祉サービスの行政評価・アウトカム評価 ジェンダー視点での性的少数者の人権擁護と支援
教授	西内 章	関西福祉科学大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程修了	博士(臨床福祉学) (関西福祉科学大学)	相談援助の基盤と専門職、事例研究法、相談援助実習指導	多職種連携を活用したソーシャルワークの展開方法に関する研究 エコシステム視座に基づくソーシャルワーク実践の支援ツールに関する研究
教授	丸山 裕子	大阪府立大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程修了	博士(社会福祉学) (大阪府立大学)	精神保健福祉援助技術総論、福祉研究法入門	ソーシャルワーク実践過程研究 ①ソーシャルワーク実践方法(利用者参加と地域生活支援)の開発 ②ソーシャルワーカーの実践的コンピテンスの開発
教授	宮上 多加子	高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程修了	博士(社会福祉学) (高知女子大学)	介護過程、認知症の理解	福祉分野の専門職養成教育とキャリア意識
教授	横井 輝夫	広島大学大学院保健学研究科保健学専攻修了	博士(保健学) (広島大学)	精神科リハビリテーション学、精神保健学、こころとからだのしくみ、発達と老化の理解	言語からみた認知症の人の理解
准教授	大松 重宏	ルーテル学院大学大学院総合人間学研究科博士後期課程単位取得退学	修士(社会福祉学) (ルーテル学院大学)	医療福祉論、保健医療サービス、相談援助実習指導	がん医療におけるピアサポートの意義 医療ソーシャルワーカーのためのスーパービジョン 入退院支援のための多職種連携と協働
准教授	鈴木 孝典	大正大学大学院人間学研究科博士後期課程福祉・臨床心理学専攻修了	博士(人間学) (大正大学)	精神保健福祉論、精神保健福祉援助実習指導	精神障害者の居住支援に関する研究 障害者ケアマネジメント従事者の養成に関する研究 障害者の地域相談支援の推進に関する研究
准教授	遠山 真世	東京都立大学大学院社会科学研究科博士課程修了	博士(社会福祉学) (東京都立大学)	障害者福祉論、社会調査の基礎、相談援助実習指導	障害者の雇用促進・就労支援に関する研究
准教授	西梅 幸治	京都府立大学大学院福祉社会学研究科博士後期課程修了	博士(福祉社会学) (京都府立大学)	相談援助の理論と方法、相談援助の基盤と専門職、相談援助実習指導	ソーシャルワークにおけるエンパワメント実践に関する研究 エコシステム視座に基づくコンピュータ支援ツールの研究
准教授	福間 隆康	広島大学大学院社会科学研究科博士課程後期マネジメント専攻修了	博士(マネジメント) (広島大学)	福祉対象入門、福祉援助入門、福祉サービスの組織と経営、相談援助実習指導	障害者雇用の組織マネジメントに関する研究
准教授	三好 弥生	高知県立大学人間生活学専攻博士後期課程修了	博士(社会福祉学) (高知県立大学)	介護過程、生活支援技術、医療的ケア、高齢者福祉論	高齢者の看取りに関する研究
講師	加藤 由衣	京都府立大学大学院福祉社会学研究科博士後期課程修了	博士(福祉社会学) (京都府立大学)	相談援助の理論と方法、児童・家庭福祉論、子育て支援論、相談援助実習指導	ソーシャルワークにおける省察的実践の研究
講師	河内 康文	高知県立大学人間生活学専攻博士後期課程修了	博士(社会福祉学) (高知県立大学)	介護の基本、コミュニケーション技術、障害の理解	介護人材の育成に関する研究
講師	辻 真美	松山大学大学院社会学研究科博士後期課程修了	博士(社会学) (松山大学)	介護の基本、認知症の理解、コミュニケーション技術、生活支援技術	訪問介護における労働特性と専門性に関する研究
講師	行貞 伸二	大阪府立大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程単位取得退学	修士(社会福祉学) (大阪府立大学)	社会福祉史、相談援助実習指導、相談援助演習	市民後見人の意識と役割に関する研究

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
助教	稲垣 佳代	高知女子大学大学院人間生活学研究科修士課程修了	修士(社会福祉学) (高知女子大学)	精神保健福祉援助技術各論、精神保健福祉援助実習指導	精神障害者の就労支援に関する研究
助教	大熊 絵理菜	高知県立大学人間生活学研究科人間生活学専攻博士前期課程	修士(社会福祉学) (高知県立大学)	医療ソーシャルワーク論、相談援助実習指導	医療ソーシャルワーカーのアセスメントに関する研究
助教	片岡 妙子	高知大学大学院総合人間自然科学研究科看護学専攻修了	修士(看護学) (高知大学)	医療的ケア、生活支援技術、介護技術、介護総合演習	介護福祉士による医療的ケア実施に関する研究
助教	雑賀 正彦	日本福祉大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程修了	修士(社会福祉学) (日本福祉大学)	コミュニティーソーシャルワーク、ケアマネジメント論、相談援助実習指導	中山間地域を抱えた小規模自治体における地域支援体制に関する研究 地域福祉実践に関する研究
助教	田中 眞希	高知女子大学大学院人間生活学研究科修士課程修了	修士(社会福祉学) (高知女子大学)	生活支援技術、介護総合演習、障害の理解	介護職員の現場教育とキャリア意識
助教	玉利 麻紀	大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学	修士(人間科学) (大阪大学)	対人関係とメンタルヘルス、精神保健福祉援助実習指導	精神障害者をはじめとする社会的マイノリティへの偏見軽減アプローチに関する研究
助教	福田 敏秀	鳥取大学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程修了	博士(保健学) (鳥取大学)	高齢者福祉論、対人関係とメンタルヘルス、相談援助実習指導	高齢者とその家族介護者支援に関する研究

○健康栄養学部 健康栄養学科

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教授	稲井 玲子	徳島大学大学院栄養学研究科修了	博士(農学) (愛媛大学)	栄養教育	食育を通しての体づくり(食品の機能性に関する研究)
教授	小林 淳	金沢大学大学院自然科学研究科修了	博士(学術) (金沢大学)	公衆衛生学、生化学、地域健康論、生化学実験、環境衛生学実習	環境汚染化学物質の動態把握、食品添加物の分析
教授	村上 尚	熊本大学大学院医学研究科中途退学	博士(医学) (徳島大学)	人体の構造と機能、疾病論、生体科学実験・実習	生活習慣病の細胞生物学的解析
教授	渡邊 浩幸	岩手大学大学院連合農学研究科修了	博士(農学) (岩手大学大学院)	食品学、食品機能学、食品衛生学	食品に含まれる機能成分の探索と機能評価 ①脂質代謝・エネルギー代謝に関する機能成分と評価 ②脳機能に関する機能成分と機能評価 ③食品の保存と加工
准教授	荒牧 礼子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学) (高知県立大学)	公衆栄養学、公衆栄養学実習、地域公衆栄養学臨地実習	画像認識による食事調査法に関する研究 勤労者世帯の生活習慣と指導効果に関する研究 若年成人の食物摂取に関する研究
准教授	鈴木 麻希子	岐阜大学大学院医学系研究科医科学専攻修了	博士(医学) (岐阜大学)	基礎栄養学、応用栄養学	加工食品中のリンの定量 食物アレルギー 翻訳後修飾(メチル化アルギニン)の生理的役割
准教授	西岡 道子	鳥取大学大学院連合農学研究科修了	博士(農学) (鳥取大学)	調理学、調理学実習	加熱調理における魚介類のビタミンB ₁₂ について 調理における野菜の葉酸含量について
講師	島田 郁子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学) (高知県立大学)	給食経営管理	地域食材を活かしたレシピ作成・PR方法 学生を対象にした災害時の備え教育 高齢者の給食喫食率向上の試みー肉軟化剤等による検討ー
講師	竹井 悠一郎	徳島大学大学院栄養生命科学教育部人間栄養科学専攻博士後期課程修了	博士(栄養学) (徳島大学)	臨床栄養学	①動脈瘤の発症予防を目指した医学・栄養学研究 ②炎症性腸疾患の発症機序解明と治療を目指した医学・栄養学研究 ③慢性閉塞性肺疾患(COPD)の発症機序解明と治療を目指した医学・栄養学研究 ④高齢者の健康を守る食事と運動のアプローチ
講師	廣内 智子	高知県立大学大学院人間生活学研究科博士後期課程修了	博士(生活科学) (高知県立大学)	臨床栄養学実習	災害時の栄養管理について
助教	隅田 有公子	高知女子大学人間生活学研究科人間生活学専攻博士前期課程修了	修士(学術) (高知女子大学)	臨床栄養学実習等	経腸栄養剤の粘性付加に関する検討
助教	竹本 和仁	武庫川女子大学大学院生活環境学研究科食物栄養学専攻博士後期課程修了	博士(食物栄養学) (武庫川女子大学)	栄養学実験、生化学実験	食物アレルギー、高知県の伝統食品の機能性の検索
助教	生川 卓弘	名古屋学芸大学大学院栄養科学研究科博士前期課程修了	修士(栄養科学) (名古屋学芸大学)	地域公衆栄養学実習、地域公衆栄養学臨地実習、健康情報論実習	食用カンナ葉部の化学的・栄養学的特性
助教	沼田 聡	徳島文理大学大学院人間生活学研究科食物学専攻博士前期課程修了(論文により博士号取得)	博士(学術) (徳島文理大学)	給食経営管理実習、給食経営管理臨地実習、応用栄養学実習、環境衛生学実習、地域実践栄養学臨地実習	1型糖尿病関連自己抗体に対する超高感度酵素免疫測定法の開発 卵白アレルギーに対する超高感度酵素免疫測定法の開発
助手	彼末 富貴	高知女子大学家政学部食物栄養学科卒業		調理学実習、生体科学実験・実習	土佐の伝統食

【地域教育研究センター】

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
教授	石山 貴章	高知女子大学大学院健康科学研究所博士後期課程修了	博士(社会福祉学) (高知女子大学)	教育心理学、発達心理学、教育方法論、生徒指導論、教育相談論、特別支援教育概論、教育実習、介護等体験	特別支援教育の授業づくり 障害者の就労支援に関する研究 心理検査/発達検査におけるアセスメントと支援アプローチ
教授	一色 健司	京都大学大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学	理学博士 (京都大学)	基礎化学、地球の科学	環境水中の微量元素を指標とした環境動態の解明 微量元素の超高感度分析法・存在状態の解析法の開発
教授	清原 泰治	筑波大学大学院修士課程体育研究科修了	体育学修士 (筑波大学)	健康スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ、地域学実習Ⅰ・Ⅱ、健康とヘルスポモーション	日本のスポーツ産業の発展史 明治期における地域の自主的運動団体に関する研究 1950～1970年代の高知県における市町村民運動会の社会的機能に関する研究 高知県の中山間地域の活性化と大学教育
教授	鈴木 康郎	筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得満期退学	教育学修士 (筑波大学)	教育原理、教師論、道徳教育論、人権教育に関する科目、地域学実習	多文化社会におけるマイノリティの文化・教育問題とその改善に向けた教育のあり方に関する理論的・実証的研究 グローバル化の進展により公教育そのものが変容を迫られている状況に着目した基礎教育改革に関する研究 アジアにおける小学校英語教育の実施状況や多様な価値の共存に向けた道徳教育に関する国際比較研究 ポードースタディーズの手法を用いた国境地域における教育交流の実態に関する研究

【総合情報センター】

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
准教授	風間 裕	北海道大学大学院理学研究科博士課程修了	理学博士 (北海道大学)	物理学通論、量子物理学	コンピュータを用いた物理学の教材開発 軽い核の構造解析
助教	名和 真一	京都大学大学院理学研究科博士後期課程単位取得退学	理学博士 (京都大学)	情報処理概論、コンピュータリテラシー	核力と量子色力学(QCD) 計算機物理

【健康長寿センター】

職名	氏名	最終学歴	学位(大学名)	主たる担当科目	現在の研究テーマ
特任准教授	森下 幸子	高知女子大学大学院看護学研究科修士課程修了	修士(看護学) (高知女子大学)	訪問看護、在宅看護援助論、在宅看護実習、臨床看護論Ⅰ	新卒訪問看護師育成と学習支援者の期待不一致を解決する学習支援プログラムの構築 組織学習を支える訪問看護管理者のコンサルテーション力を高める教育支援の研究
特任助教	山本 かよ	高知県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了	修士(看護学) (高知県立大学)	訪問看護	コロナ禍における新任訪問看護師育成研修に関する研究

(2) 大学院

○看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）

領域	職名	氏名	主たる担当科目
—	教授	畦地 博子	看護理論と実践、看護研究と実践、共創看護学セミナーほか
—	教授	池添 志乃	看護理論と実践、看護学基盤論、学校保健研究ほか
—	教授	池田 光徳	病態生理学、フィジカルアセスメント特論、バイオメトリクス看護学演習ほか
—	教授	内田 雅子	ケア論、慢性看護ケア研究、慢性看護方法論、慢性看護学実践演習ほか
—	教授	瓜生 浩子	家族看護論、家族看護方法論Ⅰ・Ⅱ、家族看護学実践演習ほか
—	教授	大川 宣容	クリティカルケア看護方法論、クリティカルケア看護学実践演習ほか
—	教授	久保田 聡美	看護管理論、システム経営管理論、看護管理の動向と展望ほか
—	教授	神原 咲子	グローバルヘルス、最新専門看護実践講座Ⅰ・Ⅱ
—	教授	田井 雅子	精神看護方法論、精神看護展開論、精神看護学実践演習ほか
—	教授	竹崎 久美子	看護倫理、看護学基盤論、臨床倫理、老人看護ケア研究、老人看護論ほか
—	教授	時長 美希	地域看護論、看護学基盤論、地域ケア研究、地域保健学専門演習ほか
—	教授	中野 綾美	看護研究と実践、小児看護論、小児看護方法論Ⅰほか
—	教授	長戸 和子	家族看護論、家族看護方法論Ⅰ・Ⅱ、家族看護学実践演習ほか
—	教授	藤田 佐和	看護倫理、がん看護論、がん看護方法論、がん看護課題研究ほか
—	教授	森下 安子	在宅看護論、在宅看護展開論、在宅看護方法論、看護マネジメント論ほか
—	教授	森本 悦子	緩和ケア特論、がん看護方法論、がん看護実践演習ほか
—	教授	山田 覚	データ分析方法論Ⅰ、看護管理論、システム経営管理論、看護サービス管理論ほか
—	教授	渡邊 聡子	母性・助産看護ケア研究
—	准教授	内川 洋子	看護管理展開論、看護マネジメント論、看護教育学研究方法Ⅰ・Ⅱほか
—	准教授	飯高 伸五	学際的研究方法
—	准教授	川上 理子	在宅看護方法論、在宅看護展開論、在宅看護学実践演習ほか
—	准教授	木下 真里	グローバルヘルス、最新専門看護実践講座Ⅰ・Ⅱ
—	准教授	佐東 美緒	小児看護対象論、小児看護方法論、小児看護ケア研究ほか
—	准教授	高谷 恭子	看護研究と実践、小児看護論、こころの発達ほか
—	准教授	藤代 知美	精神看護展開論、精神看護学実践演習ほか
—	准教授	吉川 孝	学際的研究方法
—	講師	有田 直子	小児看護方法論、小児看護学実践演習、看護コンサルテーション論ほか

○看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）

領域	職名	氏名	主たる担当科目
—	教授	畦地 博子	理論看護学Ⅰ、看護学研究方法Ⅰ、看護倫理学、共創看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	池添 志乃	学校保健学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	池田 光徳	医学研究方法論、看護病態生理学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	内田 雅子	成人看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	瓜生 浩子	家族看護学Ⅱ
—	教授	大川 宣容	成人看護学Ⅱ
—	教授	田井 雅子	精神看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	竹崎 久美子	老人看護学Ⅰ・Ⅱ
—	教授	時長 美希	地域看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	中野 綾美	看護学研究方法Ⅰ、小児看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	長戸 和子	家族看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	藤田 佐和	理論看護学Ⅰ、看護倫理学、がん看護学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	教授	森下 安子	在宅看護学Ⅰ・Ⅱ
—	教授	森本 悦子	がん看護学Ⅱ
—	教授	山田 覚	看護学研究方法Ⅱ、看護経営管理学Ⅰ・Ⅱ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
—	准教授	吉川 孝	理論看護学Ⅱ
—	特任教授	野嶋 佐由美	理論看護学Ⅰ、看護学研究方法Ⅰ、看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

○看護学研究科共同災害看護学専攻（博士課程）

領域	職名	氏名	主たる担当科目
—	教授	山田 覚	災害看護活動論Ⅳ、インデペンデントスタディⅠ、災害看護ゼミナールAほか
—	教授	神原 咲子	理論看護学Ⅱ、災害看護活動論Ⅳ、インデペンデントスタディⅠ、災害看護ゼミナールAほか
—	教授	大村 誠	環境防災学Ⅰ
—	准教授	木下 真里	災害看護活動論Ⅳ、インデペンデントスタディⅠ、災害看護ゼミナールAほか
—	特任講師	李 賢珠	Professional writing

○人間生活学研究科人間生活学専攻（博士前期課程）

領域	職名	氏名	主たる担当科目
基礎	教授	石山 貴章	教育心理学特論
基礎	教授	清原 泰治	地域スポーツ論
基礎	教授	鈴木 康郎	教育学特論
基礎	准教授	吉川 孝	研究と倫理、文化学課題研究演習
栄養・生活学	教授	一色 健司	研究方法論Ⅰ、データ解析論、環境解析論、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	教授	稲井 玲子	食生活論Ⅰ・Ⅱ、食生活論演習
栄養・生活学	教授	小林 淳	栄養生活統計論、環境生態論、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	教授	村上 尚	臨床栄養学特論、健康動態論、栄養・生活特論Ⅰ、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	教授	渡邊 浩幸	研究方法論Ⅰ、食品生化学特論、食物科学論、栄養・生活学課題研究演習ほか
栄養・生活学	准教授	荒牧 礼子	栄養疫学論
栄養・生活学	准教授	鈴木 麻希子	栄養学特論、栄養・生活特論Ⅰ・Ⅱ、栄養・生活学課題研究演習
栄養・生活学	講師	竹井 悠一郎	臨床栄養学特論、栄養・生活特論Ⅰ
社会福祉学	教授	杉原 俊二	データ解析論、児童・家庭福祉論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教授	田中 きよむ	社会保障論、福祉行政論、地域福祉論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教授	長澤 紀美子	国際福祉論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教授	西内 章	研究方法論Ⅱ、ソーシャルワーク論、高齢者福祉論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教授	丸山 裕子	精神科ソーシャルワーク論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教授	宮上 多加子	介護福祉論Ⅰ・Ⅱ、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	教授	横井 輝夫	健康リハビリテーション論、福祉リハビリテーション論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	准教授	鈴木 孝典	研究方法論Ⅱ、障害者福祉論、精神保健福祉論、社会福祉学課題研究演習
社会福祉学	准教授	西梅 幸治	研究方法論Ⅱ、ソーシャルワーク論
社会福祉学	准教授	福岡 隆康	研究方法論Ⅱ、地域福祉論Ⅰ・Ⅱ
社会福祉学	准教授	三好 弥生	介護福祉論Ⅰ・Ⅱ
文化学	教授	五百蔵 高浩	英語文化論、英語教育学特論Ⅰ・Ⅱ、文化学課題研究演習ほか
文化学	教授	岩倉 秀樹	研究方法論Ⅲ、地域文化論Ⅳ
文化学	教授	大村 誠	地域文化論Ⅱ、文化学課題研究演習
文化学	教授	高西 成介	中国文化論
文化学	教授	橋尾 直和	日本文化論Ⅳ
文化学	教授	東原 伸明	研究方法論Ⅲ、日本文化論Ⅰ、文化学課題研究演習
文化学	教授	三浦 要一	地域文化論Ⅲ、文化学課題研究演習
文化学	教授	ヨース・ジョエル	日本文化論Ⅲ、国際日本学、異文化理解特論、文化学課題研究演習
文化学	准教授	金澤 俊吾	研究方法論Ⅲ、英語学特論Ⅰ・Ⅱ、英語言語文化論特論Ⅰ、英語教育実践研究Ⅰ
文化学	准教授	白岩 英樹	英語文化論Ⅱ、英語言語文化論特論Ⅱ
文化学	准教授	鳥飼 真人	英語圏文学特論Ⅰ、英語圏文化特論Ⅰ、英語教育実践研究Ⅱ

○人間生活学研究科人間生活学専攻（博士後期課程）

領域	職名	氏名	主たる担当科目
栄養・生活学	教授	大村 誠	地球環境解析学、特別研究
栄養・生活学	教授	村上 尚	健康動態学、特別研究
栄養・生活学	教授	渡邊 浩幸	食品機能学、特別研究
社会福祉学	教授	杉原 俊二	研究デザイン、児童・家族福祉学、障害者福祉学、特別研究
社会福祉学	教授	長澤 紀美子	国際福祉政策学、地域福祉学、特別研究
社会福祉学	教授	宮上 多加子	介護福祉学、地域福祉学、特別研究
文化学	教授	五百蔵 高浩	言語文化学Ⅱ、特別研究
文化学	教授	東原 伸明	言語文化学Ⅰ、特別研究
文化学	教授	三浦 要一	地域文化学Ⅰ、特別研究

(3)非常勤講師・臨床教授・客員教授

	職名	氏名	担当科目		職名	氏名	担当科目				
文化学部	非常勤講師	安藤 麻貴	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ	非常勤講師	非常勤講師	日高 千晴	人体の構造Ⅰ、Ⅱ				
		池 純子	中国語基礎Ⅰ・Ⅱ			平野 世紀	病態と治療Ⅱ				
		岩佐 和幸	グローバル平和論			福井 直樹	病態と治療Ⅰ				
		大谷 俊彦	書道			福永 一郎	地域保健政策				
		奥村 訓代	言語教育実践論Ⅰ			藤田 博一	心のしくみ				
		佐藤 亮輔	言語学概論			松本 務	在宅医療				
		シュテファン・フーク	ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ			三浦 悠作	病態と治療Ⅰ				
		溜 和敏	異文化コミュニケーション			南 晋	母性学				
		中村 茂生	観光文化論Ⅰ			宮澤 真理	小児と疾患				
		松吉 明子	英語ライティングⅠ			宮野 伊知郎	公衆衛生学				
		渡部 淳	日本文化論			宮本 寛	在宅医療				
		看護学部	非常勤講師			穴山 貴嗣	病態と治療Ⅰ	看護学部	臨床教授	明神 和弘	心のしくみ
新 良治	病態と治療Ⅱ			森田 聡美	母性学						
今井 利	病態と治療Ⅰ			山川 泰明	病態と治療Ⅱ						
浦田 知之	病態と治療Ⅰ			山本 寄人	母性学、助産学						
栄徳 勝光	健康管理論公衆衛生学			脇川 晃子	助産診断論						
大上 賢祐	病態と治療Ⅰ			小野 憲昭	臨床講義						
大西 広志	病態と治療Ⅰ			島田 安博	医療と経営						
岡林 雄大	病態と治療Ⅱ			杉本 清治	臨床講義						
岡本 宣人	病態と治療Ⅱ			多田 邦子	臨床講義						
岡谷 恵子	看護と政策			田鍋 雅子	医療と経営						
尾崎 和秀	病態と治療Ⅱ			中島 信恵	地域保健政策、医療と経営						
金澤 亜錦	小児と疾患			西岡 明人	臨床講義						
上村 直人	心のしくみ			西田 武司	臨床講義						
川添 哲嗣	在宅医療			林 和俊	母性学、助産学						
川原 由佳里	医療史			福井 康雄	医療と経営						
吉川 清志	小児と疾患			森田 荘二郎	医療と経営						
熊田 孝恒	行動科学			吉永 恵子	臨床講義						
非常勤講師	非常勤講師			小島 優子	生命の科学と倫理	社会福祉学部	非常勤講師			奥谷 文乃	人体の構造と機能及び疾病
				小松 淳子	母性学助産学					加藤 誠之	更生保護制度
				小松 利広	微生物学					谷口 睦男	人体の構造と機能及び疾病
				是永 正敬	微生物学					関 草路	生活支援技術Ⅳ
				齋藤 源顕	薬理学					玉里 恵美子	社会理論と社会システム
				佐々木 潔	小児と疾患					山崎 正雄	精神医学
				澤田 健	心のしくみ					片山 訓博	運動生理学
			清水 孝洋	薬理学	河野 俊夫			フードシステム学			
			下嶽 ユキ	公衆衛生学	高野 康夫			人体の構造と機能			
			十萬 敬子	医療と経営	宮澤 公栄						
			菅沼 成文	健康管理論公衆衛生学	山之内 大						
			非常勤講師	非常勤講師	高橋 美枝			病態と治療Ⅰ	共通教養教育科目	非常勤講師	池谷 江理子
	高島 大典				病態と治療Ⅱ	荻沼 一男	基礎生物学、土佐の自然と暮らし				
	谷口 睦男				人体の機能Ⅰ、Ⅱ	片田 一義	英語コミュニケーション				
	土本 啓嗣				小児と疾患	北川 泰生	英語コミュニケーション				
	土山 芳徳				病態と治療Ⅱ	サイモン・クインラン	英語コミュニケーション				
	手島 恵				看護学の動向と課題	駒井 説夫	健康スポーツ科学				
	土井 彰				病態と治療Ⅰ	竹下 誠一	地域メディア論				
	砥谷 和人				病態と治療Ⅰ	ステイブン・チャー	英語コミュニケーション				
	所谷 知穂				小児と疾患	常行 泰子	健康スポーツ科学				
	永井 立平				助産学	中川 ふさ	英語コミュニケーション				
	中田 裕生				小児と疾患	中嶋 紀子	英語コミュニケーション				
	永野 志歩				心のしくみ	野中 陽一朗	心理学				
	永野 史翔		小児と疾患	福江 等	英語コミュニケーション						
西内 律雄	小児と疾患、病態と治療Ⅱ		福住 紀明	心理学							
西山 充	病態と治療Ⅱ		シヨーン・ブルゴワーン	英語コミュニケーション							
東 洋一郎	薬理学										

	職名	氏名	担当科目		職名	氏名	担当科目
共通教養教育科目	非常勤講師	ジョナサン・ヘルムリンガー	英語コミュニケーション	看護学研究科看護学専攻(博士前期課程)	非常勤講師	浦田 知之	慢性疾患診断治療学Ⅰ、在宅療養診断治療学Ⅰ
		別役 和利	英語コミュニケーション			池田 幸雄	慢性疾患診断治療学Ⅰ
		ミケランジェロ・マガシク	英語コミュニケーション			西田 武司	クリティカルケア診断治療学Ⅱ
		松吉 明子	英語コミュニケーション			西村 裕之	クリティカルケア診断治療学Ⅱ
		宮本 祥子	英語コミュニケーション			盛實 篤史	クリティカルケア診断治療学Ⅱ
		宮本 隆信	健康スポーツ科学			竹内 慎哉	クリティカルケア診断治療学Ⅱ
		谷地森 秀二	土佐の自然と暮らし			明石 恵子	クリティカルケア看護論Ⅱ
		吉田 祐子	英語コミュニケーション			土本 啓嗣	小児診断治療学Ⅰ
教職課程	非常勤講師	鹿嶋 真弓	特別活動論、教育の方法と技術及び総合的な学習の時間の指導法、生徒指導の理論と方法及び特別活動の指導法	非常勤講師	金澤 亜錦	小児診断治療学Ⅰ	
		福石 賢一	教育課程論		中田 裕生	小児診断治療学Ⅰ	
		山下 文一	教育カリキュラム開発論		西内 律雄	小児診断治療学Ⅰ	
看護学研究科看護学専攻(博士前期課程)	非常勤講師	鈴木 志津枝	看護学の動向と展望	非常勤講師	栗田 佳彦	小児診断治療学Ⅰ	
		常風 興平	臨床薬理学		宮澤 真理	小児診断治療学Ⅰ	
		宮村 充彦	臨床薬理学		所谷 知穂	小児診断治療学Ⅰ	
		森田 靖代	臨床薬理学		須藤 康彦	精神診断治療学Ⅱ	
		吉岡 三郎	臨床薬理学		遊佐 安一郎	家族療法	
		柳林 信彦	看護教育論Ⅰ		永野 啓輔	老年病診断治療学Ⅰ	
		小寺 栄子	看護教育論Ⅱ		山田 光俊	老年病診断治療学Ⅰ、在宅療養診断治療学Ⅰ	
		尾形 裕也	保健医療政策と経済Ⅰ		吉本 啓一郎	老年病診断治療学Ⅰ	
		岡谷 恵子	保健医療政策と経済Ⅱ、看護学の動向と展望		星 且二	保健学研究	
		NGATU NLANDU Roger	疫学研究方法論		田上 豊資	保健学研究	
	非常勤講師	熊田 孝恒	学際的研究方法	非常勤講師	川口 孝泰	イノベーション看護学	
		島田 安博	がん診断治療学		中込 さと子	イノベーション看護学	
		西岡 明人	がん診断治療学		中山 洋子	理論看護学Ⅱ	
		根来 裕二	がん診断治療学		大田 えりか	国際看護学	
		光岡 妙子	がん診断治療学		室崎 益輝	災害社会福祉学	
		秦 康博	がん診断治療学		丸岡 利則	社会福祉言論	
		武田 祐子	がん看護論		田中 英樹	社会福祉計画論	
		高橋 美枝	慢性疾患診断治療学Ⅰ、在宅療養診断治療学Ⅰ				

IV 教育及び研究

1 学部・大学院の概要(3つの方針)

【学部】

○文化学部

ディプロマ・ポリシー

人文・社会系諸科学の知識を身につけ、多様な社会や文化を理解し、豊かな共生社会の実現、新たな文化の創造及び自律した自己の成長を追求することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身につけ、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。
2. 言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。

(汎用的・実践的スキル)

3. 社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身につけている。
4. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身につけている。

(態度・志向性)

5. 豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。
6. 社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

7. これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造することに貢献するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

文化学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形

式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

専門教育科目には、学部共通科目と学部専門科目を置く。

(カリキュラムの構造・教育内容)

- (1) 学部での学びの基礎的能力及びコミュニケーション能力を身につけるためのリテラシー科目、学部教育の基礎となる知識を身につけるためのエッセンシャル科目、就業力を高めるためのキャリア形成科目から成る学部共通科目を設置する。
- (2) 人文・社会系諸科学の専門的知識を幅広くかつ体系的に体得するために、言語文化系(英語学領域、国際文化領域、日本語学領域、日本文学領域)、地域文化創造系(地域文化領域、地域づくり領域、観光文化領域、観光まちづくり領域、現代法文化領域、生活法文化領域)、文化総合系(言語文化系及び地域文化創造系の教育内容を総合的に学ぶ)の3つの系から成る学部専門科目を設置する。
- (3) 専門的な知識・理解をより深め、専門的な研究手法を学ぶために各領域に専門演習を設置し、また、学部教育で体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、必要な情報の収集とその的確な整理・分析を通じて、能動的かつ自律的に現代社会の諸問題を発見し、これを解決する能力を養うために課題研究ゼミナールを設置する。
- (4) この他、中学校・高等学校(国語、英語)の教職課程を設置する。

(履修方法・順序)

学部共通科目は、主に1、2年次に履修する。学部専門科目は、主に2～4年次に履修する。各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、3、4年次に履修する。

(教育方法)

学部共通科目及び学部専門科目では、学生が能動的に学習するよう多様な教育方法を取り入れる。学部共通科目の基礎演習、各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、少人数による演習形式で行い、課題研究ゼミナールでは学部教育の集大成として卒業研究を仕上げる。

(評価)

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の達成目標を定め、達成目標及び成績評価の基準・方法を学生に周知し、それに基づいて成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果も踏まえて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

文化学部は、人文・社会系諸科学による多角的な文化研究により人間・社会に対する理解を深め、文化の批判的継承を通して豊かな人間性と主体的に行動し得る能力を培い、地域文化の創造と向上に資するとともに、真に豊かな共生社会の実現に向けて国際的に貢献できる市民を養成します。

したがって、文化学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 人文・社会系諸科学を理解する上で必要な基礎的素養、すなわち高等学校等で履修する主要な教科に関する十分な基礎学力を有している人〔知識・理解〕

2. 高等学校等で履修した幅広い基礎的素養を基に、物事を論理的に思考・判断し、これを言語によって適切に表現する能力を備えている人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 人間・社会に広く関心を持ち、言語、地域、観光、法学などの視点から人文・社会系諸科学の専門的知識を身につけたいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
4. 人間に対する理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を体得し、現代社会の諸課題を主体的に発見・分析・解決するために必要な学習に意欲のある人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
5. 将来、地域社会・国際社会の幅広い分野で豊かな共生社会の実現に向けて活動したいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

■文化学部[言語文化系／地域文化創造系]が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜、3年次編入学選抜があります。

・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストと小論文を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、外国語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目(又は4科目)を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力、表現力を総合的に評価します。

・一般選抜(後期日程)

大学入学共通テストと面接を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、英語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目(又は4科目)を課します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、課題に対する基礎的知識を総合的に評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験と面接を課します。日本留学試験では、文化学部で学ぶ上で必要な基礎的能力を評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学

ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容、TOEIC の結果も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

■文化学部[文化総合系(夜間主コース)]が行う入学者の選抜方法には、学校推薦型選抜(県内)、社会人選抜、3年次編入学選抜があります。

・学校推薦型選抜(県内)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、面接を課します。口頭試問を含む面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書・志望動機書も参考にして質問します。

・社会人選抜(A日程・B日程)

社会人経験を有する者又は就業しながら勉学する意思がある者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

○看護学部

ディプロマ・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を獲得することを目指し、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 専門的知識、技術、科学的論理性及び倫理的判断に基づいて、保健・医療・福祉などのあらゆる場で看護を実践することのできる能力を有している。

(汎用的・実践的技能)

2. 人間の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重して、コミュニケーションを取りながら他者と関係性を築くことのできる能力を有している。
3. 地域の健康課題を予測し、リーダーシップを発揮して多職種と協働しながら健康課題を解決することのできる能力を有している。

(態度・志向性)

4. 看護専門職者としてのアイデンティティを培い、生涯にわたって専門性を高めることのできる能力を有している。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

5. 看護の質の向上に資する研究をすることができる基礎的な能力を有している。
6. 国際的及び学際的見地に立って看護学を理解することのできる能力を有している。
7. 看護の専門性を活かして、地域で生活する人々の健康と安全・安心な社会を創造することのできる基礎的な能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。
- (4) 共通教養教育科目により、看護の対象である人間を総合的に理解し、グローバルにものごとや社会を捉える能力、豊かな人間性と感受性を培う。

2. 専門教育科目

専門教育科目は、看護を展開する上で必要となる専門的知識、技術、科学的思考、問題解決能力、国際性・学際性を修得するために、「専門基礎科目」「看護基礎科目」「看護臨床科目」「総合科目」を置く。

(カリキュラムの構造・教育内容)

- (1) 専門基礎科目は、人間の健康と疾病の成り立ちや治療に関する専門的知識や、個人・家族・地域の連続性の中で人々の健康を理解するための知識の修得を目指した科目を置く。
- (2) 看護基礎科目は、看護学の概念や基礎的な知識を学び、看護の対象理解、看護者としてのものの見方や考え、看護技術の修得を目指した科目を置く。
- (3) 看護臨床科目は、共通教養教育科目、専門基礎科目、看護基礎科目での学びを基盤とする人間の総合的な理解をふまえ、人々の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重しながら、科学的思考、問題解決能力を用いて健康問題を解決し、健康的な生活の向上をはかるための看護を展開する能力を養うことを目指

した科目を置く。

- (4)総合科目は、看護専門職者としてのアイデンティティを培うとともに、地域の健康課題を予測し、主体的、積極的に学ぶ姿勢を持ち、国際的・学際的見地に立って、研究的な視点で看護の本質を探究していく基礎的能力を養うための科目を置く。

(履修方法・順序)

- (1)入学後早期より、看護学への関心を高め、専門的知識と技術を修得するための看護基礎科目と、看護の対象である人間を理解する基礎となる知識を修得するための専門基礎科目を平行して学びながら、学年進行に従って基礎から応用へと専門性を深めることができる構成とする。
- (2)看護基礎科目、専門基礎科目を基盤として、人間の発達段階や健康レベル、個と集団など多様な対象への看護を展開する能力を修得するために、看護臨床科目では各専門領域の看護に関する知識と技術を学び、臨地実習科目で応用、統合できる構成とする。
- (3)学内で学んだ知識、技術を体系的に実践に活かすことができるように、臨地実習科目の履修にあたっては、履修要件を設ける。
- (4)看護専門職者として主体的に学ぶ姿勢と倫理観を養うことができるように、4年間を通して、総合科目を配置する。また、4年次には、看護基礎科目、専門基礎科目、看護臨床科目での学修を通して学んだ知識と技術を統合し、より深い専門性と看護の本質を探究する能力を修得できるように、総合看護実習や看護研究などの総合科目を配置する。

(教育方法)

- (1)本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を、学生が将来を見据えて修得できるように、『看護学部のカリキュラム構成図』『看護学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。
- (2)本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、多彩な教育方法を用いる。事前課題、事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。さらに、学生が知識を活用して分析し判断する力、知識と技術を統合し適切な看護ケアを考え実践する能力を高めるために、シミュレーション教育、少人数教育を行う。科学的論理的思考、新たな看護の知を創造する力を養うために、グループで看護研究を行う。また、学生が主体的に自己学習できるように、教育環境を整える。

(評価)

各講義科目・演習科目・実習科目では、本学部のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標及び成績評価の方法・基準を、授業概要・実習要項により周知し、評価を行う。卒業時には、ディプロマ・ポリシーに基づいて評価を行う。さらに学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を持った人材を養成します。

したがって、看護学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 幅広い文系・理系の基礎的学力をもつ人〔知識・教養〕
2. 人間、生活、社会を深く理解する力をもつ人〔思考力・判断力〕
3. ものごとを論理的に考える力をもつ人〔思考力・判断力〕
4. 生涯にわたって学び続ける力をもつ人〔関心・意欲〕
5. 自分で課題を発見し、計画を立て積極的に取り組む力をもつ人〔主体性〕
6. 他者を尊重し、協働してものごとに取り組む力をもつ人〔実行力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

看護学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査(小論文、面接)により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜(後期日程)

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査(面接)により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜(県内)

学校長が推薦する者を対象として、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接により看護を学ぶ上で必要な基礎的学力と、人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と、社会的経験を通して培った能力を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験により日本の大学で看護学を学ぶ上で必要な日本語能力と基礎的学力を、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と日本語による口頭でのコミュニケーション能力を総合的に評価します。

○社会福祉学部

ディプロマ・ポリシー

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
2. 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

(汎用的・実践的技能)

3. 多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
4. コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

(態度・志向性)

5. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
6. ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

7. 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
8. 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

(カリキュラムの構造・教育内容)

専門教育科目については、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだどこの理解科目」を置いて

いる。基礎及び応用段階に属する科目群として、「相談援助基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「相談援助実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

(履修方法・順序)

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域における相談援助に必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

(教育方法)

各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

(評価)

学部の理念・目標に基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
2. 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕
4. 地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
5. 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜(前期日程)

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜(後期日程)

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己 PR 書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

○健康栄養学部

ディプロマ・ポリシー

豊かな教養と社会の諸問題に取り組む態度を身につけ、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できることを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 広範な学問領域における教養を身につけることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域社会の特性を理解することができる。
2. 健康の保持増進、傷病の予防・回復のために必要な栄養学的知識と技術、指導方法を修得している。

(汎用的・実践的技能)

3. 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、提案することができる。
4. 管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力を身につけている。

(態度・志向性)

5. 栄養や食生活の専門家として、知識や技術を高めるよう生涯にわたって努力することができる。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

6. 公衆衛生を理解し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる。
7. 健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養教育、食生活指導を行うことができる。

カリキュラム・ポリシー

健康栄養学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

国際性及び社会性を持った管理栄養士を養成するために、「基礎科目」「専門基礎分野」「専門分野」の3科目群を置く。それぞれの科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置する。

(カリキュラムの構造・教育内容)

- (1) 基礎科目の科目については、他の専門教育科目を履修する上で必要な予備知識や基礎学力を向上させるための補完科目として設置する。
- (2) 専門基礎分野の科目については、専門分野における知識や技術を修得するための基盤を身につけるために設置する。専門基礎分野を3つの科目群に分け、それぞれ「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」を教育内容として位置づける。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目群によって、人間や生活についての理解を深めさせ、「社会・環境と健康」の科目群によって、社会や環境、健康と食生活について理解させる。
- (3) 専門基礎分野の中に、それぞれの教育内容の理解を深めるとともに必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
- (4) 専門分野の科目については、様々な領域において管理栄養士や栄養教諭としての専門性を高めるために設置する。専門分野を主に6つの科目群に分け、それぞれ「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」を教育内容として位置づけるとともに、専門分野を横断して、栄養評価や栄養管理が行える総合的な能力を養うことを目的とした「総合演習」科目を設置する。

- (5) 専門分野の中に、管理栄養士として必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
- (6) 専門分野の「実験・実習」科目の中に「臨地実習」科目を設置し、実践活動の場で課題を発見し、それを解決することを通して、他者とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけるとともに、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
- (7) この他、企業や公共団体等において、その事業内容に応じた社会体験を行う「企業実習」と、一連の研究プロセスを経験することで、課題を解決する能力を身につけるための「卒業研究」を設置する。

(履修方法・順序)

- (1) 基礎科目は、1年次に履修する。
- (2) 専門基礎分野のうち「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目は、主に1、2年次に履修する。「社会・環境と健康」の科目は、主に3年次に履修する。
- (3) 専門分野の科目については、主に2、3年次に履修する。
- (4) 専門分野の「臨地実習」科目は、3年次に履修する。
- (5) 「企業実習」と「卒業研究」は、4年次に履修する。

(教育方法)

- (1) 専門教育科目に、共通教養教育科目のうちの必修科目と履修を推奨する選択科目を加えた「健康栄養学部カリキュラム構成図・履修モデル」「健康栄養学部履修モデル(栄養教諭)」を提示し、履修指導を行う。
- (2) 「実験・実習」科目以外の基礎科目、専門基礎分野、専門分野の科目は、事前・事後課題を与える他、グループワークや演習等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

(評価)

各授業科目では、達成目標を定め、達成目標並びに成績の評価方法と評価基準を学生に周知し、それに基づき成績を評価する。学生の「授業評価アンケート」による授業評価と、卒業前に行う「管理栄養士専門的能力到達度アンケート」による学生の自己評価の2つの評価に基づいてカリキュラムの評価・改善を図ることで、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

健康栄養学部は、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できる栄養や食生活の専門家を養成することを目的としています。

したがって、健康栄養学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 地域社会や人間、健康そして「食」に対して興味・関心を持ち、さらにこれらを探求する意欲のある人〔関心・意欲〕
2. 物事に主体的かつ積極的に取り組む姿勢をもつ人〔主体性〕
3. 健康栄養学部の専門分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき理系科目も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人〔知識・教養〕
4. 幅広い視野と柔軟な感性を有し、今までの知識・教養をもとに論理的な思考によって適切に判断できる人〔思考力・判断力〕
5. 社会の一員であることを自覚し、他人の立場にたって考えることができ、コミュニケーション能力がある人〔表現力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

健康栄養学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストの国語・数学・理科・外国語を課すとともに、個別学力検査等では、面接を行います。面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表(プレゼンテーション)します。面接者は、調査書も参考にして質問し、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。

・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接により健康栄養学部で学ぶ上で必要な知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。なお、面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表(プレゼンテーション)します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、学校推薦型選抜や一般選抜同様、プレゼンテーション形式の面接を行うとともに、高等学校等までの理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うことで、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、大学での学習に必要な基礎的な日本語能力と数学や理科の知識を評価するために日本留学試験を用います。面接では、理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うとともに、日本語によるプレゼンテーション形式の面接を行います。面接者は、日本留学試験の日本語「記述」答案や志望動機書も参考にして質問します。これらにより、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

【大 学 院】

○看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護分野における研究能力を養うことを目的とする。

1. 個人-家族-地域を多角的、複眼的視点で捉え、看護専門領域に関する理論、関連領域の知識・技術、高い倫理観を基盤として、エビデンスに基づく高度な看護実践ができる能力を有している。
2. 地域社会や生活環境の中で、人々が自立して健康生活を営むことができるように、地域の人々と協働して、健康を促進する地域文化の形成・発展に貢献できる能力を有している。
3. 社会のニーズや健康に関する課題に積極的に関与し、他の職種の専門性を尊重した上で協働しながら社会状況に対応する方略を開発する能力を有している。
4. 学際的視点をふまえて看護実践の場、教育や政策の場で看護現象を研究的視点でとらえ、論理的思考力、リーダーシップとマネジメント力を発揮して変革者として貢献できる能力を有している。
5. 看護実践を支える科学的・哲学的基盤を理解し、看護研究を通して、看護学の体系化とその発展に貢献できる教育・研究能力を有している。
6. 国際的動向や多様な文化に関する幅広い知識や最新の情報を備えて、看護をグローバルな視点から捉え、看護の普遍性の追求と体系化に貢献できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を養うために、教育理念に基づき、高度実践看護師(以下 CNS)コース、研究コース、及び実践リーダーコースを設け、以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成している。

(構造・内容)

1. カリキュラムを構成する科目群として「共通科目(大学院共通科目・専攻共通科目)」と「領域専門科目」の科目群をおく。
2. CNS コースは、がん看護学、慢性看護学、クリティカルケア看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学の8領域を設け、各領域で必要な講義・演習・実践演習・課題研究を含む、専門看護師認定試験受験に必要な科目をおく。
3. 研究コースは、共創看護学、成人看護学、小児看護学、家族看護学、地域看護学、看護管理学の6領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む専門科目をおく。
4. 実践リーダーコースは、臨床看護学と地域保健学の2領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む科目をおく。
5. 認定看護管理者認定審査受験、養護教諭専修免許、高等学校教諭(看護)専修免許に必要な科目をおく。

(順序性)

6. 1年次は看護学の学術的基盤を形成するために CNS コース、研究コース、実践リーダーコースともに共通科目を学修するように配置し、1年次後半から2年次は専門性を高める領域専門科目、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を獲得する科目を配置する。

(教育方法)

7. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生の将来ビジョンに向けて修得できるように、CNS コース、研究コース、実践リーダーコースの履修モデルを提示し、履修指導を行う。
8. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、実習、研究指導を行う。事前・事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング、シミュレーション等により、学生が主体的に学ぶ方法、専門性を高める方法を取り入れる。
9. 実践リーダーコースは、大学院設置基準第 14 条特例に基づくコースで、授業は原則、土曜日・日曜日に開講する。

(評価方法)

10. 各講義科目・演習科目・実習科目では、前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準をシラバスや実習要項により周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価(論文審査・最終試験)を行う。
11. 修了時には学生によるディプロマ・ポリシーの達成度、修士課程で修得すべき能力の評価、カリキュラム評価を行い、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質保証を行う。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って、精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を有する人材を育成します。

したがって、博士前期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 看護理論や看護研究に対する基礎的知識と科学的思考力をもつ人
2. 専門的知識・技術に基づき看護を展開する能力をもつ人
3. 看護学を創造していくために必要な自らの看護観・人間観・倫理観をもつ人
4. 看護現象を多面的に捉え、看護学を探究する力をもつ人
5. 生涯にわたって高度実践看護職者・教育者として、研鑽し続ける力をもつ人
6. 社会の変化や健康課題についての問題意識をもち、保健医療福祉や看護学教育を革新したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程の入学試験は、「英語」「小論文」「専門科目」「面接」の試験を行い、以下の能力を総合的に評価します。

英語: 英文の読解能力と設問の内容を的確に把握し、解答する能力について評価します。

小論文: 看護学の発展に寄与する基礎的能力と看護に対する専門職業人としての能力(看護に関する志向性を含む)について評価します。

専門科目: 基礎的理解力、科学的思考力、看護の専門的能力(専門的知識、基礎的実践能力)及び社会や健康に関わる課題に対する問題意識について評価します。

面接: 看護専門職業人としての能力、基礎的な知的能力及び研究を遂行していく能力について評価します。実践リーダーコースにおいては面接時に提出された研究計画書を活用します。

○看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うことを目的とする。

1. 看護の学識者としての責務を果たし、看護学の発展の基盤となる普遍性を有する看護哲学を追求し続ける能力を有している。
2. 看護学の学術的な基盤を発展させるために、グローバルスタンダードで看護学の知識や技術を研究開発し、看護学にイノベーションをもたらす能力を有している。
3. 最新の看護学の知識や技術、看護関連分野の知見等を活用し、倫理的・文化的基盤を持って人や社会に貢献するケアの開発に取り組み、人々の安心な生活の実現や QOL の向上を推進していくことのできる能力を有している。
4. 看護学を発展させ新たな知見を創生する研究活動を行い、社会に向けて提言できる能力を有している。
5. 国内外の専門職と連携して、政策開発や意思決定に参加し、健康医療福祉システムの構築や変革をもたらす能力を有している。
6. 科学的・学際的な基盤を持って人々の健康生活や健康文化を創造することに寄与する、次世代の高度実践看護者を養成する高等教育を担う能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程では、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うために、教育理念に基づき以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成している。

(構造・内容)

1. カリキュラムを構成する科目群として、専攻共通科目、専攻専門科目および研究支援科目の科目群をおく。
2. 分野として、がん看護学、成人看護学、小児看護学、精神看護学、家族看護学、地域看護学、在宅看護学、学校保健学、共創看護学、看護病態生理学、看護経営管理学等の分野をおく。
3. 専攻共通科目は、看護学の学術的基盤を発展させ高度な研究能力を育成するためにおく。
4. 専攻専門科目は、新たな専門的知識の蓄積・精選・拡充などをはかり、特定の看護分野の専門性を構築する科目としておく。
5. 研究支援科目は、研究課題を探究し、段階的に博士論文作成のプロセスを支持する科目としておく。

(順序性)

6. 専攻共通科目と専門性に応じて専攻専門科目を選択し、コースワークを踏まえて、3年間にわたり看護学特別研究を履修できるように編成している。
7. 博士論文作成に向けて、1年次には研究計画書の提出、2年次には中間報告会の開催、3年次には一次審査論文の提出を課し、博士論文を提出するように編成している。

(教育方法)

8. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を修得できるように、履修モデルに基づき履修指導を行い、コースワークの推進、博士論文作成指導、学位審査等の教育のプロセスを支援する。
9. 研究能力を高めるために、入学時より主指導教員および副指導教員をおき、複数指導教員体制で博士論

文作成指導にあたる。

(評価方法)

10. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準を周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士課程で修得すべき能力の評価等(最終試験)を行う。
11. 博士論文は、主指導教員および副指導教員による研究計画書審査、倫理審査、中間報告会、公聴会を経て、博士論文審査基準に基づき学位審査委員会において審査を行う。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を有する人材を育成します。

したがって、博士後期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康や社会に対して探究する力をもつ人
2. 看護学の専攻分野の深い知識及び柔軟な発想力と想像力をもつ人
3. 看護学に関連する課題に関心をもち、課題解決に向けて研究を遂行する力をもつ人
4. 普遍性を追求し、看護学の発展に寄与する意志をもつ研究者・教育者を目指す人
5. 国際的、学際的見地から看護研究や看護学教育を通して社会に貢献したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程の入学試験は、「英語」「小論文」の筆記試験を行い、口述試験と提出された研究計画書をもとに、以下の能力を総合的に評価します。

英語: 英文の読解能力、設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価します。

小論文: 看護学の学術基盤や研究の発展に寄与する能力(看護の志向性を含む)と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性について評価します。

口述試験: 看護学の専門性、研究を進めていくために必要な能力を点数化して評価します。

研究計画書: 研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法、記述等について評価します。

○看護学研究科 共同災害看護学専攻 博士課程

ディプロマ・ポリシー

修了要件は、履修単位を50単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けて、博士論文の審査及び最終試験に合格することを定めています。審査においては、本課程の教育目的に対応した能力について総合的に評価を行い、修了要件を満たす者に博士(看護学)とし、(DNGL: Disaster Nursing Global Leader)を付記した、学位を授与します。

○人間の安全保障を理念として、いかなる災害状況でも「その人らしく健康に生きる」ことを支援することができる能力を有している。

○災害サイクル諸局面において「健康に生きるための政策提案」に取り組むことができる能力を有している。

- グローバルな視点から安全安心社会の実現に向けて、産学官との連携を築き、制度やシステムを変革できる能力を有している。
- 学際的な視点、国際的な視点から災害看護学を構築し、災害看護学を研究開発できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

豊かで高度な看護学専門知識を培い、学際的・国際的でグローバルな見識に基づいた研究を発展させ、特に災害看護学に関してその深奥を極め、人間の安全保障の進展に寄付する災害看護のグローバルリーダーを養成するために、教育目的に基づき以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成しています。

- カリキュラムは、災害看護学の基盤となる「看護学の基盤に関する科目群」「災害看護グローバルリーダーに必要な学際的な科目群」、災害看護学を学問として構築する能力を養うための「災害看護学に関する科目群」、災害看護学に関する専門的な実践や研究、グローバルリーダーとしての機能・役割を身につけるための「災害看護学演習」「災害看護学実習」および「災害看護学に関する研究支援科目群」の6つの科目群によって構成する。
- 学生が自分の関心や課題に沿って自律的に学び、グローバルリーダーとしての能力を培うことができるように、「災害看護学演習」および「災害看護学実習」の科目群に「インディペンデントスタディ」を科目として置く。
- 構成大学院(「高知県立大学大学院看護学研究科」「兵庫県立大学大学院看護学研究科」「千葉大学大学院看護学研究科」「東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科」「日本赤十字看護大学大学院看護学研究科」)は、学生が各構成大学院から10単位以上の履修ができるように必要な科目を開講する。
- 学修の課程で、その成果を確認するために Preliminary Examination と Qualify Examination を行う。
- 構成大学院の専任教員による研究指導体制の下で、災害看護学に関連する理論、高度な実践や研究についての知識を統合して災害看護学の「博士論文」を作成し、提出できるように編成している。

アドミッション・ポリシー

本大学院の理念・目的に基づき、次のような資質をもつ人材を受け入れます。

- 災害看護グローバルリーダーとしてのビジョンを持っている人材。
- 災害看護グローバルリーダーとしての活動にコミットメントでき、その能力を伸ばしていける人材。

※令和3(2021)年度から学生募集停止。

○人間生活学研究科 人間生活学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。

1. 共通ディプロマ・ポリシー

- 1) 専攻領域における研究遂行にとって必要とされる学術的知識を有している。
- 2) 専攻領域以外の領域にわたる幅広く深い学術的学識を有している。
- 3) 地域社会の特性を踏まえて追究すべき研究課題を発見することができる。
- 4) 地域社会をシステムとして捉えた研究を実践することができる。

- 5) 設定した研究課題を科学的視点で捉え、結論を導出することができる。
- 6) 研究を通じて得られた知見や技術を口頭または論文の形で共有化することができる。
- 7) 対象とする研究課題を自律的に遂行することができる。
- 8) 学問の体系化への貢献とあわせて実践的研究を志向し、得られた成果を地域社会に還元することができる。
- 9) 研究倫理についての的確に理解・遵守し学術研究活動を行うことができる。

2. 領域(学位名称)別ディプロマ・ポリシー

(1) 栄養・生活学領域 <修士(生活科学)>

- 1) 生活・栄養の分野における専門的な知識を人間の生活に関して焦点化することができる。
- 2) 地域における生活・栄養分野の課題を複雑系科学の視点で捉えるとともに、課題解決のための具体的方策を検証することができる。

(2) 社会福祉学領域 <修士(社会福祉学)>

- 1) 社会福祉の分野における専門的な知識と技術を人間の生活に関して焦点化することができる。
- 2) 地域における福祉分野の課題を科学的視点で捉えるとともに、ミクロ・メゾあるいはマクロの観点から課題解決のための具体的な方策を検証することができる。

(3) 文化学領域 <修士(学術)>

- 1) 文化研究における専門的な知識と技術を、人間の生活に関して焦点化することができる。
- 2) 設定した研究課題を人文科学的方法論または社会科学的方法論に則り検証することができる。

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。この目的のために、以下の方針に基づき本課程のカリキュラムを編成する。

1. 共通カリキュラム・ポリシー

(構造・内容)

1. カリキュラムを構成する科目区分として、「共通科目(大学院共通科目・人間生活学研究科科目)」「栄養・生活学領域科目」「社会福祉学領域科目」「文化学領域科目」「英語・領域教育コース科目」「栄養・領域教育コース科目」の科目群をおく。また、研究能力を総合的に養成するための研究指導科目として、領域ごとに「課題研究演習」をおく。
2. 栄養・生活学領域科目に「食物科学」「人間栄養学」「栄養・生活学」の科目群をおく。
3. 社会福祉学領域科目に「福祉専門基礎」「地域・国際福祉」「介護・高齢者福祉」「障害者福祉」「児童・家庭福祉」の科目群をおく。
4. 文化学領域科目に「地域文化」「日本文化」「英語文化」の科目群をおく。
5. 栄養・領域教育コース科目に「食物科学」「人間栄養学」「栄養・生活学」の科目群をおく。
6. 英語・領域教育コース科目に「英語・国際文化研究」の科目群をおく。

(順序性)

7. 研究の基礎的能力を修得させるため、1年次に共通科目の「研究と倫理」(必修)と「研究方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(選択必修)を履修させる。

(教育方法)

8. 学生の志望に従い、博士前期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行う。
9. 博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、研究指導をバランスよく行う。事前・事後課題、グループ討議、アクティブラーニングなどにより、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

(評価方法)

10. 講義や演習では、博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標や成績評価の方法・基準を周知し、評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価(論文審査・最終試験)を行う。
11. 学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいてカリキュラムの改善を図る。

2. 領域別カリキュラム・ポリシー

(1) 栄養・生活学領域 <修士(生活科学)>

栄養・生活学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、栄養・生活学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、栄養・生活学領域科目を中心に、共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
2. 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「栄養・生活学課題研究演習」を履修させる。

(教育方法)

3. 栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

(2) 社会福祉学領域 <修士(社会福祉学)>

社会福祉学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、社会福祉学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、社会福祉学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
2. 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「社会福祉学課題研究演習」を履修させる。

(教育方法)

3. 社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

導会を実施する。

(3) 文化学領域 < 修士(学術) >

文化学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、文化学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、文化学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目から履修させる。
2. 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「文化学課題研究演習」を履修させる。

(教育方法)

3. 文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、人間生活学に根ざした教育・研究を基盤とし、総合的な視座から地域社会の生活課題に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。このために、入学選抜の基本方針として、以下の資質を有する人を受け入れることとする。

求める学生像

1. 人間生活や地域にかかわる諸課題に関心を持ち、その究明・解決に向けて、強い目的意識や探究心をもって取組もうとする人
2. 課題に対して積極的に取組む熱意と主体的に学ぶ意欲、やり遂げる強い意志をもつ人
3. 専攻する領域に関する基礎となる知識と柔軟な思考力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程における入学選抜の出願区分として「一般」「社会人」及び「外国人留学生」をおく。選抜の基本方針は以下のとおりとする。

・一般(入試)

本区分は、大学を卒業した人及び当該年度に大学を卒業見込みの人などを受験対象者とする。選抜のための方法は、以下の2点によるものとする。

筆記試験: 小論文を課すことにより、設問内容の的確な把握と解答、解答内容と志望領域の専門性との整合性、文章表現力等について評価する。

口述試験: 「研究計画書」に基づく発表と質疑応答をおこない、本研究科への適性や研究を遂行する基礎的能力などについて評価する。本研究科への適性は、次のうちいずれか1つ以上に該当するかどうかで判断する。

地域課題解決に貢献しようと考えているか、高度な専門的力量を身につけたいと考えているか、志望領域の専門的な知識や経験を問題解決のために生かそうと考えているか、などである。

研究を遂行する基礎的能力は次の諸点で評価する。研究内容(目的・方法・期待される結果)及び研究の特色(新規性・独創性)を明確に把握しているか、志望領域の専門的な基礎知識があるか、などである。

・社会人(入試)

本区分は、大学を卒業した人などで、企業、官公庁、教育機関、研究機関及びその他各種団体での在職経験を有するまたは社会活動経験のある人で、かつ、受験者や受験者の研究テーマに関して理解している個人が推薦する人を受験対象とする。選抜のための方法は、以下の2点によるものとする。

プレゼンテーション:「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価する。

面接試験:「研究構想書」に基づく質疑応答をおこない、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。なお、本区分での出願にあたっては、大学院入試説明会に出席した上で事前面談を経なければならない。

・外国人(入試)

本区分は、大学を卒業した人などで、日本国籍及び日本における永住資格を有しない人で、かつ「日本語能力試験(N2又は2級)」に合格した人を出願対象とする。選抜のための方法は、以下の2点によるものとする。

プレゼンテーション:「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度などについて評価するとともに、日本語の会話能力について確認をする。

面接試験:「研究構想書」に基づく質疑応答をおこない、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。

○人間生活学研究科 人間生活学専攻 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。

1. 共通ディプロマ・ポリシー

- 1) 研究分野に関する国内外の動向を俯瞰的に把握し、自己の研究の位置づけを明確にすることができる。
- 2) 既存の知識や技術の応用に新たな視点を加え、知の創造に繋げることができる。
- 3) 人間生活に変革をもたらす政策開発ならびに意思決定への参画に繋がる研究を行うことができる。
- 4) 自己の研究を自立して展開していく態度と能力を有している。
- 5) 研究倫理に則り研究を完遂できる態度と能力を有している。

2. 領域(学位名称)別ディプロマ・ポリシー

(1) 栄養・生活学領域 <博士(生活科学)>

- 1) 栄養・生活の分野にかかわる課題の中から研究テーマを設定・遂行し、当該分野の発展に寄与する成果を得ることができる。
- 2) 栄養・生活の分野における研究の発展に寄与できるよう、新たな知見を学会ならびに専門誌等で研究成果を公表する能力を有すると同時に、社会に向けて提言できる能力を有している。

3) 高等教育機関における教授者として次世代の栄養・生活の分野にかかわる専門職教育を担う資質を有している。

(2) 社会福祉学領域 <博士(社会福祉学)>

- 1) 社会福祉の分野にかかわる課題の中から研究テーマを設定・遂行し、当該分野の発展に寄与する成果を得ることができる。
- 2) 社会福祉の分野における研究の発展に寄与できるよう、新たな知見を学会ならびに専門誌等で研究成果を公表する能力を有すると同時に、社会に向けて提言できる能力を有している。
- 3) 高等教育機関における教授者として次世代の社会福祉の分野にかかわる専門職教育を担う資質を有している。

(3) 文化学領域 <博士(学術)>

- 1) 文化の分野にかかわる課題の中から研究テーマを設定・遂行し、当該分野の発展に寄与する成果を得ることができる。
- 2) 文化の分野における研究の発展に寄与できるよう、新たな知見を学会ならびに専門誌等で研究成果を公表する能力を有すると同時に、社会に向けて提言できる能力を有している。
- 3) 高等教育機関における教授者として次世代の文化の分野にかかわる専門職教育を担う資質を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。本課程は、以下の方針に基づきカリキュラムを編成する。

1. 共通カリキュラム・ポリシー

(構造・内容)

1. カリキュラムを構成する主要科目群として、「共通科目」、「専門科目」及び「研究指導科目」をおく。
2. 共通科目群は、人間生活に係わる諸問題に対し、多角的な視点から接近することのできる能力を涵養することを目的とする。
3. 専門科目群に、「栄養・生活学」、「社会福祉学」、及び「文化学」の3領域をおく。
4. 専門科目群は、学術研究の動向についての理解を深化させることを目的とする。
5. 研究指導科目として、領域ごとに「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」をおく。

(評価方法)

6. 博士後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った到達目標並びに成績評価の方法及び基準を周知する。
7. 博士後期課程の修了時には、ディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士後期課程で修得すべき能力の評価等の最終試験を実施する。
8. 学位授与の審査は、主研究指導教員及び副研究指導教員による研究計画書審査、中間報告会、博士論文第一次審査及び公聴会における口頭発表を経た後、博士論文審査基準に準拠し学位審査委員会において審査を行う。

2. 領域別カリキュラム・ポリシー

(1) 栄養・生活学領域 <博士(生活科学)>

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に栄養・生活学領域科目を中心としつつ、共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「栄養・生活学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「栄養・生活学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「栄養・生活学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月におこない、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

(2) 社会福祉学領域 <博士(社会福祉学)>

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に社会福祉学領域科目を中心としつつ、共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「社会福祉学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「社会福祉学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「社会福祉学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

(3) 文化学領域 < 博士(学術) >

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に文化学領域科目を中心としつつ、共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「文化学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「文化学特別研究Ⅱ」を履修させる。加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「文化学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、人間生活学を基盤とした教育・研究を基盤とし、自立した研究者として知識、基盤社会を支える能力と次世代の高等教育を担う人材を養成することを目的とする。このために、入学選抜の基本方針として、以下の資質を有する人を受け入れることとする。

求める学生像

1. 社会の生活課題に関心を有し、明確な目的意識、強い探究心、並びに研究的手法をもって課題の解決に取り組もうとする人
2. 課題達成への強い熱意をもち、学術研究に意欲的に取り組む人
3. 専門分野に関する深い知識、柔軟な発想力及び創造力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人であると同時に、人間生活の向上に寄与できる豊かな人間性と研究倫理を有し、研究者及び高等教育を担う教育研究者をめざす人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程の入学者選抜では、「筆記試験」「領域専門」及び「口述試験」をおこない、提出された研究計画書と併せて、以下の能力を総合的に評価する。

筆記試験: 専攻する領域における外国語(英語)の読解力、設問の内容を的確に把握し、解答する能力について評価する。

領域専門: 社会福祉学領域及び文化学領域では、小論文により、研究を進めるうえでの専門知識と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性、設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。栄養・生活学領域では、プレゼンテーションにより、これまで行ってきた研究の独創性、資料の完成度、発表の態度、提出され

た研究計画書との整合性及び、質疑応答について評価する。

口述試験:研究計画についての発表と質疑応答をおこない、志願領域の専門性や、研究を進めていくための必要な能力について評価する。

研究計画書:研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法、記述等について評価する。

2 受講者の状況

【学部】

(1) 共通教養教育科目

リテラシー科目

○文化学部 文化学科

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーション I A	273	英語コミュニケーション II 応用エッセーライティング	17
英語コミュニケーション I B	264	情報処理概論	168
英語コミュニケーション I C	未開講	情報リテラシー	136
英語コミュニケーション I D	未開講	コンピュータリテラシー	162
英語コミュニケーション II 基礎プレゼンテーション	29	ビジネスリテラシー	39
英語コミュニケーション II 応用プレゼンテーション	15	日本語表現法	0
英語コミュニケーション II 基礎エッセーライティング	36		

○看護学部 看護学科

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーション I A	140	英語コミュニケーション II 応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーション I B	135	情報処理概論	31
英語コミュニケーション I C	未開講	情報リテラシー	1
英語コミュニケーション I D	未開講	コンピュータリテラシー	62
英語コミュニケーション II 基礎プレゼンテーション	2	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーション II 応用プレゼンテーション	0	日本語表現法	0
英語コミュニケーション II 基礎エッセーライティング	0		

○社会福祉学部 社会福祉学科

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーション I A	151	英語コミュニケーション II 応用エッセーライティング	1
英語コミュニケーション I B	152	情報処理概論	0
英語コミュニケーション I C	未開講	情報リテラシー	0
英語コミュニケーション I D	未開講	コンピュータリテラシー	78
英語コミュニケーション II 基礎プレゼンテーション	3	ビジネスリテラシー	1
英語コミュニケーション II 応用プレゼンテーション	0	日本語表現法	7
英語コミュニケーション II 基礎エッセーライティング	2		

○健康栄養学部 健康栄養学科

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
英語コミュニケーション I A	77	英語コミュニケーション II 応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーション I B	76	情報処理概論	33
英語コミュニケーション I C	未開講	情報リテラシー	7
英語コミュニケーション I D	未開講	コンピュータリテラシー	40
英語コミュニケーション II 基礎プレゼンテーション	7	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーション II 応用プレゼンテーション	1	日本語表現法	3
英語コミュニケーション II 基礎エッセーライティング	0		

教養基礎科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
科学と人間	52	法学	71
基礎化学	46	政治学	82
基礎生物学	175	経済学	60
物理と自然法則	5	倫理学	169
地球の科学	2	哲学	49
数学入門	7	文学	未開講
基礎統計学	51	基礎ジェンダー学	79
社会調査基礎論	2	心理学	142
日本国憲法	210		

課題別教養科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
生活と社会福祉	112	労働と人権	未開講
現代生活論	72	地域とグローバリゼーション	未開講
環境と健康と安全	58	家族関係論	160
自然災害と防災の科学	161	地域メディア論	194
平和論	2	異文化理解海外フィールドワーク	未開講
現代人権論	67	人権教育論	53
ジェンダーとキャリア	67		

健康・スポーツ科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
健康スポーツ科学Ⅰ	281	健康とヘルスプロモーション	27
健康スポーツ科学Ⅱ	273	栄養と健康	8
対人関係とメンタルヘルス	230		

域学共生科目

(単位:人)

授業科目	受講者数	授業科目	受講者数
地域学概論	363	専門職連携論	81
土佐の歴史と文化	117	チーム形成論	114
土佐の経済とまちづくり	16	地域学実習Ⅰ	341
土佐の自然と暮らし	164	地域学実習Ⅱ	289
土佐の食と健康	178	域学共生実習	9

【 学 部 】

(2) 専門教育科目

○文化学部 文化学科

(その1)

(単位:人)

授 業 科 目		受 講 者 数	授 業 科 目	受 講 者 数			
文化学部 共通科目	リテラシー科目	基礎演習	163	国際文化領域	国際日本学Ⅰ(～2018)	18	
		中国語基礎Ⅰ	85		国際日本学	未開講	
		中国語基礎Ⅱ	81		比較日本学	16	
		ドイツ語基礎Ⅰ	24		国際関係論	30	
		ドイツ語基礎Ⅱ	25		国際開発論	未開講	
		フランス語基礎Ⅰ	39		国際文化専門演習Ⅰ	28	
		フランス語基礎Ⅱ	43		国際文化専門演習Ⅱ	34	
		日本語Ⅰ	0		日本語学領域	日本語史	80
		日本語Ⅱ	0	日本語音声学・音韻論		77	
		情報処理演習	172	日本語学講読		134	
		文献調査論	131	日本語文章構成論		102	
		基礎読書法	41	国語教育学講読Ⅰ		48	
	エッセンシャル科目	文化哲学	138	国語教育学講読Ⅱ		24	
		文化人類学	139	日本語教育学概論		36	
		文化と権利	162	日本語教育教材論		15	
		文化と裁判	56	日本語学専門演習Ⅰ	27		
		公共哲学	176	日本語学専門演習Ⅱ	32		
		民俗学	142	日本文学領域	基礎古典	74	
		文化と経済	110		日本文学史(古典)	32	
		日本文学概論	132		日本文学史(近代)	37	
		言語学概論	129		古典文学基礎講読Ⅰ	70	
		日本語学概論	100		古典文学基礎講読Ⅱ	29	
		グローバルスタディー(～2018)	3		古典文学講読Ⅰ	39	
		グローバル平和論	120		古典文学講読Ⅱ	36	
		異文化コミュニケーション(～2018)	16		近代文学講読	93	
		社会調査論	133		現代文学講読	65	
		域学共生フィールドワーク	7		中国文学史	66	
		文化学課題研究ゼミナールⅠ	158	中国文学講読(散文)	90		
		文化学課題研究ゼミナールⅡ	162	中国文学講読(韻文)	34		
		文化学課題研究ゼミナールⅢ	143	日本文学専門演習Ⅰ	25		
	文化学課題研究ゼミナールⅣ	154	日本文学専門演習Ⅱ	35			
	キャリア形成科目	キャリアデザイン論	189	書道	20		
		キャリア形成論	204	地域文化領域	地域文化論	75	
企業実習		65	日本思想史		48		
文化学部 専門科目	言語文化系	英語学領域	英語学概論		41	日本文化論	85
			比較言語研究		56	土佐地域文化資源論(歴史)(～2018)	14
			対照言語学		21	土佐地域文化資源論(方言)(～2018)	33
			言語教育実践論Ⅰ		23	地域文化資源論Ⅰ	77
			言語教育実践論Ⅱ		3	地域文化資源論Ⅱ	46
			英語文法論		64	文化政策論	124
			英語ライティングⅠ		48	男女共同参画社会論	21
			英語ライティングⅡ		12	地域防災論	102
			英語音声学		33	住文化論	93
	英語スピーキングⅠ	15	地域文化専門演習Ⅰ		19		
	英語スピーキングⅡ	6	地域文化専門演習Ⅱ	16			
	英語学専門演習Ⅰ	29	地域づくり領域	地域づくり論	37		
	英語学専門演習Ⅱ	27		地域産業論	121		
	国際文化領域	英文化・文学史		78	地域分析論	145	
		英文化・文学論		42	地方自治論	45	
		米文化・文学史		41	NPO論	97	
		米文化・文学論		47	地域づくりフィールドスタディⅡ(～2018)	46	
		異文化理解Ⅰ		69	地域づくりフィールドスタディ	60	
異文化理解Ⅱ		未開講		地域づくり専門演習Ⅰ	20		
異文化理解Ⅲ		未開講		地域づくり専門演習Ⅱ	16		

(その2)

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数				
文化学部専門科目	地域文化創造系	観光文化論 I	99	文化学部専門科目	地域文化創造系	文化と人権	109		
		観光文化論 II	82			文化と統治システム	43		
		景観文化論	64			社会秩序と法	60		
		観光と自然環境 II (~2018)	83			犯罪と法	28		
		観光と自然環境	未開講			情報化社会と法文化	128		
		観光文化フィールドスタディ I	23			地域社会と法文化	85		
		観光文化フィールドスタディ II	42			現代法文化専門演習 I	11		
		観光フィールド専門演習 I	48			現代法文化専門演習 II	2		
		観光フィールド専門演習 II	36			生活法文化領域	生活と法文化	73	
		観光まちづくり領域	観光学総論				68	災害と法	151
			観光まちづくり論 I				32	ワーク・ライフ・バランスと法	37
			観光まちづくり論 II				15	労働契約と法文化	109
			観光産業論 (~2018)				23	社会保障と法文化	78
			観光産業論 I				29	家族関係と法文化	81
	観光産業論 II		未開講	生活法文化専門演習 I	11				
	観光企画論		103	生活法文化専門演習 II	2				
	観光まちづくりフィールドスタディ I		17						
	観光まちづくりフィールドスタディ II		50						
	観光産業専門演習 (~2018)		37						
	観光企画専門演習 (~2018)		51						
	観光まちづくり専門演習 I		未開講						
	観光まちづくり専門演習 II	未開講							

○看護学部 看護学科

(その1)

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数		
専門基礎科目	医学の世界	82	看護基礎科目	看護援助学	82		
	人体の構造 I	88		治療援助論 II	84		
	人体の構造 II	93		症状と看護	0		
	人体の機能 I	83		看護援助の動向と課題	83		
	人体の機能 II	86		ふれあい看護実習	78		
	人体のしくみの乱れ I	83		看護システム論	80		
	人体のしくみの乱れ II	81		看護サービス論	82		
	心のしくみ	83		看護教育論	0		
	病態と治療 I	80		看護管理の動向と課題	0		
	病態と治療 II	80		チーム医療実習	82		
	診断学	83		看護管理実習	82		
	微生物学	81		看護急性期	急性期看護論	80	
	栄養学	82	急性期看護援助論		82		
	生化学	82	回復期看護援助論		80		
	薬理学	83	急性期看護の動向と課題		0		
	治療学総論	81	急性期看護実習		82		
	小児と疾患	82	看護慢性期		慢性期看護論	80	
	母性学	80		慢性期看護援助論	82		
	保健統計学	80		終末期看護援助論	82		
	疫学	82		慢性期看護の動向と課題	0		
	健康管理論	82	看護老人	慢性期看護実習	82		
	地域保健政策	82		老人看護学総論	83		
	生命の科学と倫理	49		老人の健康と看護	81		
	医療史	0		老人看護援助論	80		
	社会保障と看護	31	看護臨床科目	老人看護の動向と課題	0		
	心理学理論と心理的支援	24		精神看護学	精神看護学総論	80	
	行動科学	0			精神の健康と看護	80	
	保健行動論	5			精神看護援助論	82	
	人間工学	9			精神看護の動向と課題	0	
	公衆衛生学	80		小児看護学	精神看護実習	82	
在宅医療	0	小児看護学総論	80				
医療と経営	0	小児の健康と看護	82				
助産学	12	小児看護援助論	82				
助産診断論	12	母性看護学	小児看護の動向と課題	0			
看護基礎科目	基礎看護学		看護学総論	82	小児看護実習	82	
			健康と看護	82	助産看護学	母性看護学総論	80
			環境と看護	83		母性看護対象論	80
			人間と看護	82		母性看護援助論	82
			看護研究方法論	82		母性看護の動向と課題	0
		看護哲学と倫理	82	母性看護実習	82		
	看護援助学	生活と看護	83	助産看護学総論	8		
生活援助論 I		83	助産看護診断論	8			
生活援助論 II		83	助産技術論 I	8			
生活援助論 III		80	助産技術論 II	8			
看護過程論		81	助産看護援助論	8			
援助関係論		83	助産看護管理論	8			
フィジカルアセスメント I		82	助産看護の動向と課題	8			
フィジカルアセスメント II		83	助産看護実習 I	8			
治療援助論 I	80	助産看護実習 II	8				

(その2)

(単位:人)

授業科目			受講者数	授業科目			受講者数
看護 臨床 科目	在宅看護学	在宅看護学総論	82	総合 科目	看護セミナーⅠ	79	
		在宅看護対象論	82		看護セミナーⅡ	5	
		在宅看護援助論	82		看護セミナーⅢ	3	
		在宅看護リエゾン論	0		看護セミナーⅣ	80	
		在宅看護の動向と課題	0		看護セミナーⅤ	82	
		在宅看護実習	82		臨床看護論Ⅰ	6	
	地域看護学	地域看護学総論	80		臨床看護論Ⅱ	17	
		地域の健康と看護	82		臨床看護論Ⅲ	36	
		地域看護援助論	82		臨床看護論Ⅳ	10	
		地域看護の動向と課題	0		臨床看護論Ⅴ	11	
		地域看護実習	75		臨床看護論Ⅵ	9	
	保健学校	学校保健	15		母性・助産看護実践論	3	
		養護概説	17		精神看護実践論	0	
	総合 科目	看護研究	82		急性期看護実践論	0	
		看護と政策	82		慢性期看護実践論	0	
がん看護論		82	小児看護実践論	6			
総合看護実習		82	地域看護実践論	4			
看護実践能力開発実習		82	老人看護実践論	0			
バイオロジカルナーシング		0	臨床看護実践論	0			
治療と看護		0	医学と看護の統合	81			
災害と看護		42	最新実践看護講座Ⅰ	9			
災害看護実践論		0	最新実践看護講座Ⅱ	11			
看護学の動向と課題		0					
グローバル社会と看護Ⅰ		54					
グローバル社会と看護Ⅱ		2					

○社会福祉学部 社会福祉学科

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数	
基本科目	福祉対象入門	78	実践科目助	事例研究法	7	
	福祉援助入門	78		実践記録法	8	
	社会福祉入門演習	78		チームアプローチ	6	
	社会福祉基礎演習	78		スーパービジョン	0	
	心理学理論と心理的支援	78	地域・国際福祉科目	地域福祉論Ⅰ	74	
	社会理論と社会システム	78		地域福祉論Ⅱ	73	
	現代社会と福祉Ⅰ	78		地域福祉活動	10	
	現代社会と福祉Ⅱ	78		国際福祉論	7	
	社会福祉史	73		コミュニティソーシャルワーク	23	
	介護技術	9		福祉NPO論	53	
社会福祉制度科目	社会保障論Ⅰ	78		子育て支援論	6	
	社会保障論Ⅱ	78		虐待防止論	56	
	公的扶助論	73		社会支援科目	ケアマネジメント論	35
	障害者福祉論	74			ケアマネジメント演習	22
	児童・家庭福祉論	74	ケアプラン策定法		3	
	高齢者福祉論Ⅰ	78	就労支援サービス		72	
	高齢者福祉論Ⅱ	75	精神科リハビリテーション学	35		
	精神保健福祉論Ⅰ	33	精神保健福祉実践科目	精神保健福祉援助演習	18	
	精神保健福祉論Ⅱ	31		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	28	
	福祉行財政と福祉計画	72		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	18	
	福祉サービスの組織と経営	72		精神保健福祉援助実習Ⅰ	18	
	権利擁護論	73		精神保健福祉援助実習Ⅱ	18	
	更生保護制度	72		介護福祉理解科目	介護の基本Ⅰ	26
保健医療サービス	74	介護の基本Ⅱ	16			
女性福祉論	10	介護の基本Ⅲ	23			
医療福祉論	55	コミュニケーション技術	25			
からだとかこころの理解科目	人体の構造と機能及び疾病	81	生活支援技術Ⅰ		26	
	精神医学Ⅰ	30	生活支援技術Ⅱ		25	
	精神医学Ⅱ	30	生活支援技術Ⅲ		17	
	精神保健学Ⅰ	37	生活支援技術Ⅳ		15	
	精神保健学Ⅱ	34	生活支援技術Ⅴ		23	
	発達と老化の理解Ⅰ	17	介護過程Ⅰ		25	
	発達と老化の理解Ⅱ	34	介護過程Ⅱ	17		
	認知症の理解Ⅰ	24	介護過程Ⅲ	15		
	認知症の理解Ⅱ	17	介護過程Ⅳ	23		
	障害の理解Ⅰ	38	介護福祉実践科目	介護総合演習Ⅰ	25	
	障害の理解Ⅱ	33		介護総合演習Ⅱ	17	
	こころとからだのしくみⅠ	30		介護総合演習Ⅲ	23	
	こころとからだのしくみⅡ	25		介護総合演習Ⅳ	17	
	相談援助基礎科目	相談援助の基盤と専門職		78	介護実習Ⅰ	26
相談援助の理論と方法Ⅰ		74		介護実習Ⅱ	16	
相談援助の理論と方法Ⅱ		73	介護実習Ⅲ	23		
相談援助の理論と方法Ⅲ		74	医療的ケアⅠ	25		
相談援助と理論と方法Ⅳ		31	医療的ケアⅡ	17		
精神保健福祉援助技術総論		28	総合科目	福祉研究法入門	76	
精神保健福祉援助技術各論		34		社会調査の基礎	76	
面接技法		58		社会福祉専門演習Ⅰ	74	
医療ソーシャルワーク論	27	社会福祉専門演習Ⅱ		74		
相談援助実践科目	相談援助演習Ⅰ	74		社会福祉専門演習Ⅲ	72	
	相談援助演習Ⅱ	73		社会福祉専門演習Ⅳ	74	
	相談援助演習Ⅲ	74				
	相談援助演習Ⅳ	73				
	相談援助実習指導Ⅰ	75				
	相談援助実習指導Ⅱ	73				
	相談援助実習指導Ⅲ	73				
	相談援助実習	73				

○健康栄養学部 健康栄養学科

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
科基礎	健康栄養学基礎	40	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	43
	健康栄養学応用	43		栄養教育論Ⅱ	41
社会・環境と健康	地域健康論	41		栄養教育論Ⅲ	41
	介護論	41		栄養教育論実習Ⅰ	41
	食と介護	41		栄養教育論実習Ⅱ	41
	保健医療福祉論	41		学校栄養指導論Ⅰ	10
	地域医療論	15		学校栄養指導論Ⅱ	9
	公衆衛生学	41		臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ
	環境衛生学実習	41	臨床栄養学Ⅱ		41
	健康情報論実習	40	臨床栄養学Ⅲ		41
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	生化学Ⅰ	40	臨床実践栄養学		41
	生化学Ⅱ	40	臨床栄養学実習Ⅰ		41
	生化学実験	43	臨床栄養学実習Ⅱ	41	
	人体の構造と機能Ⅰ	40	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	45
	人体の構造と機能Ⅱ	40		公衆栄養学Ⅱ	42
	臨床医科学	11		地域公衆栄養学実習	41
	疾病論Ⅰ	43	給食経営管理論	給食経営管理論	43
	疾病論Ⅱ	43		給食計画論	43
	運動生理学	43		給食経営管理実習Ⅰ	41
	生体科学実験・実習	43		給食経営管理実習Ⅱ	41
食べ物と健康	食品学	40	演習 総合	管理栄養士総合演習Ⅰ	41
	食品学実験Ⅰ	40		管理栄養士総合演習Ⅱ	40
	食品学実験Ⅱ	43	臨地実習	給食経営管理臨地実習	41
	食材学	40		臨床栄養学臨地実習Ⅰ	41
	食品の栄養素と機能	43		臨床栄養学臨地実習Ⅱ	41
	食品衛生学	43		地域公衆栄養学臨地実習	41
	食品衛生学実験	43		地域実践栄養学臨地実習	0
	フードシステム学	8	他の	企業実習	未開講
	調理学	40		研課研究題	卒業研究
	調理学実習Ⅰ	40	/		
	調理学実習Ⅱ	40			
	調理学実習Ⅲ	25			
	調理科学実験	7			
栄養基礎	基礎栄養学	40			
	基礎栄養学実験	43			
栄養学応用	応用栄養学Ⅰ	45			
	応用栄養学Ⅱ	43			
	応用栄養学実習	44			
	ライフステージ栄養学	43			

【 学 部 】

(3)教職に関する専門教育科目

(単位:人)

授 業 科 目		受講者数	授 業 科 目		受講者数
教職に関する専門教育科目	教育原理	37	教職に関する専門教育科目	教育実習 I	22
	教育基礎理論	21		教育実習 II	22
	教師論	92		養護実習	11
	教育社会学	51		学校栄養教育実習	10
	発達心理学	36		教職実践演習(中・高)	23
	教育心理学	28		教職実践演習(養護)	11
	特別支援教育概論	41		教職実践演習(栄養)	10
	教育課程論	34		国語科教育法 I	7
	道德教育論	52		国語科教育法 II	5
	教育の方法と技術及び総合的な学習の時間の指導法	33		国語科教育法 III	14
	特別活動論	39		国語科教育法 IV	13
	生徒指導の理論と方法及び特別活動の指導法	30		英語科教育法 I	10
	教育相談及びキャリア教育の理論と方法	59		英語科教育法 II	9
			英語科教育法 III	8	
			英語科教育法 IV	9	

【 大学院 】

○看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）

(その1)

(単位:人)

		授 業 科 目	受講者数			授 業 科 目	受講者数
共 通 科 目	大 学 院 共 通 科 目	研究と倫理	2	領 域 専 門 科 目	慢 性 看 護 学 領 域	慢性看護論	0
		教育学特論	未開講			慢性看護対象論	0
		教育心理学特論	2			慢性看護方法論Ⅰ	0
		ジェンダー論	未開講			慢性看護方法論Ⅱ	1
		臨床倫理	4			慢性疾患診断治療学Ⅰ	1
		グローバルヘルス論	2			慢性疾患診断治療学Ⅱ	未開講
		ケア論	3			慢性看護課題研究	1
		看護マナジメント論	4			慢性看護学実践演習Ⅰ	0
	専 攻 共 通 科 目	看護理論と実践	13		慢性看護学実践演習Ⅱ	1	
		看護学基盤論	4		慢性看護学実践演習Ⅲ	0	
		看護研究と実践	12		慢性看護学実践演習Ⅳ	1	
		看護倫理	13		慢性看護学実践演習Ⅴ	1	
		看護サービス管理論	11		成人看護学研究方法Ⅰ	0	
		看護コンサルテーション論	11		成人看護学研究方法Ⅱ	0	
		フィジカルアセスメント特論	12		ク リ テ ィ カ ル ケ ア 看 護 学 領 域	クリティカルケア看護論Ⅰ	3
		病態生理学	11			クリティカルケア看護論Ⅱ	2
		臨床薬理学	10			クリティカルケア看護方法論Ⅰ	2
		こころの発達	4			クリティカルケア看護方法論Ⅱ	1
		看護教育論Ⅰ	8			クリティカルケア看護方法論Ⅲ	2
		看護教育論Ⅱ	16			クリティカルケア看護方法論Ⅳ	1
		看護教育学専門演習	1			クリティカルケア診断治療学Ⅰ	未開講
		看護教育学研究方法Ⅰ	1			クリティカルケア診断治療学Ⅱ	3
		看護教育学研究方法Ⅱ	1			クリティカルケア看護課題研究	1
		データ分析方法論Ⅰ	12			クリティカルケア看護学実践演習Ⅰ	2
		疫学研究方法論	7			クリティカルケア看護学実践演習Ⅱ	1
		保健医療政策と経済Ⅰ	12			クリティカルケア看護学実践演習Ⅲ	1
		保健医療政策と経済Ⅱ	13		クリティカルケア看護学実践演習Ⅳ	2	
		看護学の動向と展望	14		クリティカルケア看護学実践演習Ⅴ	1	
最新専門看護実践講座Ⅰ	4	小 児 看 護 学 領 域	小児看護論	2			
最新専門看護実践講座Ⅱ	4		小児看護対象論	2			
インディペンデントスタディ	0		小児看護方法論Ⅰ	2			
共 創 看 護 学 領 域	看護理論と研究Ⅰ		4	小児看護方法論Ⅱ	1		
	看護理論と研究Ⅱ		2	小児診断治療学Ⅰ	3		
	学際的研究方法		3	小児診断治療学Ⅱ	未開講		
	データ分析方法論Ⅱ		1	小児看護課題研究	1		
	看護学英语		1	小児看護学実践演習Ⅰ	2		
	共創看護学セミナー	0	小児看護学実践演習Ⅱ	1			
	バイオメトリクス看護学演習	1	小児看護学実践演習Ⅲ	1			
	看護学研究方法ⅠA	0	小児看護学実践演習Ⅳ	2			
	看護学研究方法ⅠB	0	小児看護学実践演習Ⅴ	1			
	看護学研究方法ⅡA	0	小児看護学研究方法Ⅰ	1			
看護学研究方法ⅡB	0	小児看護学研究方法Ⅱ	0				
領 域 専 門 科 目	が ん 看 護 学 領 域	がん看護論	2	精 神 看 護 学 領 域	精神看護論	2	
		緩和ケア特論	2		精神看護対象論	2	
		がん看護方法論Ⅰ	2		精神看護方法論Ⅰ	2	
		がん看護方法論Ⅱ	2		精神看護方法論Ⅱ	1	
		がん看護方法論Ⅲ	2		精神看護展開論Ⅰ	0	
		がん病態生理学	3		精神看護展開論Ⅱ	1	
		がん診断治療学	4		精神看護展開論Ⅲ	0	
		がん薬理学	未開講		精神看護展開論Ⅳ	0	
		がん看護課題研究	3		精神診断治療学Ⅰ	未開講	
		がん看護学実践演習Ⅰ	3		精神診断治療学Ⅱ	3	
		がん看護学実践演習Ⅱ	2		精神看護課題研究	1	
		がん看護学実践演習Ⅲ	2		精神看護学実践演習Ⅰ	2	
		がん看護学実践演習Ⅳ	2		精神看護学実践演習Ⅱ	2	
		がん看護学実践演習Ⅴ	2		精神看護学実践演習Ⅲ	1	
		成人看護学研究方法Ⅰ	0		精神看護学実践演習Ⅳ	1	
		成人看護学研究方法Ⅱ	0		精神看護学実践演習Ⅴ	1	

(その2)

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数	
領域 専門科目	家族看護学領域	家族看護論	1	老人看護学領域	老人看護論	2
		家族看護対象論	0		老人看護対象論	2
		家族看護方法論Ⅰ	12		老人看護方法論	2
		家族看護方法論Ⅱ	11		老人ケアシステム論	2
		家族看護実践論Ⅰ	0		老人看護展開論Ⅰ	2
		家族看護実践論Ⅱ	0		老人看護展開論Ⅱ	2
		家族療法	4		老年病診断治療学Ⅰ	4
		家族ケアの開発	0		老年病診断治療学Ⅱ	未開講
		家族看護課題研究	0		老人看護課題研究	2
		家族看護学実践演習Ⅰ	1		老人看護学実践演習Ⅰ	2
		家族看護学実践演習Ⅱ	1		老人看護学実践演習Ⅱ	2
		家族看護学実践演習Ⅲ	0		老人看護学実践演習Ⅲ	2
		家族看護学実践演習Ⅳ	0		老人看護学実践演習Ⅳ	2
		家族看護学実践演習Ⅴ	0		老人看護学実践演習Ⅴ	2
		家族看護学研究方法Ⅰ	0		看護管理学領域	看護管理論
	家族看護学研究方法Ⅱ	0	システム経営管理論	0		
	地域看護学領域	地域看護論	1	看護管理展開論		0
		地域ケアシステム論	0	看護管理の動向と展望		0
		地域看護展開論	1	看護管理課題研究		0
		地域看護課題研究	0	看護管理学実践演習Ⅰ		0
		地域フィールド演習Ⅰ	1	看護管理学実践演習Ⅱ		0
		地域フィールド演習Ⅱ	0	看護管理学実践演習Ⅲ		0
		地域看護学研究方法Ⅰ	1	看護管理学研究方法Ⅰ		0
		地域看護学研究方法Ⅱ	1	看護管理学研究方法Ⅱ		1
	在宅看護学領域	在宅看護論	0	臨床看護学領域	精神看護ケア研究	1
		在宅看護方法論Ⅰ	0		老人看護ケア研究	0
		在宅看護方法論Ⅱ	1		がん看護ケア研究	1
		在宅看護方法論Ⅲ	2		小児看護ケア研究	2
		在宅ケアシステム論	2		慢性看護ケア研究	1
		在宅看護展開論Ⅰ	0		クリティカルケア研究	0
		在宅看護展開論Ⅱ	0		臨床看護管理研究	1
		在宅療養診断治療学Ⅰ	2		臨床看護教育研究	2
		在宅療養診断治療学Ⅱ	未開講		母性・助産看護ケア研究	1
		在宅看護課題研究	3		臨床看護学専門演習	1
		在宅看護学実践演習Ⅰ	0	臨床看護学研究方法Ⅰ	2	
		在宅看護学実践演習Ⅱ	0	臨床看護学研究方法Ⅱ	3	
在宅看護学実践演習Ⅲ		2	地域保健学領域	地域ケア研究	3	
在宅看護学実践演習Ⅳ	2	学校保健研究		1		
在宅看護学実践演習Ⅴ	3	家族ケア研究		3		
		在宅ケア研究		3		
		保健学研究		4		
		地域保健学専門演習	2			
		地域保健学研究方法Ⅰ	1			
		地域保健学研究方法Ⅱ	1			

○看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数	
専攻共通科目	理論看護学Ⅰ	5	専攻専門科目	家族看護学Ⅰ	0	
	理論看護学Ⅱ	5		家族看護学Ⅱ	0	
	看護学研究方法Ⅰ	5		地域看護学Ⅰ	0	
	看護学研究方法Ⅱ	6		地域看護学Ⅱ	0	
	看護倫理学	5		在宅看護学Ⅰ	0	
	イノベーション看護学	5		在宅看護学Ⅱ	0	
	国際看護学	8		学校保健学Ⅰ	0	
	医学研究方法論	1		学校保健学Ⅱ	0	
インディペンデントスタディ	1	共創看護学Ⅰ		1		
専攻専門科目	小児看護学Ⅰ	0		共創看護学Ⅱ	0	
	小児看護学Ⅱ	0		看護病態生理学Ⅰ	0	
	成人看護学Ⅰ	0		看護病態生理学Ⅱ	0	
	成人看護学Ⅱ	0		看護経営管理学Ⅰ	1	
	老人看護学Ⅰ	0		看護経営管理学Ⅱ	0	
	老人看護学Ⅱ	0		科指研 目導	看護学特別研究Ⅰ	3
	がん看護学Ⅰ	2			看護学特別研究Ⅱ	0
	がん看護学Ⅱ	0	看護学特別研究Ⅲ		4	
	精神看護学Ⅰ	1				
	精神看護学Ⅱ	0				

○看護学研究科共同災害看護学専攻（博士課程）

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数
災害看護学の基盤を支える科目群	看護研究	0	イン デ イ ベ ン デ ン ト 学 修	災害看護ゼミナールA	0
	理論看護学	0		災害看護ゼミナールB	7(1)
	危機管理論	2(1)		災害看護ゼミナールC	0
	環境防災学Ⅰ	4(1)		災害看護ゼミナールD	0
	環境防災学Ⅱ	未開講		災害看護ゼミナールE	0
	グローバルヘルス	未開講		インディペンデントスタディⅠ	0
	災害法制度と政策論	3(1)		インディペンデントスタディⅡ	0
	専門職連携実践論	1(1)		インディペンデントスタディⅢ	0
	災害時専門職連携演習(災害IP演習)	3(1)		インディペンデントスタディⅣ	0
	災害医療学	3(1)		インディペンデントスタディⅤ	0
	災害心理学	4(1)	災害看護学 研究支援 科目群	災害看護研究ゼミナール	0
	災害と文化	未開講		実践課題研究	4(2)
	災害社会福祉学	5(1)		災害看護研究デベロップメント	7(1)
	Professional writing	未開講	博士論文	15(5)	
	Proposal writing (Research proposal writing skill)	0	旧カリキュラム科目	理論看護学Ⅱ	7(1)
	Program writing (Program Proposal writing skill)	3(1)			
災害看護学の専門科目群	災害看護学総論	0			
	災害看護活動論Ⅰ(急性期)	0			
	災害看護活動論Ⅱ(亜急性期)	0			
	災害看護活動論Ⅲ(復旧・復興)	0			
	災害看護活動論Ⅳ(備え)	0			
	災害看護グローバルコーディネーション論	4(1)			
	災害看護リーダーシップ・管理論	2(1)			
	災害看護倫理	10(2)			
	災害看護理論構築	7(1)			
	インターンシップⅠ	1(1)			
インターンシップⅡ	6(3)				

○人間生活学研究科人間生活学専攻（博士前期課程）

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数			
共通科目	大学院共通科目	研究と倫理	10	文化学領域科目	日本文化論Ⅰ	1		
		教育学特論	未開講		日本文化論Ⅱ	未開講		
		教育心理学特論	8		日本語文化論	1		
		ジェンダー論	未開講		文学Ⅰ	1		
		臨床倫理	1		文学Ⅱ	0		
		グローバルヘルス論	3		文学Ⅲ	未開講		
		ケア論	1		英語文化論Ⅰ	0		
	看護マネジメント論	0	英語文化論Ⅱ		未開講			
	人間生活学研究科	研究方法論Ⅰ	9		英語文化論Ⅲ	未開講		
		研究方法論Ⅱ	9		英語言語文化論特論Ⅰ	未開講		
		研究方法論Ⅲ	3		英語言語文化論特論Ⅱ	未開講		
		データ解析論	9		国際日本学	未開講		
		環境解析論	未開講		英語学特論Ⅰ	1		
		地域スポーツ論	未開講		英語学特論Ⅱ	未開講		
健康リハビリテーション論		7	英語教育学特論Ⅰ	1				
栄養・生活学領域科目	食物科学	食品生化学特論	9	英語・国際文化研究	英語教育学特論Ⅱ	1		
		食品製造学特論	未開講		英語圏文学特論Ⅰ	1		
		食物科学論	9		英語圏文学特論Ⅱ	1		
		食物科学実践演習	未開講		英語圏文化特論Ⅰ	未開講		
		栄養学特論	未開講		英語圏文化特論Ⅱ	未開講		
	人間栄養学	臨床栄養学特論	5		異文化理解特論	1		
		健康動態論	未開講		英語言語文化論特論Ⅰ	未開講		
		栄養疫学論	5		英語言語文化論特論Ⅱ	未開講		
		栄養・生活特論Ⅰ	6		英語教育実践研究Ⅰ	1		
	生活学・栄養学	栄養・生活特論Ⅱ	7		英語教育実践研究Ⅱ	1		
		栄養・生活統計論	未開講		食物科学	食品生化学特論	未開講	
		環境生態論	0		食品製造学特論	未開講		
		社会福祉学領域科目	福祉専門基礎		社会福祉原論	2	食物科学論	未開講
					福祉リハビリテーション論	未開講	食物科学実践演習	未開講
ソーシャルワーク論	未開講			栄養学特論	未開講			
社会保障論	4			臨床栄養学特論	未開講			
国際地域・福祉	福祉行財政論		未開講	食生活論Ⅰ	未開講			
	地域福祉論Ⅰ		3	食生活論Ⅱ	未開講			
	地域福祉論Ⅱ		未開講	食生活論演習	未開講			
	国際福祉論Ⅰ		5	健康動態論	未開講			
介護・高齢者・福祉	国際福祉論Ⅱ		未開講	栄養疫学論	未開講			
	介護福祉論Ⅰ		3	栄養・生活特論Ⅰ	未開講			
	介護福祉論Ⅱ		未開講	栄養・生活特論Ⅱ	未開講			
	高齢者福祉論		3	栄養・生活統計論	未開講			
障害者福祉	障害者福祉論		未開講	環境生態論	未開講			
	精神保健福祉論		2	科指研	栄養・生活学課題研究演習	3		
	精神科ソーシャルワーク論	未開講	科目導	社会福祉学課題研究演習	3			
福祉家庭・児童	児童・家庭福祉論Ⅰ	1	文化学課題研究演習	未開講				
	児童・家庭福祉論Ⅱ	未開講						
文化学領域科目	地域文化	地域文化論Ⅰ	未開講					
		地域文化論Ⅱ	1					
		地域文化論Ⅲ	未開講					
		観光文化論Ⅰ	5					
		観光文化論Ⅱ	1					
観光文化論Ⅲ	未開講							

○人間生活学研究科人間生活学専攻（博士後期課程）

(単位:人)

授業科目		受講者数	授業科目		受講者数	
科共 目通	研究デザイン	4	専 門 科 目	領 域 科 目 文 化 学	地域文化学Ⅰ	0
	研究倫理	未開講			地域文化学Ⅱ	0
専 門 科 目	栄 養 ・ 生 活 学 領 域 科 目	地球環境解析学	0	研 究 指 導 科 目	言語文化学Ⅰ	0
		環境生態学	未開講		言語文化学Ⅱ	0
		居住環境学	未開講		栄養・生活学特別研究Ⅰ	0
		人間栄養学	未開講		栄養・生活学特別研究Ⅱ	0
		食品機能学	1		栄養・生活学特別研究Ⅲ	1
		健康動態学	0		社会福祉学特別研究Ⅰ	3
		介護福祉学	2		社会福祉学特別研究Ⅱ	0
	社 会 福 祉 学 領 域 科 目	障害者福祉学	0		社会福祉学特別研究Ⅲ	0
		児童・家族福祉学	1		文化学特別研究Ⅰ	0
		地域福祉学	0		文化学特別研究Ⅱ	0
		国際福祉政策学	0		文化学特別研究Ⅲ	0
		社会福祉計画論	4			

※「未開講」・・・隔年開講などにより年度当初から未開講科目であったもの

※「0」・・・年度当初開講予定科目で、院生がいないなどの理由で開講されなかったもの

3 科目等履修生・特別聴講学生・研究生の状況

(1) 科目等履修生

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
教育実習 I	1	/	
教育実習 II	1		
特別支援教育概論	1		
教職実践演習(中・高)	1		
教育の方法と技術及び総合的な学習の時間の指導法	1		

(2) 特別聴講学生

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
/		/	

(3) 研究生

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
/		/	

4 教員免許状取得状況・国家資格等合格状況

(1) 教員免許状取得状況(過去3年間分)

(単位:人)

学部・学科	区 分		平成30年度	平成31/令和元年度	令和2年度
文化学部 文化学科	免許状取得者数	実人数	23	16	20
		中一種免(英語)	11	9	9
		高一種免(英語)	11	9	9
		中一種免(国語)	12	7	11
		高一種免(国語)	12	7	11
	教員就職者数		12	10	13
看護学部 看護学科	免許状取得者数	実人数	11	14	11
		一種免(養護)	11	14	11
	教員就職者数		3	8	7
健康栄養学部 健康栄養学科	免許状取得者数	実人数	6	10	10
		一種免(栄養)	6	10	10
	教員就職者数		5	7	2
合 計	免許状取得者数(実人数)		40	40	41
	教員就職者数		20	25	22

※教員就職者数は正規採用者と臨時的任用者との合計

(2) 国家試験合格状況

(単位:人)

国家資格	受 験 日	区 分	受 験 者 数	合 格 者 数	合 格 率
看 護 師	令和3年2月14日	新 卒	82	82	100.0%
		既 卒	0	0	
保 健 師	令和3年2月12日	新 卒	74	74	100.0%
		既 卒	2	2	100.0%
助 産 師	令和3年2月11日	新 卒	8	8	100.0%
		既 卒	0	0	
社会福祉士	令和3年2月7日	新 卒	68	53	77.9%
		既 卒	32	6	18.8%
精神保健福祉士	令和3年2月6日	新 卒	15	15	100.0%
	令和3年2月7日	既 卒	2	2	100.0%
介護福祉士	令和3年1月31日	新 卒	17	17	100.0%
		既 卒	0	0	
管理栄養士	令和3年2月28日	新 卒	40	38	95.0%
		既 卒	1	1	100.0%

(3) 専門看護師・認定看護管理者合格状況

(単位:人)

専門看護分野名	合格者数
がん看護	1
小児看護	2
家族支援	1
急性重症患者看護	2
認定看護管理者	2

5 学位等及び大学賞・学長賞等の授与状況

(1) 学位等授与状況

○博士

(単位:人)

研究科名	博士	
	令和2年度	累計
看護学研究科(博士後期課程)	3	36
看護学研究科(博士課程)	1	4
人間生活学研究科(博士後期課程)	1	10
健康生活科学研究科健康科学専攻(博士後期課程)		50
合計	5	100

○修士

(単位:人)

研究科名	修士	
	令和2年度	累計
看護学研究科(博士前期課程)	17	290
人間生活学研究科(博士前期課程)	6	178
合計	23	468

【学位授与者一覧】

○博士

授与年月日	学位の種類	氏名	論文名
令和2年9月23日	博士(看護学)	岩崎 順子	養育期における Family Confidence モデルに関する研究
令和2年9月23日	博士(看護学)	坂元 綾	看護師による2型糖尿病患者のフットケアにおける下肢血流障害の アセスメント -非侵襲的生理学的指標による評価-
令和2年9月23日	博士(社会福祉学)	佐賀 啓子	救命救急における重症患者の早期栄養療法に関する研究
令和3年3月19日	博士(看護学)	升田 茂章	マルチキナーゼ阻害薬による手足症候群の発症と皮膚生理学的指標の関連
令和3年3月19日	博士(看護学)	村田 美穂	放射線災害被災地域で生きる -高齢者にとっての復興-

○修士

授与年月日	学位の種類	氏名	論文名
令和2年9月23日	修士(看護学)	岡林 見佳	在宅移行期の慢性心不全患者へのケアにおける訪問看護師の多職種との 協働
令和2年9月23日	修士(看護学)	竹内 奈々恵	中山間地域における終末期がん患者の在宅移行支援を行う看護師の困難と 対処
令和2年9月23日	修士(看護学)	松澤 志保	慢性血液透析者におけるエンド・オブ・ライフの準備性 -アドバンス・ケア・プランニングに向けて-
令和3年3月19日	修士(看護学)	伊勢田 純子	看護師長の成長につながる経験と同僚師長からの支援

○修 士（続き）

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和3年3月19日	修士(看護学)	上田 三智代	終末期がん患者のアドバンスケアプランニングにおける一般病棟看護師の看護実践と課題
令和3年3月19日	修士(看護学)	上月 良太	スタッフの看護実践能力発揮感とその影響要因に関する研究
令和3年3月19日	修士(看護学)	河原 教代	ケアハウスに入居している要介護高齢者の住まいの選択における自己決定に関する研究
令和3年3月19日	修士(看護学)	齋坂 美賀子	救命治療過程にある患者へのICU看護師のケアリング
令和3年3月19日	修士(看護学)	坂本 和子	訪問看護師による終末期がん療養者の介護者が体験するとまどいへの看護支援
令和3年3月19日	修士(看護学)	三條 憲是	看護計画を立案している看護師の思考に影響を及ぼす電子カルテの画面デザイン
令和3年3月19日	修士(看護学)	高橋 育子	患者・家族に対する退院支援への退院調整看護師のコンピテンシー
令和3年3月19日	修士(看護学)	橋本 侑香里	母親が乳幼児期の子どもを育てる営み
令和3年3月19日	修士(看護学)	藤本 真紀	新人看護職員教育担当者が用いるメタ認知
令和3年3月19日	修士(看護学)	古川 千紘	家族に対して攻撃性のある精神疾患を持つ人とその家族の家族関係の調整に関する看護ケア
令和3年3月19日	修士(看護学)	牧 浩一	脳梗塞により麻痺を有する高齢者の不安に対する発達の素地と環境の影響
令和3年3月19日	修士(看護学)	溝渕 美智子	人工肛門を造設した高齢がん患者と主介護者のセルフケア能力に対する臨床判断
令和3年3月19日	修士(看護学)	岡村 夕里奈	災害時における発達障害をもつ子どもの居場所を支える学校の支援活動
令和3年3月19日	修士(生活科学)	井治 賢希	植物由来アシル化ステロール配糖体が食餌誘発性肥満マウスの脂質代謝に及ぼす影響
令和3年3月19日	修士(生活科学)	三宮 章香	給食管理実習における衛生管理教育の改善とその評価
令和3年3月19日	修士(社会福祉学)	野村 ゆか	地域子育て支援センターの役割と可能性 －支援者の「語り」に焦点をあてて－
令和3年3月19日	修士(生活科学)	濱田 穂乃香	常圧低酸素環境における全身酸素供給と全身応答について －呼吸ガスデータと組織酸素動態からの検討－
令和3年3月19日	修士(社会福祉学)	森田 裕之	ノーマリフティングケア導入・活用における促進・阻害要因に関する研究 －介護職員の意識と職場環境に着目して－
令和3年3月19日	修士(社会福祉学)	李 傑	言葉を失った重度アルツハイマー病の人の食行動変化に対応する介護

(2)「地域共生推進士」認定書授与状況

(単位:人)

授与年月日	称 号	授与者人数	部 局 内 訳
令和3年3月7日	地域共生推進士	7	文化学部3人、看護学部3人、社会福祉学部1人

(3)日本語教員授与状況

(単位:人)

授与年月日	称 号	授与者人数
-	日本語教員	9

(4)履修証明書授与状況

授与年月日	称 号	授与者人数(人)
-	履修証明書	-

※令和2年度は開講せず

(5)大学賞・学長賞授与状況

【大学賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	受賞者数	功 績
看護学部	看護学科	4	1	入学時より一貫して高い目標を持って学業に真摯に取り組み、看護実践、看護研究で特に優秀な成績を修めた。
看護学研究科	看護学専攻 博士後期課程	5	1	研究に真摯に取り組み、Family Confidenceの看護学研究の深化・発展に寄与した。

【学長奨励賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	受賞者数	功 績
文化学部	文化学科	4	3	大学における学業成績が特に優れていると認められ、かつ、他の学生の模範となる者。
文化学部	文化学科	3	3	
文化学部	文化学科	2	3	
看護学部	看護学科	4	2	
看護学部	看護学科	3	2	
看護学部	看護学科	2	2	
社会福祉学部	社会福祉学科	4	2	
社会福祉学部	社会福祉学科	3	2	
社会福祉学部	社会福祉学科	2	2	
健康栄養学部	健康栄養学科	4	1	
健康栄養学部	健康栄養学科	3	1	
健康栄養学部	健康栄養学科	2	1	

【学長賞】

学 部	学 科	学年	受賞者数	功 績
文化学部	文化学科	4	3	1回生時にグループを立ち上げ、フェアトレード商品の普及、フードバンクでのボランティア活動、ホームレス支援等の社会貢献活動を行った。
文化学部	文化学科	4	1	高知桜ライオンズクラブ、高知警察とともに小中学校を訪問し、子供たちを対象に薬物乱用の危険性を啓発する等、地域の子どもたちの健全育成に貢献した。
文化学部	文化学科	4	3	留学生の歓送迎会や小規模な交流会を開き、勉強の相談に乗ったりする等、留学生が円滑に日常生活を過ごせるようなサポートを行った。また、他大学と連携し、交流活動を学外にも開き、発展させ、高知県国際交流協会(KIA)が主催する県内外国人に初歩的な日本語を教えるボランティア活動を行う等、地域社会での活動を行った。
看護学部	看護学科	4	5	「看護学を学ぶ学生と地域住民の協働による地域交流の促進・地域づくり」をテーマに池地域でのサロンに参加する方々の高齢化や体調等の変化に応じた活動の仕方を検討し、講義や実習で学んだ知識と経験を活かしてサロン活動に取り入れた。また、地域の特徴を取り入れた「池かるた」を作成し、学生と地域住民との交流促進を行う等、活動の発展につなげた。
看護学部	看護学科	4	9	企業と連携し、うちわを活用した熱中症予防の知識普及や香美市物部町神池地区では、地域の方と良好な関係を醸成し、健康寿命延伸の活動を行った。 また、子どもを対象とした新たな活動展開に向けて、健援隊組織の基盤づくりを行った。
看護学部	看護学科	4	6	高知市市民活動センターと連携し高知県を訪れる修学旅行生徒に対して「大学生と学ぶ未災地ツアー」の開催をサポートするなど、独自の地域活動をさらに発展させた。
社会福祉学部	社会福祉学科	4	1	
社会福祉学部	社会福祉学科	4	12	「高知で学生と地域が対等な立場から共に作り出す、誰もが生き生きと暮らせる社会」をコンセプトに、県内各地域で様々な生活課題に直面している地域住民と交流を図りながら、①「YCPK」、②「学習支援」、③「タウンモビリティ」、④「傾聴」、⑤「シグマ」、⑥「援農」の6つの部門で課題解決に取り組んだ。
社会福祉学部	社会福祉学科	4	3	「地方創生政策アイデアコンテスト2019」の大学生以上一般の部において特別賞を受賞した。
健康栄養学部	健康栄養学科	4	5	「こどもの居場所を作ってあげたい」というコンセプトのもと、子供が安全に遊べる居場所「すびか」と子ども食堂「みらい食堂」の運営を行い、地域の方々のご協力のもと、その地域の子どもたちの居場所作りに尽力した。
健康栄養学部	健康栄養学科	4	12	中土佐町大野見地区で作られる「大野見エコ米」をツールとして、日本人の主食であるお米のおいしさや日本型食事の良さを伝え、また、中土佐町の地域活性化を目指し、様々な活動に取り組んだ。新しい取り組みとして「利き米チャレンジ」と称し、子どもから大人を対象に、中土佐町大野見地区での地域イベントだけでなく、高知市内の市販量販店等でもお米に関する知識の普及を行う等、大野見エコ米や中土佐町の食材のすばらしさを広く発信した。
健康栄養学部	健康栄養学科	4	4	1型糖尿病患者の小・中・高校生を対象に行われるサマーキャンプに参加し、患者のサポートを行った。また、参加にあたり、週1回学内での勉強会、月1回学外で医療従事者を交えた勉強会で病気や食事療法について積極的に学び、当日の企画運営にも携わる等、積極的に参画した。
健康栄養学部	健康栄養学科	4	5	株式会社サンプラザと連携し、高知県健康パスポート基準にある1食当たりのカロリー、及び食塩相当量を満たす健康弁当2種の開発に成功し、店頭で販売された。

(6) サーティフィケーション授与状況

協 定 校	氏 名	内 容	招 聘 者

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響で令和2年度は交換留学・受入プログラム等を中止。

6 SD・FD活動実施状況

(1) 全学SD・FD

区分	内容	講師・担当者	年月日	参加者数(人)	主催	共催
S D	新大学基準と第3期認証評価で求める内部質保証のあり方	公益財団法人大学基準協会 事務局長 工藤潤 氏	令和2年 10月22日	64	高知県立大学	
F D	第16回学際的交流サロン 「研究能力を高める戦略的研究推進プロジェクトの報告会Ⅰ」 ①南海トラフ地震に備えた福祉エリア設営ガイドラインの開発 ②高知県安芸保健医療圏における在宅医療福祉施設の看護力を高める持続可能な看護現任教育プログラムの開発 ③看護研究科博士前期課程:教育イノベーション事業	①看護学部 竹崎 久美子 教授 ②看護学部 内川 洋子 准教授 ③看護学部 渡邊 聡子 教授	令和2年 7月20日	50	学術研究戦略委員会	高知県立大学 FD委員会
	第17回学際的交流サロン 「研究能力を高める戦略的研究推進プロジェクトの報告会Ⅱ」 ①高知県における精神障害をもつ女性の妊娠・出産への看護支援モデルの開発 ②言語文化教育としての「民話」を活用した学術的・国際的な地域還元型教育 ③高知県の血管病重症化予防に向けた看護職の知のネットワークづくり-ICT(情報通信技術)の活用- ④児童養護施設卒園生のニーズ調査-リーディングケア・アフターケア実践のための研究-	①看護学部 永井 真寿美 助教 ②文化学部 橋尾 直和 教授 ③看護学部 山中 福子 講師 ④社会福祉学部 杉原 俊二 教授	令和2年 9月14日	53	学術研究戦略委員会	高知県立大学 FD委員会
	第18回学際的交流サロン 消費者教育と持続可能な社会の構築について-多様な主体との連携を通じて-	文化学部 菊池 直人 准教授	令和2年 10月28日	42	学術研究戦略委員会	高知県立大学 FD委員会
	全学FD研修会 ルーブリックをどのように作成・活用するか ～考え方、方法、新展開～	高知大学地域協働学部/大学創造センター 俣野 秀典 講師	令和2年 11月10日	53	高知県立大学 FD委員会	
	第19回学際的交流サロン 加工食品における無機リンおよび総リンの定量 ～早期慢性腎臓病の重症化予防を目指して～	健康栄養学部 鈴木 麻希子 准教授	令和2年 11月18日	34	学術研究戦略委員会	高知県立大学 FD委員会
	第1回国際的研究活動や最新の研究方法に関する講演会 多様なデータから見る地域防災	看護学研究科 神原 咲子 教授	令和2年 12月21日	48	学術研究戦略委員会	高知県立大学 FD委員会 看護学研究科 人間生活学研究科
	全学FD研修会 大学院生のアカデミック・ライティング力を向上させるヒント	高知大学学生総合支援センター 坂本 智香 講師	令和3年 2月10日	82	看護学研究科 人間生活学研究科 高知県立大学 FD委員会	
	第7回越境シリーズ講座 異分野から学ぶ エリアケイパビリティアプローチ 地域開発と環境保全の両立に向けて	東海大学海洋学部環境社会学科 石川 智士 教授	令和3年 2月19日	26	学術研究戦略委員会	高知県立大学 FD委員会 看護学研究科 人間生活学研究科

(2)部局別SD・FD

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数(人)	主 催	共 催
文 化 学 部	遠隔授業	1回生学年担当、教務委員 他教員2人	令和2年 5月25日	23	学部教務委員 会 学部FD委員会	
	基礎演習に関する情報の共有と意見交換	「基礎演習」担当教員9人 教務委員長 1回生学年担当	令和2年 7月27日	19	学部FD委員会	
	コロナ禍における学生支援のあり方	学務支援室長 学部長	令和2年 12月14日	24	学部キャリア支 援委員会 学部学生委員 会 学務支援室 学部FD委員会	
	パワーハラスメントの防止義務—昨年の法改正をふまえて	文化学部 根岸忠 准教授	令和3年 2月8日	20	学部人権委員 会	学部FD委員会
看 護 学 部	FDマザーマップ「教育」について	看護学部 内田 雅子 教授	令和2年 4月10日	4	学部FD委員会	
	ハラスメント防止等のガイドラインを活用した人権研修(ワークショップ)		令和2年 5月	27	学部人権委員 会	
	フォローアップ研修	看護学部 内田 雅子 教授	令和2年 8月5日	4	マザーマップを活用した新任教員の主体的な学びの支援	
	実践的FDプログラム「現代の高等教育」		令和2年 8月12日	13	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「高等教育研究史」		令和2年 8月26日	13	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「大学教育改革とFD」		令和2年 9月2日	10	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「大学評価論」		令和2年 9月9日	15	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「高等教育政策」		令和2年 9月16日	9	学部FD委員会	
	フォローアップ研修	看護学部 内田 雅子 教授	令和2年 9月16日	4	マザーマップを活用した新任教員の主体的な学びの支援	
	実践的FDプログラム「接続教育/初年次教育の取り組み」		令和2年 9月23日	16	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「教授・学習の理論と教育実践(1)教授・学習の理論」		令和2年 9月30日	13	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「教授・学習の理論と教育実践(2)インストラクショナルデザイン」		令和2年 10月7日	12	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「アクティブラーニングを促す教授方法」		令和2年 10月14日	14	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「教育工学の視点から」		令和2年 11月4日	17	学部FD委員会	
	南海トラフ地震対策	看護学部 竹崎久美子 教授	令和2年 11月11日	36	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「高等教育における授業技術」		令和2年 11月25日	15	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「学生授業評価の性質と授業への活用」		令和2年 12月2日	15	学部FD委員会	
	臨地実習における学生の主体的な学びを言語化するレポート作成の指導について	看護学部 瓜生 浩子 教授 看護学部 大川 宣容 教授	令和2年 12月3日	4	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「大学の授業の設計」		令和2年 12月9日	21	学部FD委員会	

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数(人)	主 催	共 催
看護学部	看護学部実習ルーブリック作成に向けての学習評価フレームの検討会(ワークショップ)	看護学部 内田 雅子 教授 看護学部 嶋岡 暢希 准教授	令和2年 12月16日	40	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「成績評価の意味と方法」		令和2年 12月16日	20	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「目標標準測定に基づく評価」		令和3年 1月6日	29	学部FD委員会	
	1・2年目教員振り返り	看護学部 大川 宣容 教授 看護学部 嶋岡 暢希 准教授	令和3年 1月13日	8	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「学習教材作成における著作権などの理解」		令和3年 1月20日	24	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「情報活用基礎/ICTを活用した学習コミュニティづくり」		令和3年 1月27日	18	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「ティーチング・ポートフォリオとは」		令和3年 2月3日	14	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「青年期の心理」		令和3年 2月10日	25	学部FD委員会	
	相談・申し立てに関する人権研修	看護学部 内川洋子 准教授 看護学部 藤代知美 准教授	令和3年 2月10日	34	学部人権委員会	
	実践的FDプログラム「発達の原理と各段階の特性」		令和3年 2月17日	19	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「臨床心理学の基礎と応用」		令和3年 2月24日	24	学部FD委員会	
	第2回ルーブリックに関する看護学部FD	看護学部 内田 雅子 教授 看護学部 藤田 佐和 教授 看護学部 大川 宣容 教授	令和3年 2月24日	38	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「発達障害のある学生の学びーアスペルガー症候群を中心にー」		令和3年 3月3日	21	学部FD委員会	
	英語論文作成上のピットフォール	看護学部 池田光徳 教授	令和3年 3月3日	18	研究科FD委員会	
	実践的FDプログラム「教員と学生の教育・研究を促進するツールとしての研究倫理」		令和3年 3月10日	20	学部FD委員会	
	実践的FDプログラム「研究者にできる多様なアウトリーチ活動の紹介」		令和3年 3月17日	16	学部FD委員会	
	第3回ルーブリックに関する看護学部FD(ワークショップ)		令和3年 3月24日	47	学部FD委員会	
	看護を語る会		令和3年 3月24日	42	学部FD委員会	
実践的FDプログラム「大学教員のための大学管理運営基礎」		令和3年 3月31日	14	学部FD委員会		
社会学部福祉	Moodle研修会	社会学部福祉学部 行貞 伸二 講師 社会学部福祉学部 玉利 麻紀 助教	令和2年 4月17日	18	学部教務委員会	学部FD委員会
	実践的FDプログラム「研究者倫理 I」	東京大学 渡邊 卓也 教授	令和3年 2月26日	22	学部FD委員会	学部総務委員会
健康学部栄養	合同災害訓練の振り返り及び災害時の食について	高知医療センター栄養局 小谷 小枝 氏 健康栄養学部 廣内 智子 講師	令和2年 11月30日	16	学部FD委員会	高知医療センター栄養局
地域教育研究センター	R3部局別FD活動計画の検討および実践的FDプログラムの活用について	地域教育研究センター 鈴木 康郎 教授	令和2年 11月20日	4	地域教育研究センターFD委員会	

(3) 全学人権研修会

部署	内容	講師・担当者	月日	参加者数(人)	主催	共催
全学	ハラスメントの基礎知識を再確認しましょう (受講方法: オンデマンド)	公益財団法人こうち男女共同参画 社会づくり財団 理事長 筒井 早智子 氏	令和3年 2月24日- 3月31日	130	高知県立大学 人権委員会	

(4) 部局別人権研修会

部署	内容	講師・担当者	月日	参加者数(人)	主催	共催
学文 部化	パワーハラスメントの防止義務—昨年の法改正をふまえて	文化学部 根岸 忠 准教授	令和3年 2月8日	20	学部人権委員会	学部FD委員会
看護 学部	ハラスメント防止等のガイドラインを活用した人権研修		令和2年 5月	27	学部人権委員会	
	相談・申し立てに関する人権研修	看護学部 内川 洋子 准教授 看護学部 藤代 知美 准教授	令和3年 2月10日	34	学部人権委員会	
地 域 セ ン タ ー 研 究	人権研修会 LGBTQ+に対する理解と合理的配慮について	地域教育研究センター 石山 貴章 教授	令和3年 1月15日	4	地域教育研究 センター人権委 員会	

(5) 学外研修

部署	内容	期間	参加者数(人)	主催
看護 学部	学生の学びを支援する授業準備ワークショップ(オンライン授業対応編)	令和2年8月17日-9月4日	1名	四国地区教職員 能力開発ネット ワーク
	大人数講義法の基本	令和2年9月8日	1名	四国地区教職員 能力開発ネット ワーク
	eラーニング活用(入門編)—学習支援システムMoodleソフトを活用してきめ細やかな学習支援を実現しよう—	令和2年9月10日	1名	四国地区教職員 能力開発ネット ワーク
	学習評価の基本	令和2年12月9日-令和3年1月9日	2名	四国地区教職員 能力開発ネット ワーク
	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	令和2年12月10日-令和3年1月29日	2名	四国地区教職員 能力開発ネット ワーク
	アクティブラーニング入門セミナー	令和2年12月10日-令和3年1月10日	2名	四国地区教職員 能力開発ネット ワーク
	教学に関する勉強会(第1回)	令和2年8月26日	4名	一般社団法人 公立大学協会
	学生のメンタルヘルスケアに関する懇談会	令和2年9月30日	3名	一般社団法人 公立大学協会
	教学に関する勉強会(第2回)	令和2年12月9日	9名	一般社団法人 公立大学協会
	令和2年度著作権セミナー	令和2年9月3日	1名	文化庁 高知県
社会 福祉 学部	ジグソー学習法入門	令和2年9月23日	1名	四国地区教職員 能力開発ネット ワーク
	教学に関する勉強会(第1回)	令和2年8月26日	1名	一般社団法人 公立大学協会
	学生のメンタルヘルスケアに関する懇談会	令和2年9月30日	3名	一般社団法人 公立大学協会
	教学に関する勉強会(第2回)	令和2年12月9日	2名	一般社団法人 公立大学協会

部 署	内 容	期 間	参加者数(人)	主 催
健康栄養学	教学に関する勉強会(第2回)	令和2年12月9日	1名	一般社団法人 公立大学協会
	令和2年度著作権セミナー	令和2年9月3日	2名	文化庁 高知県
事務局	高等教育におけるユニバーサルデザインの可能性	令和2年9月7日	3名	四国地区教職員 能力開発ネット ワーク
	プロジェクトマネジメント	令和2年10月1日-10月31日	3名	四国地区教職員 能力開発ネット ワーク
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム 研修(新任職員)	令和2年11月4日-11月6日	1名	四国地区教職員 能力開発ネット ワーク
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム 研修(レベルⅡ)	令和2年11月26日-11月27日	1名	四国地区教職員 能力開発ネット ワーク
	公立大学の現状と課題	令和2年5月18日	6名	一般社団法人 公立大学協会
	公立大学職員セミナー	令和2年6月25日	1名	一般社団法人 公立大学協会
	教学に関する勉強会(第1回)	令和2年8月26日	6名	一般社団法人 公立大学協会
	公立大学法人会計セミナー	令和2年9月18日-10月16日	6名	一般社団法人 公立大学協会
	令和2年度著作権セミナー	令和2年9月3日	6名	文化庁 高知県
	著作権法改正とオンライン授業	令和2年9月3日	10名	山口大学

V 学生

1 行事实績

令和2年

4月 2日(木)	入学式
4月 3日(金)	(1)新入生ガイダンス (2)在学生ガイダンス
4月 6日(月)	(1)新入生ガイダンス (2)授業開始(池キャンパス3学部2回生以上の学部専門教育科目のみ)
4月 7日(火)	前期授業開始 (文化学部、池キャンパス3学部共通教養教育科目・教職員専門1教育科目、全1回生)
4月13日(月)	履修登録締切
4月21日(火)	創立記念日
4月24日(金)～ 5月 1日(金)	前期履修登録変更期間
5月14日(木)	月曜日授業
5月18日(月)	定例学生大会(午後)
5月25日(月)～ 5月29日(金)	前期履修中止届出期間
7月 8日(木)～ 7月28日(火)	後期英語コミュニケーション科目履修希望調査
7月23日(木)～ 7月24日(金)	定期健康診断 : 池キャンパス
7月25日(土)～ 7月26日(日)	定期健康診断 : 永国寺キャンパス
7月26日(日)	オープンキャンパス
7月31日(金)～ 8月 7日(金)	補講・試験期間
8月 8日(土)～ 9月13日(日)	夏季休業期間
8月28日(金)	前期成績提出締切
8月29日(土)～ 8月30日(日)	大学院第1次学生募集
9月 7日(月)	前期成績開示日
9月14日(月)～ 9月30日(水)	集中講義期間
9月23日(水)	9月卒業式・修了式
9月25日(金)	前期成績判定日
10月 1日(木)	後期授業開始
10月 8日(木)～10月14日(水)	後期履修登録変更期間
10月29日(木)	月曜日授業
11月 7日(土)～11月 8日(日)	大学祭
11月21日(土)～11月22日(日)	学校推薦型選抜・社会人選抜・3年次編入学選抜
11月24日(火)～11月30日(月)	後期履修中止届出期間
12月17日(木)～12月24日(木)	集中講義期間
12月25日(金)～ 1月 4日(月)	冬季休業期間

令和3年

1月 5日(火)	授業開始
1月15日(金)	休講(大学入学共通テスト準備のため)
1月16日(土)～ 1月17日(日)	大学入学共通テスト
1月30日(土)	大学院第2次学生募集
1月31日(日)	私費外国人留学生選抜
2月 1日(月)～ 2月18日(木)	次年度前期英語コミュニケーション科目履修希望調査
2月 9日(火)～ 2月18日(木)	補講・試験期間
2月19日(金)～ 3月19日(金)	集中講義期間
2月24日(水)	後期成績提出締切(4回生)
2月25日(木)	後期成績開示日(4回生)
2月25日(木)～ 2月26日(金)	一般選抜(前期日程)
3月 2日(火)	後期成績提出締切(1～3回生)
3月 4日(木)	卒業判定会議
3月10日(水)	成績開示日(1～3回生)
3月12日(金)～ 3月13日(土)	一般選抜(後期日程)・社会人選抜
3月19日(金)	卒業式・修了式
3月20日(土)～ 3月31日(水)	春季休業期間
3月26日(金)	後期成績判定日(1～3回生)

2 入学の状況

(1) 入学の状況

(単位:人)

学部・学科名	区分	募集人員 a	志願者数b		志願倍率 b/a	受験者数c		受験倍率 c/a	合格者数d		合格倍率 c/d	追加合格者数		入学者数	
			全体	(県内)		全体	(県内)		全体	(県内)		全体	(県内)	全体	(県内)
文化学部	文化学科 [言語文化系/ 地域文化創造系]	推薦	県内	30	45 (45)	1.5	45 (45)	1.5	32 (32)	1.4			32 (32)		
			全国	8	32 (3)	4.0	32 (3)	4.0	10 (1)	3.2			10 (1)		
		個別	前期	72	197 (59)	2.7	171 (55)	2.4	86 (23)	2.0	0 (0)	0 (0)	75 (23)		
			後期	10	149 (72)	14.9	52 (30)	5.2	13 (10)	4.0	0 (0)	0 (0)	10 (8)		
		社会人	若干名	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
		私費外国人留学生	若干名	3	-	3	-	1	-			1			
		1年次計		120	426 (179)	3.6	303 (133)	2.5	142 (66)	2.1	0 (0)	0 (0)	128 (64)		
		3年次編入		5	6 (1)	1.2	5 (1)	1.0	2 (0)	2.5	0 (0)	0 (0)	1 (0)		
	合計		125	432 (180)	3.5	308 (134)	2.5	144 (66)	2.1	0 (0)	0 (0)	129 (64)			
	文化学科 [文化総合系 (夜間主コース)]	推薦	県内	10	6 (6)	0.6	6 (6)	0.6	5 (5)	1.2			5 (5)		
		社会人A		10	9 (4)	0.9	9 (4)	0.9	4 (2)	2.3	0 (0)	0 (0)	4 (2)		
		社会人B		10	30 (14)	3.0	23 (12)	2.3	18 (10)	1.3	0 (0)	0 (0)	15 (9)		
		1年次計		30	45 (24)	1.5	38 (22)	1.3	27 (17)	1.4	0 (0)	0 (0)	24 (16)		
3年次編入			3	6 (1)	2.0	6 (1)	2.0	1 (0)	6.0	0 (0)	0 (0)	1 (0)			
合計			33	51 (25)	1.5	44 (23)	1.3	28 (17)	1.6	0 (0)	0 (0)	25 (16)			
看護学部	看護学科	推薦	県内	22	40 (40)	1.8	40 (40)	1.8	22 (22)	1.8			22 (22)		
		個別	前期	52	167 (33)	3.2	147 (29)	2.8	57 (11)	2.6	0 (0)	0 (0)	56 (11)		
			後期	6	128 (23)	21.3	55 (13)	9.2	7 (1)	7.9	0 (0)	0 (0)	6 (1)		
		社会人	若干名	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	0 (0)		
		私費外国人留学生	若干名	1	-	1	-	1	-			1			
		合計 (1年次計)		80	336 (96)	4.2	243 (82)	3.0	87 (34)	2.8	0 (0)	0 (0)	85 (34)		
社会福祉学部	社会福祉学科	推薦	県内	20	36 (36)	1.8	36 (36)	1.8	21 (21)	1.7			21 (21)		
		全国	10	23 (0)	2.3	23 (0)	2.3	11 (0)	2.1			11 (0)			
		個別	前期	35	175 (27)	5.0	145 (23)	4.1	40 (9)	3.6	0 (0)	0 (0)	38 (8)		
			後期	5	103 (16)	20.6	46 (8)	9.2	5 (0)	9.2	0 (0)	0 (0)	3 (0)		
		社会人	若干名	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	0 (0)		
		私費外国人留学生	若干名	5	-	3	-	2	-			1			
合計 (1年次計)		70	342 (79)	4.9	253 (67)	3.6	79 (30)	3.2	0 (0)	0 (0)	74 (29)				
健康栄養学部	健康栄養学科	推薦	県内	12	17 (17)	1.4	17 (17)	1.4	12 (12)	1.4			12 (12)		
		全国	5	26 (0)	5.2	26 (0)	5.2	5 (0)	5.2			5 (0)			
		個別	前期	23	107 (11)	4.7	100 (11)	4.3	28 (2)	3.6	0 (0)	0 (0)	27 (2)		
			後期	5	103 (16)	20.6	46 (8)	9.2	5 (0)	9.2	0 (0)	0 (0)	3 (0)		
		社会人	若干名	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	0 (0)		
		私費外国人留学生	若干名	0	-	0	-	0	-			0			
合計 (1年次計)		40	150 (28)	3.8	143 (28)	3.6	45 (14)	3.2	0 (0)	0 (0)	44 (14)				
学部計 (夜間主を除く)	推薦	県内	84	138 (138)	1.6	138 (138)	1.6	87 (87)	1.6			87 (87)			
		全国	23	81 (3)	3.5	81 (3)	3.5	26 (1)	3.1			26 (1)			
	個別	前期	182	646 (130)	3.5	563 (118)	3.1	211 (45)	2.7	0 (0)	0 (0)	196 (44)			
		後期	21	380 (111)	18.1	153 (51)	7.3	25 (11)	6.1	0 (0)	0 (0)	19 (9)			
	社会人	若干名	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	-	0 (0)	0 (0)			
	私費外国人留学生	若干名	9	-	7	-	4	-	1.8			3			
	1年次計		310	1,254 (382)	4.0	942 (310)	3.0	353 (144)	2.7	0 (0)	0 (0)	331 (141)			
	3年次編入計		5	6 (1)	1.2	5 (1)	1.0	2 (0)	2.5	0 (0)	0 (0)	1 (0)			
総合計		315	1,260 (383)	4.0	947 (311)	3.0	355 (144)	2.7	0 (0)	0 (0)	332 (141)				
学部総合計 (夜間主も含む)	1年次総合計		340	1,299 (406)	3.8	980 (332)	2.9	380 (161)	2.6	0 (0)	0 (0)	355 (157)			
	3年次編入総合計		8	12 (2)	1.5	11 (2)	1.4	3 (0)	3.7	0 (0)	0 (0)	2 (0)			
	総合計		348	1,311 (408)	3.8	991 (334)	2.8	383 (161)	2.6	0 (0)	0 (0)	357 (157)			
看護学研究科			26	31 (16)	1.2	31 (16)	1.2	29 (16)	1.1	0 (0)	0 (0)	29 (16)			
人間生活学研究科			21	13 (11)	0.6	13 (11)	0.6	12 (11)	1.1	0 (0)	0 (0)	12 (11)			
研究科計			47	44 (27)	0.9	44 (27)	0.9	41 (27)	1.1	0 (0)	0 (0)	41 (27)			

(2)出身地別入学状況

【学部】

○一般選抜

(単位:人)

学部	文化学部		看護学部		社会福祉学部		健康栄養学部	合 計			
	文 化		看 護		社会福祉		健康 栄養				
区分	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	前期	後期	計	割合
北海道	1	1	1	0	0	0	0	2	1	3	1.4%
青森	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
岩手	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
宮城	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
秋田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
山形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
福島	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
茨城	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
栃木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
群馬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
埼玉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
千葉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
東京	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
神奈川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
新潟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
富山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
石川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
福井	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
山梨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
長野	2	0	0	1	0	0	0	2	1	3	1.4%
岐阜	0	0	1	0	0	0	2	3	0	3	1.4%
静岡	0	0	1	0	2	1	2	5	1	6	2.8%
愛知	0	0	0	0	2	0	1	3	0	3	1.4%
三重	0	0	1	0	1	0	1	3	0	3	1.4%
滋賀	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0.5%
京都	1	0	2	0	0	0	0	3	0	3	1.4%
大阪	1	0	0	0	1	0	2	4	0	4	1.9%
兵庫	8	0	11	0	2	0	7	28	0	28	13.0%
奈良	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
和歌山	5	0	1	0	0	0	0	6	0	6	2.8%
鳥取	2	0	1	0	1	0	0	4	0	4	1.9%
島根	0	1	1	0	0	0	1	2	1	3	1.4%
岡山	3	0	5	0	2	0	0	10	0	10	4.7%
広島	5	0	4	1	1	0	1	11	1	12	5.6%
山口	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.5%
徳島	6	0	0	0	3	1	4	13	1	14	6.5%
香川	6	0	2	0	3	0	3	14	0	14	6.5%
愛媛	3	0	5	2	5	1	1	14	3	17	7.9%
高知	23	8	11	1	8	0	2	44	9	53	24.7%
福岡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
佐賀	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
長崎	1	0	2	1	1	0	0	4	1	5	2.3%
熊本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
大分	4	0	1	0	3	0	0	8	0	8	3.7%
宮崎	0	0	1	0	1	0	0	2	0	2	0.9%
鹿児島	0	0	2	0	1	0	0	3	0	3	1.4%
沖縄	1	0	1	0	0	0	0	2	0	2	0.9%
合計	75	10	56	6	38	3	27	196	19	215	100%

○学校推薦型選抜

(単位:人)

学部	文化		看護	社会福祉	健康栄養	合計	割合
	文化学科 言語文化系/地域文化創造系	文化学科 文化総合系 (夜間主コース)	看護	社会福祉	健康栄養		
岐阜	0	0	0	0	1	1	0.8%
三重	0	0	0	1	0	1	0.8%
兵庫	1	0	0	0	0	1	0.8%
岡山	1	0	0	0	1	2	1.7%
広島	0	0	0	1	0	1	0.8%
徳島	1	0	0	3	1	5	4.2%
香川	1	0	0	1	0	2	1.7%
愛媛	4	0	0	4	0	8	6.8%
高知	33	5	22	21	12	93	78.8%
福岡	0	0	0	0	1	1	0.8%
宮崎	0	0	0	1	0	1	0.8%
沖縄	1	0	0	0	1	2	1.7%
合計	42	5	22	32	17	118	100%

【大学院】

(単位:人)

研究科	看護学研究科		人間生活学研究科		合計	割合
	看護学専攻		人間生活学専攻	人間生活学専攻		
	博士前期課程	博士後期課程	博士前期課程	博士後期課程		
東京	1	0	0	0	1	2.4%
神奈川	1	0	0	0	1	2.4%
大阪	0	1	0	0	1	2.4%
兵庫	1	1	0	0	2	4.9%
香川	1	0	0	0	1	2.4%
愛媛	2	2	0	0	4	9.8%
高知	13	4	8	4	29	70.7%
大分	1	0	0	0	1	2.4%
外国	1	0	0	0	1	2.4%
合計	21	8	8	4	41	100%

3 学生数(令和2年5月1日現在)

(単位:人)

学部・学科・専攻		1回生			2回生			3回生			4回生			5回生以上			合計		
		県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計
文化学部 (昼)	文化学科	53	72	125	47	76	123	50	81	131	45	93	138	/	/	/	195	322	517
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	/	/	/	1	1	2
	小計	53	72	125	47	76	123	50	82	132	46	93	139	/	/	/	196	323	519
文化学部 (夜間主)	文化学科	18	16	34	20	10	30	16	12	28	21	16	37	/	/	/	75	54	129
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	3	6	/	/	/	3	5	8
	小計	18	16	34	20	10	30	16	14	30	24	19	43	/	/	/	78	59	137
看護学部	看護学科	33	50	83	32	50	82	34	50	84	39	44	83	/	/	/	138	194	332
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	/	/	/	0	0	0
	小計	33	50	83	32	50	82	34	50	84	39	44	83	/	/	/	138	194	332
社会福祉学部	社会福祉学科	29	49	78	32	43	75	32	41	73	38	39	77	/	/	/	131	172	303
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	/	/	/	0	0	0
	小計	29	49	78	32	43	75	32	41	73	38	39	77	/	/	/	131	172	303
健康栄養学部	健康栄養学科	18	22	40	13	30	43	14	29	43	11	29	40	/	/	/	56	110	166
	編入生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	/	/	/	0	0	0
	小計	18	22	40	13	30	43	14	29	43	11	29	40	/	/	/	56	110	166
学部合計	学部合計	151	209	360	144	209	353	146	213	359	154	221	375	/	/	/	595	852	1,447
	編入生合計	0	0	0	0	0	0	0	3	3	4	3	7	/	/	/	4	6	10
	合計	151	209	360	144	209	353	146	216	362	158	224	382	/	/	/	599	858	1,457
大学院	看護学研究科看護学専攻(博士前期)	10	7	17	14	7	21	/	/	/	/	/	/	/	/	/	24	14	38
	看護学研究科看護学専攻(博士後期)	2	3	5	0	3	3	6	5	11	/	/	/	/	/	/	8	11	19
	看護学研究科共同災害看護学専攻(博士)	0	0	0	0	1	1	2	0	2	0	3	3	0	2	2	2	6	8
	人間生活学研究科(博士前期)	10	0	10	8	0	8	/	/	/	/	/	/	/	/	/	18	0	18
	人間生活学研究科(博士後期)	4	0	4	0	0	0	0	1	1	/	/	/	/	/	/	4	1	5
大学院合計	合計	26	10	36	22	11	33	8	6	14	0	3	3	0	2	2	56	32	88
総計		177	219	396	166	220	386	154	222	376	158	227	385	0	2	2	655	890	1,545

4 休学・退学・修業年限を超えて在籍する学生数及び単位互換の状況

(1) 年次別休学者数

(単位:人)

区 分		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
文化学部	文化学科	15	19	13	24	20	
看護学部	看護学科	1	2	3	4	4	
社会福祉学部	社会福祉学科	2	1	3	3	5	
健康栄養学部	健康栄養学科	0	0	0	2	2	
学 部 合 計		18	22	19	33	31	
大 学 院	看護学研究科	看護学専攻(博士前期)	0	1	0	2	3
		看護学専攻(博士後期)	6	0	2	2	6
		共同災害看護学専攻(博士)	0	1	1	1	1
	人間生活学研究科	人間生活学専攻(博士前期)	4	1	2	0	1
		人間生活学専攻(博士後期)	3	1	0	0	0
大 学 院 合 計		13	4	5	5	11	
合 計		31	26	24	38	42	

(2) 年次別退学者数

(単位:人)

区 分		H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	
文化学部	文化学科	21	14	13	13	13	
看護学部	看護学科	0	3	1	1	2	
社会福祉学部	社会福祉学科	2	4	2	1	1	
健康栄養学部	健康栄養学科	0	0	0	2	1	
学 部 合 計		23	21	16	17	17	
大 学 院	看護学研究科	看護学専攻(博士前期)	0	2	0	1	0
		看護学専攻(博士後期)	1	0	0	0	1
		共同災害看護学専攻(博士)	0	0	0	0	1
	人間生活学研究科	人間生活学専攻(博士前期)	4	1	1	0	0
		人間生活学専攻(博士後期)	2	0	3	0	0
大 学 院 合 計		7	3	4	1	2	
合 計		30	24	20	18	19	

(3) 修業年限を超えて在籍する学生数(令和2年4月1日現在)

(単位:人)

区 分		5年	6年	7年	8年以上	計
文化学部	文化学科	22	6	0	0	28
看護学部	看護学科	2	0	0	0	2
社会福祉学部	社会福祉学科	4	0	0	0	4
健康栄養学部	健康栄養学科	0	0	0	0	0
学 部 合 計		28	6	0	0	34

(単位:人)

区 分			3年	4年	5年	6年以上	計
大 学 院	看護学研究科	看護学専攻(博士前期)	4	0	0	0	4
		看護学専攻(博士後期)		5	1	2	8
		共同災害看護学専攻(博士)				1	1
	人間生活学研究科	人間生活学専攻(博士前期)	0	0	0	0	0
		人間生活学専攻(博士後期)		0	0	1	1
大 学 院 合 計			4	5	1	4	14

(4) 単位互換の状況

(単位:人)

大 学 名	派 遣		受 入	
	人数	科目数(延べ)	人数	科目数(延べ)
高知大学	0	0	0	0
高知短期大学	0	0	0	0
高知学園短期大学	0	0	0	0
高知工科大学	0	0	0	0
名古屋市立大学	0	0	0	0
名桜大学	1	6	0	0
合 計	1	6	0	0

5 課外活動

(単位:人)

文化系 (令和3年3月31日現在)		体育系 (令和3年3月31日現在)	
団体名	部員数	団体名	部員数
1 3大学合同地域活性化団体Sun-fes	17	FCソフィア	26
2 COME☆RISH	48	合気道部	5
3 news paper's	5	弓道部	7
4 Society For Everyone	13	柔道部	5
5 イケあい地域災害学生ボランティアセンター	36	準硬式野球部	26
6 いけいけサロン活動	22	女子ソフトボール部	8
7 裏千家茶道部池キャンパス	6	水泳部	4
8 裏千家茶道部(永国寺)	11	ソフトバレーサークル	23
9 エスコーターズ	8	太鼓部	8
10 オーテピアンズ	12	バスケットボール部	23
11 学生子ども保健室「ゆい」	15	バドミントンサークル	13
12 活輝創生実行委員会	17	バレーボール部	13
13 華道部	4		
14 競技かるた部	2		
15 かんきもん	54		
16 グローカルクラブ	11		
17 軽音楽部RiOT	35		
18 国際交流クラブ	11		
19 ☆こどもみらい塾☆	12		
20 こめっ娘。	6		
21 手話サークル	3		
22 高知県立大学池キャンパス吹奏楽団	13		
23 永国寺キャンパス吹奏楽団	15		
24 高知県立大学生生活協同組合学生委員会	1		
25 箏曲部	5		
26 図書館サークルLibe	7		
27 ハモ☆イケ	20		
28 美術部	2		
29 漫画研究部	10		
30 マンドリンクラブ	5		
31 薬物乱用防止啓発サークル「ダメ。ゼッタイ。」	10		
32 JELIE	10		
33 Harmony of Music	6		
34 セキララジオ	6		
35 LGBTQ支援部	4		
36 高知県立大学災害看護学生チーム	3		
37 Pシスターズ	45		
38 室戸ボランティアリーダー	24		
39 UOK手話サークル	15		
40 学生団体コンパスよさこいチーム叢雲	3		
41 落語研究会	7		
41団体	559	12団体	161
53 団体		720 人	

6 授業料等の納入状況

(1) 入学料・授業料

(単位:円)

区 分		入学検定料の額	入学料の額		授業料の額	
			県内生	県外生		
学 生	学 部	17,000 夜間主コース:10,000	141,000 夜間主コース:70,500	282,000 夜間主コース:141,000	年 額	535,800 夜間主コース:267,900
		編入:30,000 編入夜間主コース:18,000				
	大学院	30,000				
科目等履修生		4,900	14,100 夜間主コース:7,500	28,200 夜間主コース:14,100	1単位	14,800 夜間主コース:7,400
研 究 生		4,900	42,300	84,600	月 額	29,700

(2) 授業料免除状況①(経済的理由による免除、家計急変等特別な事情による免除)

区 分	学 部			大 学 院			合 計			
	半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計	
平成28 (2016) 年度	免除者(人)	63	123	186	2	1	3	65	124	189
	免除額(円)	16,609,800	64,563,900	81,173,700	535,800	535,800	1,071,600	17,145,600	65,099,700	82,245,300
平成29 (2017) 年度	免除者(人)	52	92	144	4	1	5	56	93	149
	免除額(円)	13,930,800	48,445,250	62,376,050	1,071,600	535,800	1,607,400	15,002,400	48,981,050	63,983,450
平成30 (2018) 年度	免除者(人)	63	105	168	6	0	6	69	105	174
	免除額(円)	16,877,700	53,580,000	70,457,700	1,607,400	0	1,607,400	18,485,100	53,580,000	72,065,100
令和元 (2019) 年度	免除者(人)	75	89	164	7	4	11	82	93	175
	免除額(円)	20,047,850	46,569,950	66,617,800	1,875,300	1,964,600	3,839,900	21,923,150	48,534,550	70,457,700
令和2 (2020) 年度	免除者(人)	53	74	127	8	6	14	61	80	141
	免除額(円)	12,680,600	22,771,500	35,452,100	2,143,200	3,214,800	5,358,000	14,823,800	25,986,300	40,810,100

(3) 授業料免除状況②(成績優秀者に対する免除)

区 分	学 部			大 学 院			合 計			
	半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計	半額免除	全額免除	合計	
平成28 (2016) 年度	免除者(人)	10	12	22	-	-	0	10	12	22
	免除額(円)	2,679,000	6,161,700	8,840,700	-	-	0	2,679,000	6,161,700	8,840,700
平成29 (2017) 年度	免除者(人)	11	12	23	-	-	0	11	12	23
	免除額(円)	2,946,900	5,893,800	8,840,700	-	-	0	2,946,900	5,893,800	8,840,700
平成30 (2018) 年度	免除者(人)	12	12	24	-	-	0	12	12	24
	免除額(円)	3,036,200	5,893,800	8,930,000	-	-	0	3,036,200	5,893,800	8,930,000
令和元 (2019) 年度	免除者(人)	12	12	24	-	-	0	12	12	24
	免除額(円)	2,812,950	6,429,600	9,242,550	-	-	0	2,812,950	6,429,600	9,242,550

※平成28年度制度開始、成績優秀による免除は平成31年度まで

(令和2年度以降は、制度変更により、学長奨励賞 受賞者への副賞として奨励金支給開始)

7 日本学生支援機構奨学金受給状況（令和3年3月1日現在）

【学部】

(単位:人、%)

区 分		文化学部	看護学部	社会福祉学部	健康栄養学部	合計	
全学年	給付	96	45	41	20	202	
	給付率(%)	14.6	13.6	13.5	12.0	13.9	
	貸与	1種	193	102	100	63	458
		2種	127	71	47	34	279
		合計	320	173	147	97	737
		併用	46	19	16	13	94
		貸与率(%)※	41.8	46.4	43.2	50.6	44.1
	他奨学金※※	8	22	34	8	72	
	学生数	656	332	303	166	1,457	
	1回生	給付	31	23	12	5	71
貸与		1種	51	22	16	21	110
		2種	50	12	13	11	86
		合計	101	34	29	32	196
		併用	23	7	9	7	46
他奨学金※※		4	5	6	5	20	
2回生	給付	27	3	7	3	40	
	貸与	1種	45	25	26	11	107
		2種	32	19	14	10	75
		合計	77	44	40	21	182
		併用	10	4	3	2	19
	他奨学金※※	3	7	11	2	23	
3回生	給付	16	14	12	9	51	
	貸与	1種	45	27	28	18	118
		2種	21	28	8	9	66
		合計	66	55	36	27	184
		併用	8	7	3	4	22
	他奨学金※※	1	4	9	0	14	
4回生	給付	22	5	10	3	40	
	貸与	1種	52	28	30	13	123
		2種	24	12	12	4	52
		貸与合計	76	40	42	17	175
		併用	5	1	1	0	7
	他奨学金※※	0	6	8	1	15	

※ 貸与率(%) = [(合計-併用)]/学生数*100 ※※ 他奨学金:日本学生支援機構以外

【大学院】

(単位:人、%)

区 分	看護学研究科	人間生活学研究科	合計	
全学年	1種	7	3	10
	2種	1	1	2
	合計	8	4	12
	併用	1	0	1
	学生数	65	23	88
	貸与率(%)※	10.7%	17%	28.1%
	他奨学金※※	3	0	3

※ 貸与率(%) = [(合計-併用)]/学生数*100 ※※ 他奨学金:日本学生支援機構以外

8 卒業(修了)者状況

(1) 年次別卒業(修了)者数

(単位:人)

区 分		年 度	H28	H29	H30	R1	R2
学部	文化学部	文化学科	83	91	137	138	135
	看護学部	看護学科	82	80	82	82	82
	社会福祉学部	社会福祉学科	71	68	70	71	73
	健康栄養学部	健康栄養学部	41	41	42	41	40
	学 部 計		277	280	331	332	330
大学院	看護学研究科看護学専攻(博士前期)		14	10	16	11	17
	看護学研究科看護学専攻(博士後期)		1	3	1	6	3
	看護学研究科共同災害看護学専攻(博士)				1	2	1
	人間生活学研究科人間生活学専攻(博士前期)		15	5	13	7	6
	人間生活学研究科人間生活学専攻(博士後期)		10	2	0	2	1
	大 学 院 計		40	20	31	28	28
合 計			317	300	362	360	358

(2) 令和2年度卒業生 就職状況

学科別産業別就職状況(令和3年5月1日現在)

(単位:人)

区 分	文化学部	看護学部	社会福祉学部	健康栄養学部	合計
	文化	看護	社会福祉	健康栄養	
卒業者数	135	82	73	40	330
進学・留学決定者数	6	1	3	2	12
就職希望なし	9	0	3	0	12
就職希望者数(A)	120	81	67	38	306
就職決定者数(B)	116	81	66	38	301
就職決定率(B)/(A)%	96.7%	100.0%	98.5%	100.0%	98.4%
農林水産業・鉱業	1				1 (0)
建設業	2				2 (0)
製造業	7 (1)	1		1	9 (1)
電気・ガス・水道業	1 (1)				1 (1)
情報通信業	9 (2)				9 (2)
運輸業、郵便業	4				4 (0)
卸売業、小売業	14 (5)		1 (1)	8 (3)	23 (9)
金融業、保険業	12 (6)		1 (1)		13 (7)
不動産業、物品賃貸業	1				1 (0)
学術研究、専門・技術サービス業	1			1	2 (0)
宿泊業、飲食サービス業	6			4	10 (0)
生活関連サービス業、娯楽業	5 (1)		1 (1)	4 (2)	10 (4)
教育、 学習支援業	学校教育	16 (5)	7 (3)	2 (0)	25 (8)
	学習支援	8 (1)		4 (1)	12 (2)
医療・福祉	医療・保健	1 (1)	60 (16)	17 (5)	88 (25)
	福祉・介護	5		33 (13)	38 (13)
複合サービス事業	5 (4)		3	2	10 (4)
サービス業 (他に分類されないもの)	10 (4)				10 (4)
公務	8 (5)	13 (6)	10 (5)	2 (1)	33 (17)
上記以外					0 (0)
合 計	116 (36)	81 (25)	66 (26)	38 (10)	301 (97)

注 ()内の数値は高知県内に就職した者
分類は日本標準産業分類による分類

VI 総合情報センター

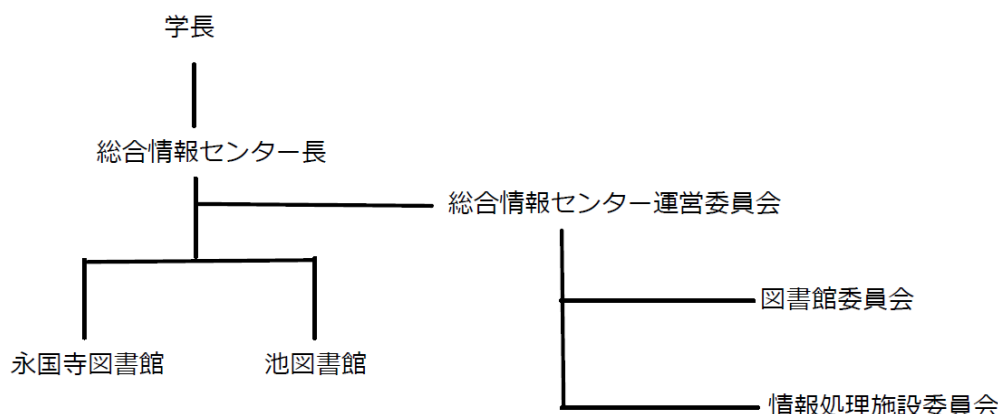
1 概要

総合情報センターがめざすもの

高知県立大学総合情報センター図書館の管理、運営、図書館資料の収集、整理、保存、閲覧、調査及び情報処理施設の管理、運営を行い、教職員及び学生の情報処理に関する教育、研究の支援を行うとともに、地域社会の図書館活動及び学術情報システムの確立に協力し、地域の発展に寄与する。

2 組織・委員会

(1) 組織



(2) 委員会

ア 図書館委員会

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。(図書館委員会細則第2条:審議事項)

1. 図書館の整備計画及び維持管理に関すること。
2. 図書館の図書館資料の収集、利用、管理及び調査等に関すること。
3. 学術情報の電子化及び情報発信等に関すること。
4. 図書館の利用者教育に関すること。
5. 図書館所蔵の特別資料の指定に関すること。
6. 他の図書館等との連携に関すること。
7. その他図書館の運営に関し必要な事項。

イ 情報処理施設委員会

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。(情報処理施設委員会細則第2条:審議事項)

1. 情報処理施設及び設備(以下「情報処理施設等」という。)の整備計画及び維持管理に関すること。
2. 情報処理施設等の利用及び運用等に関すること。
3. 情報処理施設等の利用者教育に関すること。
4. 他の情報システムとの連携に関すること。
5. その他情報処理施設等の運営に関し必要な事項。

3 図書等受入状況

(単位:冊)

図書		永国寺	池	合計
和漢書	令和2年度 受入数	1,399	1,017	2,416
	令和2年度 除籍等	-602	-3,684	-4,286
	蔵書数 (R3年3/31現在)	132,671	83,826	216,497
洋書	令和2年度 受入数	154	116	270
	令和2年度 除籍等	-5	-181	-186
	蔵書数 (R3年3/31現在)	19,836	13,066	32,902
合計	令和2年度 受入数	1,553	1,133	2,686
	令和2年度 除籍等	-607	-3,865	-4,472
	蔵書数 (R3年3/31現在)	152,507	96,892	249,399

(単位:タイトル)

雑誌		永国寺	池	合計
和雑誌	令和2年度 受入数	100	166	266
	令和2年度 受入開始数	0	1	1
	令和2年度 除籍等	0	0	0
	蔵書数 (R3年3/31現在)	939	925	1,864
洋雑誌	令和2年度 受入数	9	46	55
	令和2年度 受入開始数	0	4	4
	令和2年度 除籍等	0	0	0
	蔵書数 (R3年3/31現在)	235	211	446
合計	令和2年度 受入数	109	212	321
	令和2年度 受入開始数	0	5	5
	令和2年度 除籍等	0	0	0
	蔵書数 (R3年3/31現在)	1,174	1,136	2,310

4 図書館利用状況

<図書館利用状況>

(単位:人、冊)

	永国寺	池	合計
入館者数	25,596	37,221	62,817
貸出人数	3,112	3,337	6,449
貸出冊数	5,463	9,048	14,511

新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年3月より学外利用者の入館を停止している。

<文献複写> (令和3年3月31日現在)

(単位:件)

	依 頼			受 付
	公費	私費	合計	計
永国寺	61	60	121	94
池	407	138	545	406
合計	468	198	666	500

5 学内 LAN 状況

(1) サーバ、ネットワークシステムの概要

ア サーバ

重要サーバ群(教務システム、財務システム等の業務用サーバ)は、高知工科大学と共同利用しているデータセンターに構築している仮想基盤上に配置している。情報演習室のシステムのサーバは永国寺キャンパスに配置している。

イ ネットワークシステム

池・永国寺キャンパスともにデータセンターからインターネットに繋がっており、永国寺キャンパスと池キャンパス、データセンター間は1Gbpsで接続されている。

コロナ対応による遠隔授業の増加など、通信帯域の逼迫が発生したため、令和3年3月に各キャンパス、データセンター間及びインターネット接続を10Gbpsに増速した。

両キャンパスともに有線・無線LAN環境が整備されている。

(2) 登録ID(教職員、学生、大学院生ごとの内訳)及び接続端末の総数

ア 登録ID総数 1,778名 教職員236名(教員120名、事務職員116名)

学生1,542名(学部1,456名、大学院86名)

イ 接続端末総数 約690台 永国寺キャンパス 約320台

池キャンパス 約370台

(3) 情報演習室

ア 池情報演習室 2室(利用者用端末 各49台)

イ 池大学院生研究室 3室(利用者用端末 各14台)

ウ 永国寺情報演習室 2室(利用者用端末 130台、48台)

※永国寺情報演習室は高知工科大学と共用している。

VII 地域教育研究センター

地域教育研究センターは、本学が、社会に貢献する大学として、地域コミュニティに根ざし、また、未来を拓く「知の拠点」としての役割の強化並びに本学の教育理念である「地域社会志向教育」を実現するために、平成24年4月に設置された。

1. 地域教育研究センターは、中山間対策など高知県や地域が抱える現状や課題、ニーズを把握し、県・市町村や地域の諸組織、本学卒業生などとともに本学との協働体制を構築し、機能させる仕組みづくりを行い、全学体制で課題解決に取り組む。
2. 地域課題に関する情報を入手できる環境を整備し、学生が主体的に行動できるよう、プログラムや支援体制を充実させる。
3. 公開講座、県民開放授業、履修証明プログラム、科目等履修生制度等を活用し、県民が学び続けることのできる生涯学習プログラムを構築し、実施する。
4. 専門職者を対象とする研修会やリカレント教育を実施し、最新の知識や高度な技術を伝え、専門職者の力量アップを支援する。
5. 地域の教育機関や行政等との連携を図り、共同事業等を通じて、児童や生徒の学問に対する興味や関心を高めるための公開講座や出前講座等の学習支援活動を実施する。

<事業実施状況>

【履修証明プログラム】

平成26年度から「履修証明プログラム」を開始している。
令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、募集中止となった。

【高知県立大学県民開放授業】

県民開放授業は、平成14年度後期から、文化学部の公開講座の一つとして始まった。平成25年度には、地域教育研究センターが「AERU県民公開授業」を開始した。平成26年度からは、上記2つの事業を統合し、「高知県立大学県民開放授業」を実施している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、募集中止となった。

【高大連携事業】

(1) 小・中・高等学校への出前講座

学問に対する興味・関心を高め、大学で学ぶことの魅力や楽しさについて知っていただくことを目的に、高知県内の小・中・高等学校の児童、生徒を対象に、出前講座を実施している。

延べ受講者数:628人

実施校名	実施日	対象者	受講者数
高知追手前高等学校	令和2年6月27日(中止)	高校1・2年生	-
高知北高等学校(昼間部)	令和2年8月28日	高校1・4年生	10
安芸高等学校	令和2年10月21日	全校生徒	111
高知北高等学校(夜間部)	令和2年10月29日	高校2年生	12
高知学芸中学高等学校	令和2年10月23日	中学3年生・高校1年生	47
山田高等学校	令和2年11月4日	高校2年生	40
土佐女子高等学校	令和2年11月11日	高校1・2年生	134
高知北高等学校(昼間部)	令和2年11月11日	高校2年生	78
高知追手前高等学校	令和2年11月14日	高校1・2年生	68
岡豊高等学校	令和2年11月26日	高校2年生	60
宿毛高等学校	令和2年12月11日(中止)	高校2年生	-
北陵中学校	令和3年1月26日	高校2年生	68

(2) 高校生のための公開講座

高校生が、大学の教育・研究に触れ、学問に対する興味・関心を深め、学びの楽しさについて知っていただくことを目的に実施している。

延べ受講者数:52人

内 容	実施日	対象者	受講者数
「第3回県大立志塾2020」			
①高知県の地域課題をどう認識するか	令和2年12月12日	高校生	17
②人生100年時代がやってくる！人生会議ってなに？	令和3年1月24日	高校生	15
③いまできること～災害に備える～	令和3年3月6日	高校生	20

【地域教育研究センター主催公開講座】

「知の拠点」として、県民を対象とした公開講座を随時開催している。

延べ受講者数:348人

内容・講師	実施日	対象者	受講者数
「豊かな暮らしにつながる学び」			
①豊かな暮らしのために備えておきたい非常食	令和3年2月3日	一般	95
②高知の自由民権－新聞を通して150年前の人々の暮らしと思想に触れる－	令和3年2月10日	一般	64
③地域生活課題の多様化と地域共生社会－住民主体のまち・むらづくり－	令和3年2月17日	一般	91
④感染症と人々の暮らし	令和3年2月24日	一般	98

【第37回「本山町・高知県立大学公開講座」協定書に基づく公開講座】

本山町と本学で公開講座協定書を締結し7回の公開講座を行った。5講座以上受講した方に、修了証書を発行した。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、6回目の講座は中止となった。

延べ受講者数:86人(第6回講座除く)

	「夜学」全8回 講座内容	実施日	対象者	受講者数
1	開校式 ホンモノの日本は高知にある	令和2年8月25日	本山町民他	17
2	免疫と栄養・食生活	令和2年9月15日	本山町民他	19
3	源氏物語	令和2年10月19日	本山町民他	10
4	医療情報の探し方	令和2年11月18日	本山町民他	11
5	海洋深層水のウソとホント	令和2年12月2日	本山町民他	11
6	セルフケア	令和2年12月22日	本山町民他	中止
7	心理学ワールド	令和3年1月25日	本山町民他	8
8	閉校式 人生会議	令和3年2月19日	本山町民他	10

【立志社中】

平成25年度から、地域の課題解決に主体的に取り組む学生を大学として支援する「立志社中」をスタートさせた。令和2年度は、8件のプロジェクトを採択した。

(1) 令和2年度採択プロジェクト「立志社中」

プロジェクト名	チーム名	交付額(利息含) [執行額]
池地域まるごとサロン活動	いけいけサロン活動	70,000円 [6,881円]
地域と今できること	Pシスターズ	130,000円 [52,497円]
みんなで支えあう「共生社会」を目指して	かんきもん	85,700円 [19,880円]
それいけ！大野見エコ米～No Rice, No Life～	COME☆RISH	49,018円 [5,457円]
グローバルライフ	グローバルクラブ	93,100円 [2,488円]
健援隊Limaプロジェクト	健援隊Bravo・Charlie合同チーム	12,480円 [8,327円]
結い直しプロジェクト	活輝創生実行委員会	138,000円 [17,210円]
里山文化再生プロジェクト	しらいしの風	42,620円 [0円]

(2) その他実施事業

事業名	実施時期	詳細
プレゼンテーション及び審査会	令和2年8月1日	応募のあった8件のプロジェクトについて、プレゼンテーション及び審査会を実施し、採択プロジェクトを決定した。
第1回スキルアップセミナー 「持続可能な社会とESD」 講師:名古屋市立大学人間文化 研究科 准教授 曾我 幸代 氏	令和2年12月12日	「持続可能な開発目標 (SDGs)」が「持続可能な開発(発展)のための教育 (ESD)」から「ミレニアム開発目標 (MDGs)」を経て国連サミットにて採択されるまでの流れとともに、「SDGs」がどのようなものであるかについてご講演いただいた。
活動成果報告会	令和3年3月7日	各プロジェクトの活動を報告・評価し、成果や課題を共有することを目的として開催した。

【令和2年度全国公立大学学生大会 LINKtopos 2020への参加】

8回目を迎えるLINKtoposは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から初めてオンラインでの開催となった。全国16の公立大学から61人の学生・教職員が参加し、本学からは立志社中に所属している2人の学生が運営に携わりながら、全国の公立大学の学生と交流した。

テーマ : 「再考」
日 時 : 令和2年9月26日(土)
場 所 : 岡山県立大学(オンライン開催)

【コミュニティサービスラーニング(CSL)サポートデスク】

地域の抱える課題を認識し、課題解決への関心を高めた学生が、専門的な知識や技術など大学での学びの成果を活かして、域学共生の理念に基づき、ボランティア活動を行うコミュニティサービスラーニングを支援することを目的とするための窓口として、平成28年度に設置された。

延べ参加者数:33人

概要	受入先	件数	参加学生数
小津高校SSH事業課題研究TA	高知県立高知小津高等学校	1	13
小・中学校での学習支援	津野町教育委員会(夏季)	1	15
小・中学校での学習支援	三原村教育委員会(夏季)	1	5

【包括連携協定】

本協定は、各市町村や企業・NPO法人等の団体と本学が多様な分野で緊密な協力関係を築き、持続・発展的に連携を深めることにより、未来を担う人材の育成や活力ある地域社会の形成・発展に寄与することを目的とする。

協定締結団体との連携

団体名	事業名	期間	概要	参加者等
津野町	学習支援ボランティアの派遣	令和2年8月24日-28日 令和2年8月31日-9月4日	CSLサポートデスク (再掲)	15
三原村	学習支援ボランティアの派遣	令和2年8月24日-29日	CSLサポートデスク (再掲)	5

【協力団体との連携強化に向けた取り組み】

連携の強化に向けて、高知県や市町村、学生受入団体等との情報交換を定期的に行っている。

内 容	開催時期・訪問先
連携推進会議(包括連携協定の締結自治体・高知県立大学) ※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、集合会議を中止し、各自自治体を訪問した。	令和2年12月21日:安芸市、香美市 令和3年1月14日:佐川町、津野町 令和3年1月15日:三原村 令和3年1月18日:高知市
ご意見番会議 (佐川町尾川地区活性化協議会)	令和3年1月14日:佐川町

VIII 健康長寿センター

健康長寿センターは、本学の学部が連携して、地域の人々の健康長寿の推進および健康長寿社会の構築に貢献する専門職者の最新の知識や技術の向上に努めることを目的として、平成22年4月に設置された。

センターは、平成30年度に改めて活動ポリシー(次表)をまとめ、5つの活動を行っている。

【活動状況】

活動ポリシー	内 容	回数	実施時期	参加数 (人)	対象者・参加者
高知県民の皆様 に対し健康長寿 を啓発する活動 (域学共生)	おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター ①「転倒予防体操」 第1回:(講義)転倒予防に向けた運動の重要性 第2回:(講義)運動前の体調確認と運動後のクールダウンの重要性 第3回:(運動)足元体操 かんたん体操 基本編 第4回:(運動)足元体操 かんたん体操 応用編 第5回:(運動)足元体操 棒体操編(新聞棒) 第6回:(講義)運動の効果をあげる大切な食事 第7回:(運動)足元体操 身近にあるものを使った体操編 第8回:(運動)足元体操 かんたん体操 おさらい編 番外編:新聞棒を作ろう	8	令和2年11月9日から、高知県立大学健康長寿センターYouTubeチャンネルで、全8回シリーズとして随時配信	792 (3/31 時点)	在宅高齢者、一般県民、医療・介護・福祉従事者
	おうちで健康長寿体験型セミナー Presented by 高知県立大学健康長寿センター ②「お口の健康は全身の健康ー肺炎を予防しようー」 第1回:(講義)高齢者における肺炎予防の重要性 第2回:(講義)肺炎を予防するために必要なこと 第3回:(実技)日々の生活に取り入れよう① -お口の体操の実演- 第4回:(実技)日々の生活に取り入れよう② -食するときの姿勢のコツの実演-	4	令和3年3月から、高知県立大学健康長寿センターYouTubeチャンネルで、全4回シリーズとして随時配信	19 (3/31 時点)	在宅高齢者、一般県民、医療・介護・福祉従事者
	土佐市連携事業 「とさっ子健診プロジェクト」	4	通年	163	土佐市全域の小学5年生及び中学2年生
	土佐市連携事業 「土佐市地域ケア会議推進プロジェクト」	9	通年		土佐市地域包括支援センター
	土佐市連携事業 「子育て支援事業 土佐市両親学級」		新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、本学からの参加中止		
	「第12回みさとフェア」への参画		新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度の開催中止		
	健康長寿文庫(令和2年度139冊収蔵)		通年		一般県民
高知県の医療・健康・福祉政策課題を解決する活動	高知県中山間地域等訪問看護師育成講座 ～令和2年度訪問看護スタートアップ研修～		通年	15	訪問看護ステーションに勤務する新任・新卒訪問看護師及び病院などに勤務する看護師
	高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	3	令和2年10月17日-18日 令和2年12月5日-6日 令和3年2月18日-19日	19	介護福祉士、介護職員、特別支援学校教員、保育士等、特定の者に対してたんの吸引等の行為を行う必要がある者
	入退院支援事業	13	通年	742	県内病院・施設・福祉保健所・地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等

活動ポリシー	内 容	回数	実施時期	参加数 (人)	対象者・参加者
高知県の医療・健康・福祉政策課題を解決する活動	高知県キャリア教育推進事業 集合型研修 福祉で未来を探求！高校生のためのWeb EVENT ①～社会福祉の事を分かりやすく学べます～	1	令和2年8月9日	98	高校生と保護者
	高知県キャリア教育推進事業 集合型研修 福祉で未来を探求！高校生のためのWeb EVENT ②～卒業生の働く現場からLIVE配信～	1	令和2年9月27日	52	高校生と保護者
	高知県キャリア教育推進事業 集合型研修 福祉で未来を探求！高校生のためのWeb EVENT ③～アカデミックに福祉介護を探求する～	1	令和2年11月8日	75	高校生と保護者
	高知県キャリア教育推進事業 集合型研修 福祉で未来を探求！高校生のためのWeb EVENT ④～認知症を地域で支える～	1	令和3年3月22日	64	高校生と保護者
	高知県キャリア教育推進事業 訪問型講座	8	令和2年8月24日、 令和2年9月25日、 令和2年9月28日、 令和2年9月30日(2校)、 令和2年10月19日、 令和2年10月22日、 令和2年10月27日	200	高校生・高校教員
	糖尿病保健指導連携体制構築事業		通年	281	モデル基幹病院の看護師
高知医療センターとの包括的連携を推進する活動	高知医療センター地域医療連携研修会の合同開催 「人生の最終段階における緩和ケアについて ー退院支援の課題から考えるー」	1	令和3年2月6日	63	高知県内外の皆様
	専門職者のキャリアサポート 「看護実践能力を高めるオンラインでの学びを支援する ～インストラクショナルデザインの活用～」	1	令和2年9月20日	41	高知県立大学教員・医療専門職者・医療者教育に従事する方、修了生
	糖尿病勉強会(Web配信)	1	令和3年3月16日	26	糖尿病患者と患者家族、健康栄養学部生
	医療コンフリクト・マネジメント研修		新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度の開催中止		
	子育て支援事業 「赤ちゃん同窓会」		新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度の開催中止		
	教員による若手看護師のキャリア・サポート 「専門職としてのキャリア・デザイン」		新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度の開催中止		
	病院前妊産婦救護に関するシミュレーションコース BLSO in 高知		新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度の開催中止		
慢性疾患を有する患者対象の料理教室		新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度の開催中止			

活動ポリシー	内 容	回数	実施時期	参加数 (人)	対象者・参加者	
高知県内の医療・健康・福祉専門職者のスキルアップに資する活動	リカレント教育講座 社会福祉学部 リカレント教育講座 「- ようこそ！ 知のフィールドへ -」 ①「障害を理由とした差別の禁止と障害者就労支援の行方」	1	令和2年11月9日-16日	118	保健・医療・福祉従事者・一般県民	
	リカレント教育講座 社会福祉学部 リカレント教育講座 「- ようこそ！ 知のフィールドへ -」 ②「オーラルフレイルってなんだろう？」	1	令和2年11月16日-24日	133	保健・医療・福祉従事者・一般県民	
	リカレント教育講座 社会福祉学部 リカレント教育講座 「- ようこそ！ 知のフィールドへ -」 ③「要介護高齢者の家族支援について考える一家族介護者アセスメントのススメー」	1	令和2年11月24日-30日	151	保健・医療・福祉従事者・一般県民	
	リカレント教育講座 社会福祉学部 リカレント教育講座 「- ようこそ！ 知のフィールドへ -」 ④「障害を理由とした差別の禁止と障害者就労支援の行方」	1	令和2年12月8日-	102	保健・医療・福祉従事者・一般県民	
	リカレント教育講座 社会福祉学部 リカレント教育講座 「- ようこそ！ 知のフィールドへ -」 ⑤「オーラルフレイルってなんだろう？」	1	令和2年12月8日-	55	保健・医療・福祉従事者・一般県民	
	リカレント教育講座 社会福祉学部 リカレント教育講座 「- ようこそ！ 知のフィールドへ -」 ⑥「要介護高齢者の家族支援について考える一家族介護者アセスメントのススメー」	1	令和2年12月8日-	140	保健・医療・福祉従事者・一般県民	
	高知県新任期保健師研修会	第1回プリセプター能力育成研修	1	令和2年5月7日	301	高知県・県内市町村に所属する1~4年目の保健師
		1年目研修	2	令和2年8月4日、11月6日		
		2年目研修	2	令和2年6月12日、12月17日		
		3年目研修	2	令和2年7月30日、12月15日		
		4年目研修	2	令和2年6月22日、令和3年2月12日		
		第2回プリセプター能力育成研修	1	令和3年3月22日		
	新任期行政栄養士研修会	2	令和2年7月3日、12月14日	13	高知県・県内市町村に所属する1年目並びに2年目の管理栄養士	
専門職者対象の公開講(看護学部)	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度の開催中止					
新任期保健師採血技術向上研修	新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、今年度の開催中止					

活動ポリシー	内 容	回数	実施時期	参加数 (人)	対象者・参加者
高知県の健康長 寿を研究する活 動	専門職者のキャリアサポート シミュレーション教育オンラインセミナー 「学習評価とデブリーフィングから学習支援を再考する」	1	令和2年11月28日	18	高知県立大教員、 医療専門職者、医 療者教育に従事す る方
	地域ケア会議 コンサルテーション事業		通年		市町村の介護保険 担当課、地域包括 支援センター、地 域ケア会議参加者
	とこざれ相談		通年		市町村の介護保険 担当課、地域包括 支援センター及び 地域ケア会議参加 者
	健康長寿研究のためのロジスティクス		令和2年11月1日- 令和3年2月28日		高知県在住大学生 及び成人

IX 健康管理センター

【健康管理センター利用状況】

(単位:件、人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池 キャン パス	内 科	23	6	6	125	46	17	55	55	10	10	6	0	359
	外 科	1	1	2	3	0	0	4	5	2	1	0	1	20
	婦人科	0	0	6	5	2	8	2	2	1	1	2	0	29
	メンタルヘルス	22	41	35	44	40	46	73	40	70	29	25	8	473
	健診フォロー	0	0	6	5	121	35	31	4	5	5	2	0	214
	その他	44	36	65	218	94	30	122	116	31	11	19	9	795
	合計件数	90	84	120	400	303	136	287	222	119	57	54	18	1,890
	合計人数	74	57	98	288	217	94	211	177	102	53	50	15	1,436
永 国 寺 キャン パス	内 科	1	0	46	88	29	0	1	6	1	0	0	0	172
	外 科	0	0	0	5	5	0	2	0	1	2	1	0	16
	婦人科	0	1	0	3	2	12	4	12	0	0	9	0	43
	メンタルヘルス	74	43	53	100	36	47	58	53	29	49	63	30	635
	健診フォロー	2	0	1	18	83	76	113	195	140	31	9	0	668
	その他	42	20	32	87	173	89	110	137	86	96	40	31	943
	合計件数	119	64	132	301	328	224	288	403	257	178	122	61	2,477
	合計人数	91	43	90	213	268	203	241	319	226	133	95	46	1,968
総計	合計件数	209	148	252	701	631	360	575	625	376	235	176	79	4,367
	合計人数	165	100	188	501	485	297	452	496	328	186	145	61	3,404

【精神科医師によるメンタルヘルス相談】

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池キャンパス		0	1	2	2	/	3	4	4	5	4	4	3	32
永国寺キャンパス		1	2	2	2	/	2	2	2	0	1	1	/	15
合計件数		1	3	4	4	0	5	6	6	5	5	5	3	47

【カウンセラーによるメンタルヘルス相談】

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池キャンパス		1	6	2	6	4	4	6	5	6	5	2	1	48
永国寺キャンパス		3	1	3	8	5	6	6	7	5	8	7	4	63
合計件数		4	7	5	14	9	10	12	12	11	13	9	5	111

【産婦人科医師及び助産師による婦人科相談】

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
池キャンパス		/	/	/	1	/	/	/	0	/	/	/	/	1
永国寺キャンパス		/	/	/	/	/	1	/	3	/	/	/	/	4
合計件数		/	/	/	1	/	1	/	3	/	/	/	/	5

【定期健康診断】

①実施内容一覧

月日	7月23日(木)	月日	7月25日(土)
場所 (時間)	池キャンパス (8時50分～16時30分)	場所 (時間)	永国寺キャンパス (8時50分～16時30分)
対象者	看護学部1、3回生 社会福祉学部1、3回生 健康栄養学部1、2回生	対象者	文化学部1、2回生
健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体計測 医師の診察 <感染症血液検査:一部学生> ※B型肝炎抗原抗体検査・4種感染*症抗体検査 *麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎 看護学部1回生 社会福祉学部1回生 健康栄養学部1回生 ※B型肝炎抗体検査 看護学部3回生の一部学生	健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体計測 医師の診察
月日	7月24日(金)	月日	7月26日(日)
場所 (時間)	池キャンパス (8時50分～16時30分)	場所 (時間)	永国寺キャンパス (8時50分～16時30分)
対象者	看護学部2、4回生 社会福祉学部2、4回生 健康栄養学部3、4回生 看護学研究科、人間生活学研究科全員	対象者	文化学部3、4回生(夜間主を含む)
健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体計測 医師の診察 <感染症血液検査:一部学生> ※B型肝炎抗体検査 看護学部2回生の一部学生 健康栄養学部3回生の一部学生 看護学研究科の一部学生 ※B型肝炎抗原抗体検査・4種感染症*抗体検査 *麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎 看護学研究科1回生	健診項目	胸部レントゲン撮影 検尿 身体計測 医師の診察 <感染症血液検査:一部学生> ※4種感染症*抗体検査 *麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎 文化学部3回生の一部学生

※印の内容は、施設実習のために必要な項目であり、健康診断時に併せて実施した。

上記実施日に健診できなかった学生に対しては、委託施設にて実施した。

②学年・学科別学部生 健康診断受診状況

学年	学 科	対象者数	胸部間接撮影		内科診察		尿検査	
			受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)
1	文 化	154	150	97.4%	151	98.1%	151	98.1%
	昼(再掲)	123	120	97.6%	121	98.4%	121	98.4%
	夜(再掲)	31	30	96.8%	30	96.8%	30	96.8%
	看 護	82	82	100.0%	82	100.0%	82	100.0%
	社会福祉	78	78	100.0%	78	100.0%	78	100.0%
	健康栄養	40	40	100.0%	40	100.0%	40	100.0%
2	文 化	147	135	91.8%	135	91.8%	135	91.8%
	昼(再掲)	120	109	90.8%	109	90.8%	109	90.8%
	夜(再掲)	27	26	96.3%	26	96.3%	26	96.3%
	看 護	82	82	100.0%	82	100.0%	82	100.0%
	社会福祉	73	73	98.6%	73	98.6%	73	98.6%
	健康栄養	43	43	100.0%	43	100.0%	43	100.0%
3	文 化	155	135	87.1%	136	87.7%	136	87.7%
	昼(再掲)	129	118	91.5%	118	91.5%	118	91.5%
	夜(再掲)	26	17	65.4%	18	69.2%	18	69.2%
	看 護	83	83	100.0%	83	100.0%	83	98.8%
	社会福祉	72	72	100.0%	72	100.0%	72	98.6%
	健康栄養	41	41	100.0%	41	100.0%	41	93.2%
4	文 化	170	146	85.9%	147	86.5%	147	86.5%
	昼(再掲)	134	119	84.4%	120	85.1%	120	85.1%
	夜(再掲)	36	27	64.3%	27	64.3%	27	64.3%
	看 護	82	82	98.8%	82	100.0%	82	100.0%
	社会福祉	75	70	93.3%	71	94.7%	71	94.7%
	健康栄養	40	40	100.0%	40	100.0%	40	100.0%
合 計		1,417	1,352	95.4%	1,356	95.7%	1,356	95.7%
前年度		1,416	1,388	98.0%	1,388	98.0%	1,387	98.0%

※受検率は、在籍数から休学者・留学中・中途退学者および健診免除者を除いた人数(対象者)を分母としたものである。

※3か月以内に医療機関等で胸部レントゲン撮影をしている学生は、撮影済みとみなした。

③大学院生 健康診断受診状況

学年	研究科	対象者数	胸部間接撮影		内科診察		尿検査		
			受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)	受検者数	受検率(%)	
1	看護学	14	13	92.9%	13	92.9%	13	92.9%	
	(再掲)	前期課程	12	12	100.0%	12	100.0%	12	100.0%
		後期課程	2	1	50.0%	1	50.0%	1	50.0%
		DNGL	0	0	/	0	/	0	/
	人間生活学	8	8	100.0%	8	100.0%	8	100.0%	
	(再掲)	前期課程	7	7	100.0%	7	100.0%	7	100.0%
後期課程		1	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%	
2	看護学	16	13	81.3%	13	81.3%	13	81.3%	
	(再掲)	前期課程	13	12	92.3%	12	92.3%	12	92.3%
		後期課程	2	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
		DNGL	1	1	100.0%	1	100.0%	1	100.0%
	人間生活学	5	4	80.0%	4	80.0%	4	80.0%	
	(再掲)	前期課程	4	3	75.0%	3	75.0%	3	75.0%
後期課程		1	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
3	看護学	5	3	60.0%	3	500.0%	3	60.0%	
	(再掲)	後期課程	2	1	50.0%	1	50.0%	1	50.0%
		DNGL	3	2	66.7%	2	66.7%	2	66.7%
	人間生活学(後期課程)	0	/	/	/	/	/	/	
4	看護学(DNGL)	3	3	100.0%	3	100.0%	3	100.0%	
5	看護学(DNGL)	0	/	/	/	/	/	/	
合計		51	44	86.3%	44	86.3%	44	86.3%	
前年度		48	40	83.3%	41	85.4%	41	85.4%	

※受検率は、在籍数から休学者および健診免除者を除いた人数(対象者)を分母としたものである。

※3か月以内に医療機関等で胸部レントゲン撮影をしている学生は、撮影済みとみなした。

【学生精神的健康調査(UPI調査)】

・ 対象者 : 全学部生(文化学部編入生を含む) 但し、休学中の学生及び科目履修生、外国人留学生(1年未満)、特別聴講学生、委託生、研究員、留学中の学生は除く。

・ 調査実施期間 : 令和2年4月3日(金)～7月26日(日)

・ 実施方法 : 1回生はガイダンス時に、文化(夜間)1回生と2～4回生は定期健康診断時に実施。

* 健康診断未受診者は健康管理センター来所時に実施。

学部	学年	対象者数	実施数	実施率
看護学部	1	82	82	100.0%
	2	83	83	100.0%
	3	82	82	100.0%
	4	82	82	100.0%
社会福祉学科部	1	75	75	100.0%
	2	73	73	100.0%
	3	73	72	98.6%
	4	75	74	98.7%
健康栄養学部	1	43	43	100.0%
	2	44	44	100.0%
	3	40	40	100.0%
	4	41	41	100.0%
池キャンパス小計		793	791	99.7%
文化学部	1	128	128	100.0%
	2	133	131	98.5%
	3	117	110	94.0%
	4	141	134	95.0%
文化学部 (夜間主)	1	30	28	93.3%
	2	30	22	73.3%
	3	29	26	89.7%
	4	30	21	70.0%
永国寺キャンパス小計		638	600	94.0%
合計		1,431	1,391	97.2%

X 国際交流

1 正規学生(留学生)数の推移

区分	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)
大学院	1	3	6	7	5
学部	7	10	9	9	9
計	8	13	15	16	14

2 協定校数の推移

年	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2109 (R1)	2020 (R2)
協定校数	12	12	14	16	15

3 協定校一覧

大学名	国名	締結年月
開南大學	台湾	2019年11月
弘光科技大學	台湾	2019年 4月
ワシントン大学継続教育部	アメリカ	2018年10月
インドネシア大学	インドネシア	2018年 9月
アングラス大学	インドネシア	2017年 2月
ウボンラーチャタニ大学	タイ	2016年12月
慶南科學技術大學校	韓国	2016年11月
木浦大學校	韓国	2016年10月
ガジャマダ大学	インドネシア	2013年11月
サバ大学	マレーシア	2012年11月
カリフォルニア大学サンフランシスコ校	アメリカ	2012年3月
ヴェネチア カ・フォスカリ大学	イタリア	2011年12月
文藻外語大學	台湾	2007年 1月
北京聯合大学旅游学院	中国	2006年11月
エルムズカレッジ	アメリカ	1998年10月

4 協定大学への派遣実績

協定大学	2017(平成29年度)			2018(平成30)年度			2019(令和元)年度			2020(令和2)年度		
	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員
エルムズカレッジ	10	1	3	15	2	3	8	0	1	0	0	0
北京聯合大学旅游学院	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0
文藻外語大學	3	2	1	4	2	1	6	2	1	0	0	0
ヴェネチア カ・フォスカリ大学	4	0	1	3	0	1	6	0	1	0	0	0
ガジャマダ大学	6	0	2	5	0	2	0	0	0	0	0	0
インドネシア大学	0	0	0	5	0	2	0	0	0	0	0	0
サバ大学	12	0	5	2	0	1	0	0	0	0	0	0
慶南科學技術大學校	4	0	1	3	0	1	2	2	1	0	0	0
木浦大學校	7	0	1	0	1	2	7	2	1	0	0	0
弘光科技大學	/	/	/	/	/	/	2	0	1	0	0	0
アングラス大学	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
ウボンラーチャタニ大学	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	50	3	14	37	7	13	31	8	7	0	0	0

5 協定大学からの受入実績

協定大学	2017(平成29年度)			2018(平成30)年度			2019(令和元)年度			2020(令和2)年度		
	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員	短期	長期	教職員
エルムズカレッジ	6	0	2				9	0	2	0	0	0
北京聯合大学旅游学院	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0
文藻外語大學	0	2	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0
ヴェネチア カ・フォスカリ大学	10	0	0	9	0	0	9	0	0	0	0	0
ガジヤマダ大学	5	0	3	0	0	0	8	0	1	0	0	0
インドネシア大学				0	0	0	0	0	0	0	0	0
サバ大学	0	0	0	5	0	1	7	0	0	0	0	0
慶南科學技術大學校	10	0	2	14	1	4	15	1	2	0	0	0
木浦大學校	7	0	0	0	0	0	10	0	1	0	0	0
弘光科技大學							17	0	2	0	0	0
アンダラス大学	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	40	4	10	28	5	5	75	5	8	0	0	0

6 外国人学生に対するプログラム

(1) 協定校からの受入

プログラム名	対象大学	受入数(人)
実績なし		

(2) 協定校以外からの受入

事業名	機関	実施期間	受入数(人)
実績なし			

7 海外機関との共同研究・教育事業支援

講義名	講師	実施日	対象者	参加数(人)
国際理解・学術交流講演1 「日韓の地域福祉課題シンポジウム」	姜大善准教授(慶南科學技術大學校社会福祉学科)	令和2年 12月14 日	大学院・教職員 (池キャンパスで実施)	会場 7 リモート 17
国際理解・学術交流講演2 「COVID-19 in Taiwan」	Yann-Fen C.Chao, RN, PjD (Dean and Chair Professor, College of Nursing Hungkuang University Taichung, TAIWAN)	令和2年 12月16 日	関係教職員 (池キャンパスで実施)	リモート 26 録画視聴 27
国際理解・学術交流3 「COVID-19 in Canada」	所和香子(ヴィクトリアロイヤル・ジュビリー病院 NP, カナダ)	令和2年 12月18 日	関係教職員 (池キャンパスで実施)	リモート 16 録画視聴 26

8 本学学生への留学・奨学金等の支援

実績なし

XI 開かれた大学

1 公開講座等実施状況

○公開講座等

区分	内 容	回数	実施時期	参加数 (人)	対象者
文化学部	WEBオープンキャンパス文化学部個別相談会	4	令和2年7月9日、 令和2年8月5日、 令和2年8月6日、 令和2年8月11日	20	高校生、保護者、教員等
	文化学部WEB相談会	1	令和2年10月30日	3	高校生、保護者、教員等
看護学部	高校生のための看護学を学ぶ公開講座 「「看護学」が求められる様々な場面-高知県立大学看護学部ではじめる看護学-」	1	令和3年3月25日	9	高校生
	がん高度実践看護師WG講演会 「遺伝性腫瘍と生きる患者へのがん看護」	1	令和2年12月5日	79	専門職者、一般市民
健康栄養学部	WEBオープンキャンパス学生相談会	4	令和2年8月5-7日、 令和2年8月14日	7	高校生
	WEBオープンキャンパス模擬授業(食品学)	1	令和2年7月30日- 令和3年3月31日 (オンデマンド配信)	296回	高校生
	WEBオープンキャンパス模擬授業(臨床栄養学)	1	令和2年8月10日- 令和3年3月31日 (オンデマンド配信)	304回	高校生
	高知市民の大学「巨大地震に備え今すべき食料備蓄」	1	令和2年8月28日	30	一般
	高知市民の大学「食品の安全確保の必要性と理由」	1	令和2年10月6日	26	一般
	高知市民の大学「生活習慣病予防のための健康な食事-情報過多の時代の中で-」	1	令和2年10月13日	26	一般
	高知市民の大学「食の安全に関わる検査」	1	令和2年10月20日	26	一般
	高知市民の大学「災害時の食の安全」	1	令和2年10月27日	26	一般
	高知市民の大学「食物アレルギーの基礎知識」	1	令和2年11月10日	26	一般
	RKCラジオ 笑ジオ「運命がかかる大一番を前に食べる“勝負メシ”は？」	1	令和3年1月13日		一般
からふる「つなぐ、つながる避難所の食を考える」	2	令和3年3月5日、 令和3年3月11日		一般	

○リカレント講座

区分	内 容	回数	実施時期	参加数 (人)	対象者
看護学部	家族看護学領域 リカレント教育	3	令和2年7月30日、 令和2年10月16日、 令和2年11月20日	20	専門職者
	血管病調整看護師が取り組む糖尿病重症化予防	1	令和2年9月19日	31	専門職者

区分	内 容	回数	実施時期	参加数 (人)	対象者
看護学部	急性期看護学領域 リカレント教育 修了生対象CCNS認定に向けた遠隔学習会	5	令和2年7月23日、 令和2年8月10日、 令和2年9月12日、 令和2年9月27日、 令和2年10月20日	13	専門職者
	家族看護学領域 リカレント教育 「COVID-19による面会制限がある中での看取り期にある患者・家族への家族看護実践」 「家族看護実践の中での困りごとについて」 「家族の拠り所である家族員を失う不安から現実を受け止められず動揺する家族の事例」 「患児と家族の捉えが部分的であったことにより、医療者が家族との関わりに困難を感じていた事例」 「医療者が患者の配偶者との関係形成に困難感を感じた終末期のがん患者と家族の事例」	5	令和2年7月30日、 令和2年10月16日、 令和2年11月20日、 令和3年1月15日、 令和3年2月19日	40	専門職者
	精神看護学領域 ケア検討会 「精神看護専門看護師 実践事例検討会」	1	令和3年3月25日	13	専門職者
	災害・国際看護学領域 ケア検討会 「災害時行動要支援者対策と地区防計画の現状」「出水期の災害時要支援者避難訓練を通して見えてきたこと」 「事例検討会」	2	令和2年9月18日、 令和2年12月18日	49	専門職者
	小児看護学領域 特別講義 「特別講義：高増哲也氏(神奈川県立こども医療センター アレルギーセンター副センター長)」	1	令和3年12月20日	8	専門職者
	がん看護学領域 卒業生との交流会およびリカレント教育『アストラル』 事例検討会①「終末期がん患者の家族支援に戸惑いを感じた同僚看護師との関わり」 事例検討会②「妊娠35週でALLを発症したAYA世代患者の骨髄移植の意思決定に向けた関わり」	2	令和2年12月12日、 令和3年3月20日	25	専門職者
健康栄養学部	教員免許状更新講習 「小児肥満と生活習慣病予防」 「栄養素と代謝」 「食材の選び方と衛生管理」 「各教科との連携のあり方と評価について」	1	令和2年8月11日	2	専門職者
	新任期行政栄養士研修	2	令和2年7月3日、 令和2年12月4日	13	専門職者

2 学会役員等の状況

(1) 学会の理事・幹事

学部	職名	氏名	学会名	理事・幹事の別
文化学部	教授	五百藏 高浩	全国英語教育学会	査読委員
			英語コーパス学会	幹事
			四国英語教育学会	理事、紀要編集委員、査読委員
			大学英語教育学会中四国支部	支部企画研究委員、査読委員
			The Korean Association of English for Specific Purposes	International Cooperation Director & Editor
	教授	井上 次夫	日本語教育学会	審査・運営協力員
	教授	橋尾 直和	流域圏学会	理事、編集・出版委員
			土佐民俗学会	常任理事
			物部庄谷相・拓の歴史と文化を考える会	副会長
			土佐民俗文化研究会	世話人
			土佐歴史資料研究会	理事
	教授	東原 伸明	中古文学会	年度委員
			学術団体物語研究会	委員
	教授	三浦 要一	日本建築学会民家小委員会	主査
	准教授	飯高 伸五	日本オセアニア学会	理事・評議員
	准教授	金澤 俊吾	英語コーパス学会	理事
			日本英文学会	編集委員
			英語語法文法学会	大会運営委員、編集委員
	准教授	梶原 太一	日本簿記学会	簿記教育研究部会委員
			日本会計教育学会	全国大会準備委員
			日本会計教育学会	スタディ・グループ委員
	准教授	菊池 直人	総合法政策研究会	副会長
			日本保険学会	関西部会幹事
准教授	鳥飼 真人	英語英文学会片平会	幹事	
		日本ロレンス協会	評議員	
准教授	根岸 忠	アジア法学会	理事、企画委員	
		総合法政策研究会	副会長	
准教授	吉川 孝	日本現象学会	委員・企画実行委員長	
講師	田中 裕也	日本近代文学会	関西支部運営委員	
		昭和文学会	編集委員	
看護学部	教授	畦地 博子	日本精神保健看護学会	理事・評議員
			日本看護科学学会	代議員
	教授	池添 志乃	日本養護教諭養成大学協議会	理事
			日本看護科学学会	代議員
			日本看護倫理学会	評議員
			日本家族看護学会	評議員
			日本学校保健学会	理事
	教授	池田 光徳	日本皮膚科学会高知地方会	幹事

学部	職名	氏名	学会名	理事・幹事の別
看護学部	教授	内田 雅子	日本慢性看護学会	評議員
	教授	瓜生 浩子	日本家族看護学会	評議員
	教授	大川 宣容	日本医療教授システム学会中四国支部	副代表理事
			日本看護シミュレーションラーニング学会	理事
	教授	久保田 聡美	日本禁煙学会	特任理事、資格制度委員会委員
			日本クリニカルパス学会	評議員、資格認定委員会副委員長、 学術・出版委員
			日本看護科学学会	代議員
			日本看護管理学会	評議員
	教授	竹崎 久美子	日本老年看護学会	評議員
			日本災害看護学会	指名理事
	教授	時長 美希	日本看護科学学会	評議委員
	教授	長戸 和子	日本看護科学学会	代議員
	教授	中野 綾美	日本看護系大学協議会	理事
			日本看護科学学会	代議員
			日本小児看護学会	理事
			日本家族看護学会	理事
			日本看護倫理学会	評議員
	教授	藤田 佐和	日本がん看護学会	理事
			日本緩和医療学会	代議員
			日本慢性看護学会	評議員
日本看護倫理学会			評議員	
日本看護科学学会			代議員	
教授	森下 安子	日本在宅ケア学会	理事	
		日本看護科学学会	代議員	
教授	森本 悦子	日本がん看護学会	評議員	
教授	山田 覚	日本災害看護学会	理事・評議員	
		日本看護科学学会	代議員	
		日本医療・病院管理学会	評議員	
		日本看護管理学会	評議員	
教授	渡邊 聡子	日本災害看護学会	代議員	
講師	有田 直子	日本小児看護学会	評議員	
社会福祉学部	教授	杉原 俊二	KJ法学会	運営委員・編集委員
			日本社会福祉学会	中国四国地域ブロック運営委員(研究担当)
			日本人間科学研究会	中国四国地域担当理事(会報担当)
	教授	田中 きよむ	社会政策学会	幹事
	准教授	鈴木 孝典	日本精神保健福祉学会	理事、機関誌査読委員
			日本精神保健福祉士協会	学会誌投稿論文等査読小委員会委員
			全国精神医療審査会連絡協議会	理事
助教	雑賀 正彦	日本地域福祉学会	地方委員	
助教	福田 敏秀	日本認知症予防学会	代議員	
		日本認知症ケア学会	代議員	

学部	職名	氏名	学会名	理事・幹事の別
健康栄養学部	教授	稲井 玲子	日本食育学会	理事長
			日本栄養改善学会	評議員
			日本機能性食品医学学会	評議員
			日本栄養・食糧学会	参与
	教授	村上 尚	日本肥満学会	評議員
	教授	渡邊 浩幸	日本栄養・食糧学会	代議員
			日本脂質栄養学会	評議員
	准教授	荒牧 礼子	日本未病学会	評議員
	准教授	鈴木 麻希子	日本栄養・食糧学会	参与
	講師	竹井 悠一郎	日本栄養改善学会	評議員
日本栄養・食糧学会			参与	
講師	島田 郁子	日本家政学会中国・四国支部	常任幹事・機関幹事	
研究地域教育センター	教授	石山 貴章	日本職業リハビリテーション学会	理事
	教授	一色 健司	日本分析化学会	常任幹事
			流域圏学会	理事・総務委員長
			高知地区分析技術懇談会	会長
	教授	清原 泰治	日本スポーツ産業学会	スポーツ産業史専門分科会運営委員
四国体育・スポーツ学会			理事	

(2) 教員が受託した審議会・委員会の委員等

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
文化学部	教授	五百藏 高浩	高知県国際交流協会評議員	高知県国際交流協会代表理事
			マイプロジェクト発表会審査委員会委員	高知県立嶺北高等学校長
			れんけいこうち広域都市圏ビジョン推進懇談会委員	高知市長
			国立大学教育研究評価委員会達成状況判定会議委員	大学改革支援・学位授与機構長
	教授	岩倉 秀樹	高知県公文書開示審査会会長	高知県知事
			高知市放置自動車廃物判定委員会委員	高知市長
			高知県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会会長	高知県後期高齢者医療広域連合長
			高知弁護士会懲戒委員会委員	高知弁護士会会長
			こうち人づくり広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員	こうち人づくり広域連合長
	教授	大井 方子	高知地方労働審議会委員	高知労働局長
			高知地方最低賃金審議会委員	高知労働局長
			高知県職業能力開発審議会委員	高知県商工労働部長
			高齢・障害・求職者雇用支援機構運営協議会委員	高齢・障害・求職者雇用支援機構高知支部所長
	教授	大村 誠	令和2年度学校防災アドバイザー	高知県教育長
			寺田寅彦記念賞選考委員(委員長)	高知県文教協会理事長
			スーパーサイエンスハイスクール岡山県立津山高等学校運営指導委員会委員	岡山県教育委員会教育長
	教授	小長谷 悠紀	高知県住宅宿泊事業法に基づく条例検討委員会会長	高知県知事
			三原村ヒメノボタンの里公園整備検討委員会委員	三原村長
			高知県COC+観光人材育成事業検討会委員	観光人材育成事業検討会座長
			高知市文化振興事業団理事	高知市文化振興事業団理事長
			カツオ文化日本遺産認定推進ワーキンググループメンバー	高知カツオ県民会議事務局長
	教授	高西 成介	高知県出版文化賞選考委員	高知県文教協会理事長
			大原富枝文学賞審査員	本山町立大原富枝文学館館長
	教授	橋尾 直和	高知市文化財保護審議会委員	高知市教育長
			南国市後川流域のエンコウ祭調査委員会委員	南国市教育長
			みづき防災会委員	みづき防災会会長
			北部連絡協議会委員	北部連絡協議会会長
			豊永郷民俗資料館建設委員会委員	NPO豊永郷民俗資料保存会理事長
	教授	三浦 要一	高知県文化財保護審議会委員	高知県教育委員会 文化財課
			高知県文化財専門委員	高知県教育長
			土佐遍路道・札所寺院保存検討委員会委員	高知県教育長
高知市文化財保護審議会委員			高知市教育長	
旧陸軍歩兵第44連隊跡地保存活用計画検討委員会委員			高知県教育長	
高知市文化財保護審議会 第一部会(建造物部門)重要文化財旧関川家住宅保存活用計画検討会委員			高知市文化財保護審議会会長	
史跡高松城跡整備会議委員			高松市教育委員会教育長	
日本学術振興会審査委員候補者			日本学術振興会理事長	

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
文化学部	教授	ヨース・ ジョエル	高知県英文公文書アドバイザー	高知県文化生活スポーツ部国際交流課長
			第31回高知出版学術賞審査委員	高知市文化事業団理事長
			高知市文化振興事業団出版学術賞審査委員会(委員)	高知市長
	准教授	飯高 伸五	公益信託澁澤民族学振興基金「大学院生等に対する研究活動助成」選考委員	公益信託澁澤民族学振興基金 運営委員会委員長
	准教授	宇都宮 千穂	高知市立自由民権記念館協議会委員	高知市教育委員会高知市教育長
			高知市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例 第8期見守り委員	高知市長
			高知市都市計画審議会委員	高知市長
			高知市住宅審議会委員	高知市長
			高知市歴史公文書等の管理に関する検討委員会委員長	高知市長
			高知市行政改革推進委員会委員	高知市長
	准教授	梶原 太一	高知県社会貢献活動支援推進会議公募委員 選考委員会委員	高知県文化生活スポーツ部長
			高知市民の大学運営委員	高知市民の大学運営委員会運営委員長
			高知県公立大学生生活協同組合監事	高知県公立大学生生活協同組合
			高知県社会貢献活動支援推進会議委員	高知県知事
			高知市雇用創出促進協議会構成員	高知市雇用創出促進協議会長
			高知県ボランティア・NPOセンター運営委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
	准教授	菊池 直人	高知県消費生活審議会委員	高知県知事
			香美市情報公開審査会及び香美市個人情報保護 審査会委員	香美市長
			高知市消費生活審議会委員	高知市長
			高知県LPガスお客様相談所相談委員会委員	高知県LPガス協会
			令和3年度高知市町村等消費者行政推進事業費補助金 補助対象消費者団体等審査会審査委員	高知県文化生活スポーツ部 県民生活・男女共同参画課長
			高知県公文書開示審査会委員	高知県知事
			高知県公文書管理委員会委員	高知県知事
土佐市個人情報保護運営審議会			土佐市長	
		こうち生活協同組合理事	こうち生活協同組合	
准教授	根岸 忠	高知県個人情報保護審査会委員	高知県知事	
		介護労働安定センター雇用管理改善促進事業 啓発実践推進委員会委員長	介護労働安定センター高知支部長	
准教授	向井 真樹子	高知地方労働審議会臨時委員	高知労働局長	
准教授	吉川 孝	特別研究員等審査会専門委員	日本学術振興会理事長	
		高知弁護士会資格審査会予備委員・懲戒委員会委員・ 綱紀委員会委員	高知弁護士会会長	

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
看護学部	教授	畦地 博子	精神保健看護学会編集委員会委員長	日本精神保健看護学会理事長
			大学設置・学校法人審議会(大学設置分科会)専門委員	文部科学省高等教育局長
	教授	池添 志乃	高知県衛生研究所疫学倫理審査委員会委員	高知県衛生研究所長
			高知県産業教育審議会教科検討委員会委員	高知県教育委員会事務局高等学校課長
			大学設置・学校法人審議会(大学設置分科会)専門委員	文部科学省高等教育局長
			南国市調査専門委員	南国市教育長
			令和3年4月1日付け採用高知県公立学校教員採用候補者選考審査第1次審査筆記審査の審査問題研究員	高知県教育委員会事務局教職員・福利課長
			平成29年度高知県スクールヘルスリーダー連絡協議会委員	高知県教育委員会事務局保健体育課長
	教授	池田 光徳	相模女子大学・相模女子大学短期大学部ヒトを対象とする研究倫理委員会外部委員	相模女子大学相模女子大学短期大学部学長
			高知県健康づくり推進協議会委員	高知県健康政策部健康長寿政策課長
			高知県地方薬事審議会委員	高知県健康政策部長
	教授	瓜生 浩子	日本家族看護学会第25回学術集会の企画委員	日本家族看護学会第25回学術集会会長
	教授	大川 宣容	日本がん看護学会編集委員会委員	日本がん看護学会理事長
	教授	久保田 聡美	筆山保育園理事(外部理事)	筆山保育園理事長
			高知県健康づくり推進協議会たばこ対策専門部会委員	高知県健康政策部健康長寿政策課長
			入院機能に応じた看護職員配置に関する調査検討委員会	日本看護協会会長
			日本医療機能評価機構評価調査者	日本医療機能評価機構代表理事 理事長
	教授	田井 雅子	日本精神保健看護学会学術連携委員会委員	日本精神保健看護学会理事長
	教授	竹崎 久美子	災害看護委員会・保健師助産師看護師実習指導者講習検討会委員	高知県看護協会会長
			社会保険診療報酬支払基金高知支部幹事	社会保険診療報酬支払基金高知支部支部長
			令和2年度災害看護委員会委員	高知県看護協会会長
			令和2年度南海トラフ地震時保健活動等体制整備検討会委員	高知県健康政策部長
	教授	時長 美希	国保・後期高齢者ヘルスサポート事業運営委員会委員	高知県国民健康保険団体連合会理事長
			令和2年度高知県保健師人材育成評価検討会委員	高知県健康政策部長
			高知県人材育成ガイドライン評価検討会委員	高知県健康政策部健康長寿政策課長
			高知市建築審査会委員	高知市長
			高知市地域保健推進協議会委員	高知市長
	教授	長戸 和子	令和3年4月1日付け採用高知県公立学校教員採用候補者選考審査第1次審査筆記審査の審査問題研究員	高知県教育委員会事務局教職員・福利課長
2020-2021年度日本看護系大学協議会 高度実践看護師教育課程認定委員会 家族看護専門分科会委員			日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程認定委員会委員長	
令和2年度新人看護局員研修検討会委員			高知県看護協会会長	
専門看護師認定実行委員会(家族支援)委員			日本看護協会会長	

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
看護学部	教授	中野 綾美	専門看護師制度委員会委員	日本看護協会会長
			高知医療センター地域医療支援病院運営委員会委員	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター病院長
			日本看護学教育評価機構評価基準検討委員会委員	日本看護学教育評価機構代表理事
			大学評価委員会大学評価第27分科会委員	大学基準協会会長
			日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程 認定委員会委員	日本看護系大学協議会代表理事
			高知県の看護を考える検討委員会委員	高知県健康政策部医療政策課長
			特別免許状授与に係る教育職員検定審査会委員	高知県教育長
	教授	藤田 佐和	2020-2021年度日本看護系大学協議会 高度実践看護師 教育課程認定委員会 がん看護専門分科会委員	日本看護系大学協議会高度実践看護師 教育課程認定委員会委員長
			大学改革・学位授与機構大学機関別認証評価委員会 専門委員	大学改革支援・学位授与機構長
			第36回日本がん看護学会学術集会査読委員	第36回日本がん看護学会学術集会 学術集会会長
			第27回日本緩和医療学会学術大会査読委員	第27回日本緩和医療学会学術大会 大会長
			専門看護師認定実行委員会委員(がん看護)委員	日本看護協会会長
			高知県の看護を考える検討委員会委員	高知県健康政策部長
			高知県国民健康保険運営協議会委員	高知県健康政策部長
			高知県がん教育推進協議会委員	高知県教育委員会事務局 保健体育課長
			高知県・高知市病院企業団高知医療センター 地域医療支援病院運営委員会委員	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター病院長
			高知県・高知市病院企業団高知医療センター 治験審査委員会委員	高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター病院長
			令和2年度高知県ナースセンター運営協議会委員	高知県看護協会会長
			高知がん診療連携協議会委員	高知大学医学部附属病院長
			日本緩和医療学会中国・四国運営委員会委員	日本緩和医療学会理事長
	教授	森下 安子	日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程 認定委員会委員	日本看護系大学協議会代表理事
			日本看護系大学協議会災害支援対策委員会委員	日本看護系大学協議会代表理事
			高知県教育委員	高知県知事
			第25回日本在宅ケア学会学術集会会長	日本在宅ケア学会
			令和2ページ年度高知県主任看護支援専門員研修に おける受講者選考のための評価委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			令和2年度高知県介護支援専門員研修等向上委員会委員	高知県地域福祉部高齢者福祉課長
			高知県高齢者保健福祉推進委員会委員	高知県子ども・福祉政策部長
			令和2年度介護支援専門員更新(専門)研修【研修課程Ⅱ】 事例予備選考会委員	高知県社会福祉協議会会長
			高知県立ふくし交流プラザ指定管理者審査委員会委員	高知県地域福祉部地域福祉政策課長
			令和2年度高知県看護協会第1副会長	高知県看護協会会長
高知県訪問看護推進協議会委員			高知県健康政策部医療政策課長	
日高村高齢者福祉計画・第8期介護保険事業 計画策定委員			日高村長	
日高村第6期障害福祉計画・第2期障害児福祉計画策定 委員会及び日高村地域自立支援協議会全体会委員			日高村長	

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
看護学部	教授	森下 安子	高知市地域密着型サービスの運営に関する委員会委員	高知市長
			高知市在宅医療・介護連携推進委員会委員	高知市長
			高知市地域高齢者支援センター運営協議会委員	高知市長
			日高村地域密着型サービスの運営に関する委員会委員	日高村長
			日高村地域高齢者支援センター運営協議会委員	日高村長
			いの町地域密着型サービスの運営に関する委員会委員	いの町長
			いの町地域高齢者支援センター運営協議会委員	いの町長
	教授	森本 悦子	令和2年度地域包括ケア検討委員会、在宅ケア領域看護師研修検討会委員	高知県看護協会会長
			令和3年度保健師助産師看護師実習指導者講習検討会委員	高知県看護協会会長
			千葉看護学会編集委員会委員	千葉看護学会会長
	教授	山田 覚	日本看護科学学会和文誌編集委員会委員	日本看護科学学会会長
			高知市防災会議委員・高知市防災会議幹事会幹事	高知市長
	准教授	内川 洋子	令和2年度認定看護管理者教育運営委員会委員	高知県看護協会会長
	准教授	川上 理子	第51回(2020年度)日本看護学会－看護管理－論文選考委員	日本看護協会看護研修学校校長
	准教授	嶋岡 暢希	「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築業務等一式」ニーズ・シーズ連携協調協議会プロジェクトコーディネーター	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所 情報未来イノベーション本部長
	准教授	高谷 恭子	令和2年度助産師職能委員会委員	高知県看護協会会長
			令和2年度高知県看護協会推薦委員	高知県看護協会会長
	准教授	藤代 知美	令和2年度高知県小児救急電話相談事業運営協議会委員	高知県看護協会会長
			第51回(2020年度)日本看護学会－在宅看護－論文選考委員	日本看護協会看護研修学校校長
			日本小児看護学会倫理委員会委員	日本小児看護学会理事長
	講師	有田 直子	日本精神保健看護学会災害対策委員	日本精神保健看護学会理事長
			令和2年度高知市医療的ケア児及び重度の障害のある子どもの支援検討会委員	高知市長
			第51回(2020年度)日本看護学会－慢性期看護－論文選考委員	日本看護協会看護研修学校校長
			ELNEC－Japan Pediatric Palliative Care (ELNEC－JPPC)開発会議委員	ELNEC-JPPC開発プロジェクトリーダー
	講師	小澤 若菜	日本小児看護学会編集委員	日本小児看護学会理事長
			令和2年度高知県保健師人材育成評価検討会委員	高知県健康政策部長
			令和2年度保健師職能委員会、ナースセンター委員会、3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会委員	高知県看護協会会長
助教	川本 美香	高知県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員	高知県国民健康保険団体連合会理事長	
		保健師職能委員会委員	高知県看護協会会長	
		鏡・土佐山ブロードバンド利活用協議会委員	高知市農林水産部鏡地域振興課課長	
助教	高橋 真紀子	令和2年度高知県保健師人材育成評価検討会委員	高知県健康政策部長	
		高知県公立大学生生活協同組合理事	高知県公立大学生生活協同組合	

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
看護学部	助教	中井 美喜子	日本専門看護師協議会研修委員会 中部・近畿・中国・四国地区ワーキング委員会委員	日本専門看護師協議会代表
	助教	西内 舞里	令和2年度看護研究論理審査委員会委員	高知県看護協会会長
	助教	益 宏美	日本専門看護師協議会選挙管理委員	日本専門看護師協会代表
	特任助教	三浦 由紀子	令和2年度研究会委員会、 3職能生きる力を育むいのちの教育検討委員会委員	高知県看護協会会長
			日本専門看護師協議会選挙管理委員	日本専門看護師協会代表
	大学院 教授	神原 咲子	土佐市災害時要配慮者支援体制連絡協議会委員	土佐市長
			日本災害看護学会第20回年次大会企画委員会委員	日本災害看護学会第20回年次大会長
			日本学術会議連携会員	日本学術会議事務局長
			令和2年度南海トラフ地震対策啓発推進事業委託業務 プロポーザル審査委員会委員	高知県危機管理部 南海トラフ地震対策課長
			高知コアセンター評議員会委員	高知大学海洋コア総合研究センター長
大学院 特任 教授	野嶋 佐由美	高知県国際交流協会理事	高知県国際交流協会事務局長	
		高知県医療審議会委員	高知県知事	
社会福祉学部	教授	杉原 俊二	高知県社会福祉協議会理事選考委員	高知市社会福祉協議会会長
			いじめ問題調査委員会委員	高知県立高知丸の内高等学校長
			高知県いじめ問題調査副委員長(高知県教育委員会)	高知県教育長
			高知県社会福祉協議会評議員選任・解任委員	高知県社会福祉協議会会長
	教授	田中 きよむ	令和2年度高知県青年農業士認定委員会委員	高知県農業振興部環境農業推進課長
			高知市生活支援相談センター運営委員会委員	高知市社会福祉協議会会長
			運営適正化委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			高知市生活困窮者支援運営委員会委員長、 セーフティネット連絡会委員	高知市社会福祉協議会会長
			高知県内各市町村地域福祉(活動)計画アドバイザー	各市町村社会福祉協議会会長
			高知市社会福祉審議会民生委員審査専門分科会会長	高知市長
			高知市国民健康保険運営協議会委員	高知市長
			高知市福祉有償運送運営協議会委員	高知市障がい福祉課長
			高知市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員	高知市長
			高知県地域年金事業運営調整会議委員長	高知東年金事務所長
			高知弁護士会綱紀委員会委員・ 高知弁護士会資格審査会予備委員	高知弁護士会会長
			ひかり協会高知県支部森永ヒ素ミルク中毒 救済対策委員会委員長	ひかり協会
			第三者委員	高知福祉会・すずめ福祉会・ファミリー高知
			高知県老人クラブ連合会理事	高知県老人クラブ連合会
			高知県介護ケア研究会会長	発令者なし (任意の会のため。代表は会員の互選)
			全国障害者問題研究会高知支部長	発令者なし (任意の会のため。代表は会員の互選)
			高知県社会保障推進協議会会長	発令者なし (任意の会のため。代表は会員の互選)
			高知県保育運動連絡会会長	発令者なし (任意の会のため。代表は会員の互選)
			「ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会」代表	発令者なし (任意の会のため。代表は会員の互選)

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
社会福祉学部	教授	田中 きよむ	高知県リハビリテーション研究会理事	発令者なし (任意の会のため。代表は会員の互選)
			高知県高次脳機能障害支援委員会委員	高知県知事
			高知県居住支援協議会委員長	高知県知事
			学校法人太平洋学園高校「多様な学習検討委員会」委員	太平洋学園高校校長
			NPO法人「福祉住環境ネットワークこうち」理事、NPO法人「未来予想図」副理事長、NPO法人「あさひ会」理事長、NPO法人「あまやどり高知」理事、社会福祉法人「さんかく広場」理事	各NPO法人理事長
	教授	長澤 紀美子	高知市行政改革推進委員会委員長	高知市長
			高知市指定管理者業務評価委員会外部委員	高知市長
			高知県社会福祉協議会・地域密着型サービス外部評価事業評価審査委員会委員長	高知県社会福祉協議会会長
	教授	西内 章	高知県行政不服審査会委員	高知県知事
			高知県スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー(高知県教育委員会)	高知県教育長
			令和2年度高知市高齢者虐待予防ネットワーク会議会長	高知市長
			高知県高齢者・障害者権利擁護センター運営協議会副委員長	高知県社会福祉協議会会長
			高知市社会福祉協議会評議員	高知市社会福祉協議会会長
			高知市成年後見制度利用促進審議会会長	高知市長
			高知市社会福祉協議会 これからあんしんサポート事業審査会委員長	高知市社会福祉協議会会長
			津野町地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会委員長	津野町長
			津野町認知症初期集中支援チーム検討委員会委員	津野町認知症初期集中支援チーム 検討委員会会長
			高知県立学校組織検討委員会委員	高知県教育委員会事務局教育次長
			令和2年度高知県教育委員会事務局 任期付職員採用選考考査審査員	高知県教育長
			令和2年度県立学校スクールソーシャルワーカー 新規採用選考会委員	高知県教育長
			高知県共同募金会配分委員会委員	高知県共同募金会会長
			高知市成年後見サポートセンター運営委員会会長	高知市社会福祉協議会会長
	教授	丸山 裕子	高知県スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー(高知県教育委員会)	高知県教育長
	教授	宮上 多加子	令和2年度高知県医療提供体制推進事業等評価委員会委員	高知県健康政策部医療政策課長
			高知県社会福祉審議会委員	高知県知事
			高知県福祉活動支援基金運営委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			日常生活自立支援事業契約締結審査会委員	高知県社会福祉協議会会長
高知県社会福祉協議会理事			高知県社会福祉協議会会長	
高知市民生委員推薦会委員			高知市長	
准教授	大松 重宏	特定非営利活動法人がんサポートコミュニティ顧問	特定非営利活動法人がんサポート コミュニティ会長	
		高知県医療ソーシャルワーカー協会理事	高知県医療ソーシャルワーカー協会会長	

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
社会福祉学部	准教授	鈴木 孝典	高知県精神医療審査会委員	高知県地域福祉部長
			高知県自立支援協議会専門部会(人材育成部会)部長	高知県地域福祉部障害福祉課長
			高知県自立支援協議会副会長	高知県地域福祉部障害福祉課長
			高知県障害者施策推進協議会委員	高知県地域福祉部長
			高知県障害者介護給付費等不服審査会委員	高知県知事
			高知県福祉人材センター・高知県福祉研修センター運営委員会委員(副委員長)	高知県社会福祉協議会会長
			学会誌投稿論文等査読小委員会委員	日本精神保健福祉士会協会会長
			精神保健福祉士試験委員	社会福祉振興・試験センター理事長
			土佐あけぼの会評議員及び第三者委員	土佐あけぼの会理事長
			ファミリーユ高知評議員	ファミリーユ高知理事長
	准教授	遠山 真世	高知県障害者介護給付費等不服審査会委員	高知県地域福祉部長
			土佐あけぼの会評議員及び第三者委員	土佐あけぼの会理事長
	准教授	西梅 幸治	令和2年度県立学校スクールソーシャルワーカー新規採用選考会委員	高知県教育長
			高知市精神保健福祉士・社会福祉士人材育成指針策定委員会委員長	高知市長
	准教授	福間 隆康	大阪障害者雇用支援ネットワーク地域連携事業部委員	大阪障害者雇用支援ネットワーク理事長
			南国市社会福祉協議会南国ネットワーク連絡会委員	南国市社会福祉協議会会長
			南国市社会福祉協議会あつたかにんにん運営委員会委員	南国市社会福祉協議会会長
	講師	加藤 由衣	社会福祉法人南少再発防止委員	南少理事長
			高知県社会福祉士会理事(国家試験対策委員会)	高知県社会福祉士会会長
	講師	河内 康文	南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員	南国市長
			第2回ふくし就職フェア開催事業委託業務公募型プロポーザル審査委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			高知市障害者計画等推進協議会委員福会長	高知市長
			高知県福祉人材センター・高知県福祉研究センター運営委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			いの町社会福祉協議会法人成年後見制度運営会委員	いの町社会福祉協議会会長
	講師	辻 真美	日本介護福祉学会評議員	日本介護福祉学会会長
			「高知県パイロット事業推進協議会、および高知県福祉・介護人材確保推進協議会業務改善推進部会」委員	三菱総合研究所ヘルスケア・ウェルネス事業本部長
			第25回日本在宅ケア学会学術集会企画委員	日本在宅ケア学会第25回学術集会会長
高知県福祉・介護人材確保推進協議会業務推進部会委員			高知県地域福祉政策課長	
助教	稲垣 佳代	日本精神保健福祉士会「就労・雇用支援のあり方検討委員会」委員	日本精神保健福祉士協会会長	

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
社会福祉学部	助教	雑賀 正彦	高知県地域福祉活動支援計画策定委員副委員長	高知県社会福祉協議会会長
			高知県地域福祉活動支援計画推進委員会委員	高知県社会福祉協議会会長
			令和2年度高知縣市町村社会福祉協議会連絡会 コミュニティソーシャルワーカー養成研修企画会委員	高知縣市町村社会福祉協議会会長
			令和2年度地域支援事例検討会委員	高知市社会福祉協議会会長
			土佐清水市権利擁護センター「らいとはうす」 権利擁護・成年後見人アドバイザー	土佐清水市社会福祉協議会会長
			土佐町第6次地域福祉活動計画評価委員会 評価委員オブザーバー	土佐町社会福祉協議会会長
			和歌山県介護支援専門員指導者、 法定研修運営委員会委員	和歌山県介護支援専門員協会会長
			和歌山県社会福祉士会監事	和歌山県社会福祉士会会長
	助教	田中 眞希	公益財団法人ひかり協会 高知県地域救済対策委員会 委員	ひかり協会理事長
			介護福祉士実習指導者講習会研修企画委員会委員	高知県介護福祉士会会長
			施設苦情解決第三者委員	ミレニアム理事長
			社会福祉法人ミレニアム 障害者支援施設アドレス高知 第三者委員	社会福祉法人ミレニアム理事長
	助教	玉利 麻紀	高知県精神保健福祉協会研修部委員	高知県精神保健福祉協会会長
	助教	福田 敏秀	高知市介護保険施設等整備事業者審査委員会委員長	高知市長
			高知県公立大学生生活協同組合理事	高知県公立大学生生活協同組合
鳥取県介護支援専門員連絡協議会西部支部理事			鳥取県介護支援専門員連絡協議会 西部支部長	
健康栄養学部	教授	稲井 玲子	高知県食育連携推進協議会委員	高知県健康政策部長
			令和3年4月1日付け採用高知県公立学校教員採用 候補者選考審査第1次審査筆記審査の審査問題研究員	高知県教育委員会事務局 教職員・福利課長
			高知県アルコール健康障害対策連絡協議会	高知県地域福祉部障害支援課長
	教授	渡邊 浩幸	高知県事業審査アドバイザー委員長	高知県知事
			高知県食の安全・安心推進審議会委員	高知県知事
			高知県産学連携会議委員	高知県知事
			高知県農林業基本対策審議会特別委員	高知県知事
			高知県産業振興推進総合支援事業審査アドバイザー	高知県知事
			高知県地域経済活性化事業審査アドバイザー	高知県知事
			「こうち産業振興基金助成対象事業審査会」審査員	高知県産業振興センター理事長
			教員選考審査委員会委員	愛媛大学教育学部長
			令和3年度産学官民連携に関する広報事業委託業務 プロポーザル審査委員	高知県・大学等連携協議会会長
			高知県産学官民連携センターコーディネーター	高知県産学官民連携センター長
			IoPプロジェクト研究推進部会委員高付加価値 グループリーダー	IoPプロジェクト研究推進部会長
			安芸市立学校給食センター運営委員会委員・アドバイザー	安芸市教育長
			越知町まち・ひと・しごと創生推進会議(委員)	
			土佐フードビジネススクレーター(FBC)人材創出 講義担当	
	准教授	荒牧 礼子	第3次南国市食育推進会議委員	南国市長
			高知県行政栄養士新任期研修委員	高知県健康政策部

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
健康栄養学部	講師	島田 郁子	高知市学校給食調理業務プロポーザル選定委員会委員	高知市教育長
			土佐市社会福祉事業団理事	土佐市長
			土佐市立学校給食センター運営審議会委員	土佐市教育長
			南国市学校給食センター運営委員会委員	南国市教育長
			安芸市立学校給食センター運営委員会委員	安芸市教育長
			安芸市学校給食調理等業務プロポーザル審査委員会委員	安芸市教育長
			日本スポーツ栄養学会国際交流委員会委員(翻訳チーム)	日本スポーツ栄養学会会長
			JDA-DATリーダー研修運営委員	日本栄養士会会長
			日本家政学会中国・四国支部機関幹事	日本栄養士会会長
			高知県栄養士会理事	高知県栄養士会会長
	講師	竹井 悠一郎	高知県産学官連携会議運営委員	高知県商工労働部産業創造課長
			IoPプロジェクト研究推進部会委員	高知大学研究国際部研究推進課長
			IoPプロジェクト研究課題等評価委員会	高知県知事
			高知県栄養士会生涯教育委員会委員	高知県栄養士会会長
	講師	廣内 智子	JDA-DATスタッフ養成研修運営委員	
			高知県栄養士会はちきん編集委員	高知県栄養士会会長
			高知県南海トラフ地震時栄養・食生活支援活動ガイドライン改定検討会委員	高知県健康政策部健康長寿政策課長
	助教	隅田 有公子	高知県公立大学生生活協同組合理事	高知県公立大学生生活協同組合
	助教	沼田 聡	高知県栄養士会研究教育事業部代表理事	
	助手	彼末 富貴	令和2年度高知市春野郷土資料館運営審議会委員	高知市教育委員会高知市教育長
地域教育研究センター	教授	石山 貴章	NPO法人あさひ会障害者福祉サービス事業所 あさひ共同作業所理事	あさひ会
	教授	一色 健司	仁淀川流域学識者会議委員	四国地方整備局長
			物部川流域学識者会議委員	四国地方整備局長
			高知県公立大学生生活協同組合理事	高知県公立大学生生活協同組合
			高知県環境影響評価技術審査会委員	高知県知事
			高知県廃棄物処理施設設置審査会委員	高知県知事
			高知県環境基本計画改定委託業務に関する プロポーザルの審査委員	高知県林業振興・環境部 環境共生課長
			高知県環境審議会委員	高知県知事
			高知みらい科学館協議会委員	高知市教育委員会高知市教育長
			高知市産業廃棄物処理施設設置審議会委員	高知市長
			高知市学校支援地域本部事業推進委員会委員	高知市教育長
			高知市民の大学運営委員	高知市民の大学運営委員会委員長
	新宇治川放水路地下水監視委員会	いの町長		
	教授	清原 泰治	高知県地域活性化雇用創造プロジェクト推進協議会委員	高知県知事
			高知県おもてなし県民会議委員	高知県観光振興部長
			高知県スポーツ振興県民会議地域スポーツ推進部会員	高知県知事
			高知縣市町村図書館等振興協議会委員	高知県教育委員会
			高知市スポーツ推進審議会副委員長	高知市教育委員会

学部	職名	氏名	審議会・委員会名等	発令者
地域教育研究センター	教授	清原 泰治	佐川町総合計画審議会及び 佐川町まち・ひと・しごと創生推進会議委員	佐川町長
			土佐市創生有識者会議委員	土佐市長
			LINKtopos(全国公立大学学生大会)企画チーム委員 (主査)	公立大学協会第1委員会委員長
			令和2年度スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員	高知県教育委員会事務局教育次長
			佐川町道の駅基本計画策定委員長	佐川町長
			佐川町まち・ひと・しごと創生推進会議委員	佐川町長
			津野町まち・ひと・しごと創生有識者会議会長	津野町長
			津野町まちづくり計画審議会会長	津野町長
			香美市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会会長	香美市長
			高知放送番組審議会委員	高知放送代表取締役社長
			公立大学協会公立大学の学生交流に関する ワーキンググループ副主査	公立大学協会会長
	教授	鈴木 康郎	教師教育コンソーシアム高知運営協議会・事業部会委員 " 共同研究事業部会委員	高知県立大学・学長
高知大学・教員免許状更新講習担当講師			高知大学・学長	
健康長寿センター	特任 准教授	森下 幸子	高知県訪問看護推進協議会委員	高知県健康政策部医療政策課長
			訪問看護ステーション運営委員会委員	高知県看護協会会長
			令和2年度在宅ケア領域看護師研修検討会委員	高知県看護協会会長
			中山間地域等訪問看護サービス確保事業運営会 外部アドバイザー	高知県訪問看護連絡協議会長
			人生の最終段階における医療・ケア検討会議委員	高知県医療政策課長

3 学外提供用刊行物作成状況

部 局	担当部署	名 称
文化学部	文化学部	高知県立大学文化学部 思索と実践(改訂版)
		高知県立大学 文化論叢
		文化の力 Vol.05
		英語を学ぶための30冊—英文法・英文学からのアプローチ— (小冊子)
		三島由紀夫文学を読む・知るための30冊—日本近代文学からのアプローチ— (小冊子)
		医療衛生と地域・身体をめぐる50冊—木村哲也の世界を手掛かりに— (小冊子)
看護学部	看護学部	高知県立大学看護学部・看護学研究科活動報告書
		高知県立大学看護学部・看護学研究科年報
		看護学部パンフレット(受験生向けPR誌)
		看護学部ニューズレター-学生生活通信『fure-fure』
社会福祉学部	社会福祉学部	高校生のための公開講座(リーフレット) 8月・9月・11月・3月
		高知県立大学 社会福祉学部(学部パンフレット)
		実習のてびき —相談援助実習—
		実習のてびき —精神・社会福祉コース編—
		実習のてびき —介護福祉実習—
		社会福祉実習報告書(相談援助実習・精神保健福祉援助実習)
		介護福祉実習報告書
		高知県立大学社会福祉学部報 第22号
健康栄養学部	健康栄養学部	高知県立大学健康栄養学部報 第11号
看護学研究科	看護学研究科	高知県立大学大学院看護学研究科
総合情報センター	図書情報部	総合情報センター年報 令和元年度
		高知県立大学紀要 第70巻
地域教育研究センター	地域連携課	高知県立大学地域教育研究センター報 2019 第8号
		立志社中リーフレット
		立志社中活動成果報告書
		域学共生事業パンフレット
健康長寿センター	企画連携課	高知県立大学健康長寿センター活動報告書
		高知県立大学健康長寿センターパンフレット
		高知県中山間地域等訪問看護師育成講座パンフレット
		訪問看護スタートアップ研修 新卒パンフレット
		慢性腎臓病患者さんのための食事療法手引き
		地域・病院・多職種協働型入退院支援の仕組みづくりガイドラインVer.3～概要版～
		血管病患者を支援する活動手順書 Ver.2
国際交流センター	国際交流課	国際交流センター活動報告書
		高知で学ぶ世界に通じる心For Students from Overseas
		私費外国人留学生入試 学生募集
広報委員会	企画連携課	全学広報誌「Pin+」vol.21～vol.22 (年4回発刊)

作成元	担当部署	名 称
全学	総務課	MANABI BOOK
	学生・就職支援課	2020年度企業向けパンフレット
	入試課	大学案内2021
		大学院案内2021
	教育研究戦略課	令和元(平成31)年度年報

XII 財務

1 はじめに

本法人は、平成23年4月1日に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人となり、今期が第2期中期計画の4年目にあたる第10期目の決算となる。

公立大学法人の会計基準は、企業会計を基本としながらも、主たる業務内容が教育・研究であり、利益の獲得を目的としないなどの特殊性を考慮した「地方独立行政法人会計基準」に基づき作成されるもので、県民をはじめとする利害関係者に、法人の財政状態や運営状況を明らかにするために、作成が義務付けられている。

第34条第1項では、毎事業年度終了後3ヶ月以内に、財務諸表(貸借対照表、損益計算書、利益の処分又は損失の処理に関する書類等)を、設立団体の長に提出し、承認を得なければならないとされている。

令和2年度の財務諸表上の表記は下記のとおりである。

貸借対照表、損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書は県立大学単独の表記、行政サービス実施コスト計算書は法人全体の数値を表示している。

2 貸借対照表

貸借対照表は、令和3年3月31日現在の、全ての財産(資産、負債・純資産)の状況を示した。

令和2年度の資産総額は、

固定資産が 114億9千8百万円(95.3%)

流動資産が 5億6千4百万円(4.7%)

合計 120億6千2百万円(100.0%)となっている。

固定資産が資産の95.3%を占め、このうち県からの出資財産が、94億1千万円で資産全体の78.0%を占めている。

負債の総額は、17億9千5百万円となっています。

固定負債が 12億6千 万円

(うち資産見返負債¹ 10億6千7百万円 負債全体の84.7%)

流動負債が 5億3千4百万円

(うち寄附金債務 3百万円 同 0.5%)

負債総額のうち、資産の見返として計上し、減価償却処理により費用が発生する都度、取り崩して収益化する資産見返負債が10億6千7百万円と負債全体の84.6%を占め、使途特定寄附金収入のうち来期以降に使用する予定の寄附金債務が、3百万円で、0.5%となっている。

純資産の総額は、 102億6千7百万円で、内訳は

資本金(県からの出資金)が109億6千5百万円、

資本剰余金が △7億1千 万円

利益剰余金が 1千2百万円となっている。

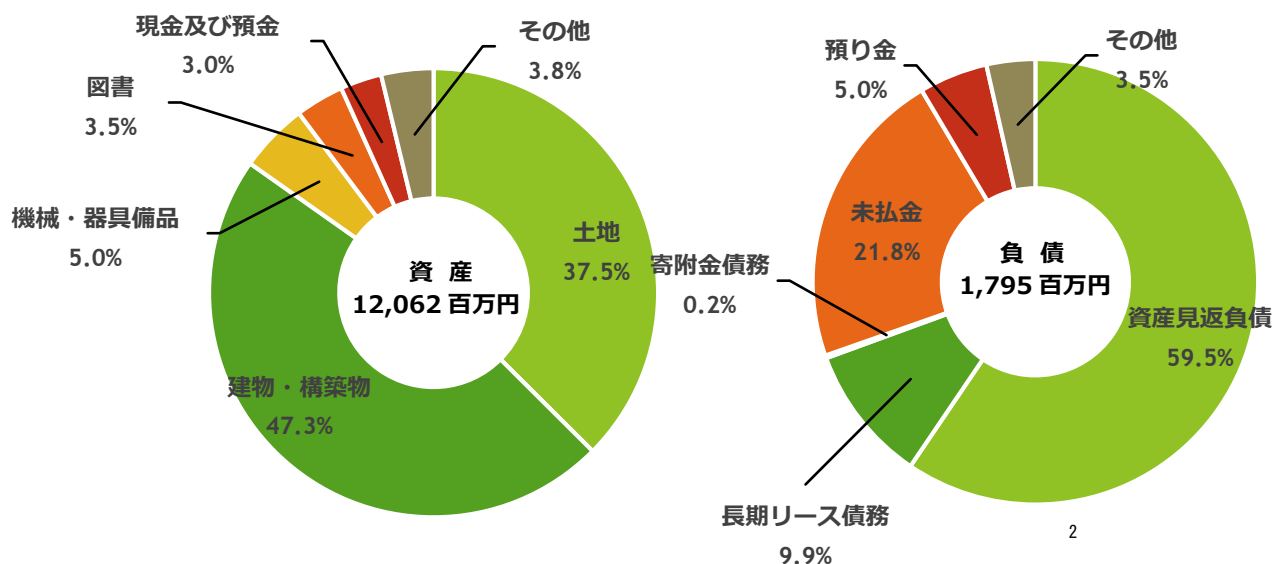
¹資産見返負債：運営費交付金・寄附金・無償譲与・補助金等の財源で取得した固定資産の見合いで負債に計上され、固定資産の減価償却に伴って、資産見返負債戻入という収益に振替られるもので、資産・負債を均衡させるために必要なものである。

貸借対照表の概要

(単位: 百万円)

資産の部	固定資産	有形固定資産	土地	4,519	負債の部	固定負債	資産見返負債	1,067
			建物	5,530			長期リース債務	178
			構築物	175			その他の固定負債	14
			機械装置	42			小計	1,260
			工具器具備品	559		流動負債	寄附金債務	3
			図書	421			未払金	392
			車両運搬具	4			預り金	89
			美術品・収蔵品	24			短期リース債務	49
			建設仮勘定	172			小計	534
			小計	11,450		合計③		1,795
	無形固定資産		33	純資産の部	資本金	10,965		
	投資その他の資産		14		資本剰余金	▲710		
	合計①		11,498		利益剰余金	12		
	合計④				合計④	10,267		
	流動資産	現金及び預金		360				
その他の流動資産		204						
合計②		564						
資産合計①+②			12,062	負債純資産合計③+④			12,062	

※百万円未満切捨て



²グラフの作成にあたっては、各項目の金額を百万円未満切り捨ての数値ではなく、実数をもとに算出している。損益計算書のグラフも同様。

3 損益計算書

損益計算書は、当期に発生した目的別費用とそれに対応する収益構造を記載した計算書である。
経常費用の総額は、25億3千6百万円で、内訳は業務費が23億8千3百万円で、一般管理費が1億5千1百万円、支払利息等の財務費用が1百万円となっている。

業務費23億8千3百万円の内訳は、

教育研究経費	8億3千7百万円(対経常費用 33.0%)
教育経費	5億1千 万円
研究経費	1億5千5百万円
教育研究支援経費	1億7千1百万円
受託研究等経費	2千3百万円(対経常費用 0.9%)
受託研究費	2百万円
受託事業費	2千 百万円
人件費	15億2千3百万円(対経常費用 60.0%)

※受託研究・事業費に参入した人件費を除く

人件費が経常費用に占める割合は、60.0%となっている。

経常収益の総額は、25億4千9百万円で、内訳は

運営費交付金収益	14億6千6百万円(対経常収益 57.5%)
授業料等収益	7億6千3百万円(同 29.9% 授業料、入学金、検定料収入を含む)
受託研究収益	2百万円(同 0.07%)
受託事業等収益	2千 百万円(同 0.7%)
寄附金収益	3千2百万円(同 1.2%)
補助金収益	1億 9百万円(同 4.2%)
施設費収益	7百万円(同 0.2%)
資産見返負債戻入	9千5百万円(同 3.7%)
雑益	5千2百万円(同 2.0%)

経常収益から経常費用を差し引いた経常利益は、1千2百万円となった。

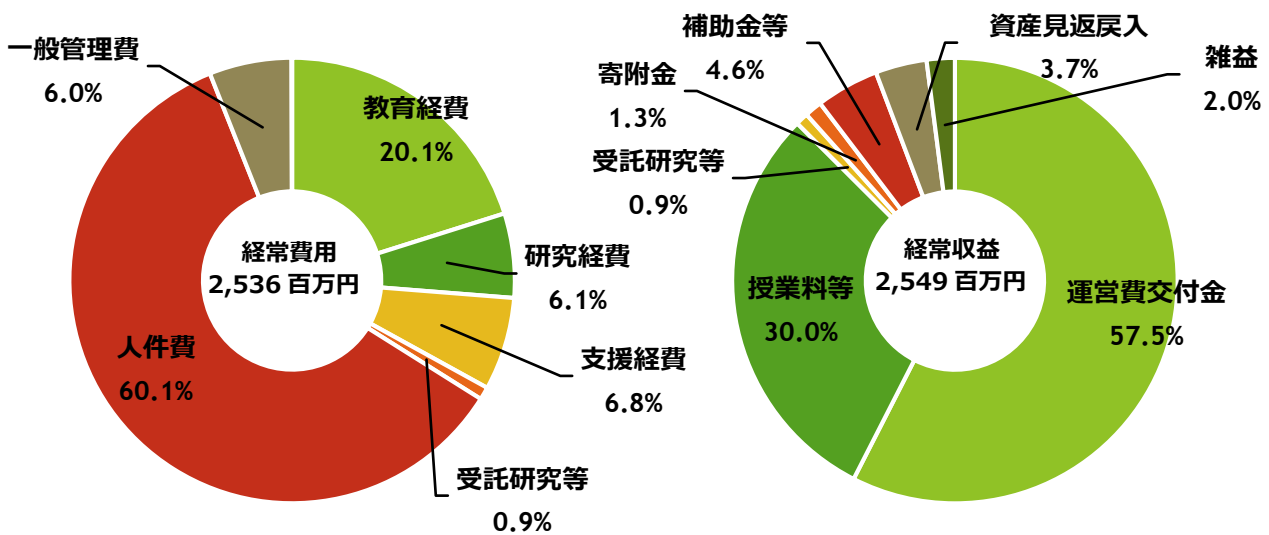
目的積立金取崩額は計上されていないため、当期総利益も1千2百万円となっている。

損益計算書の概要

(単位:百万円)

経常費用	業務費	教育経費	510	経常収益	運営費交付金収益	1,466
		研究経費	155		授業料収益	656
		教育研究支援経費	171		入学料収益	84
		受託研究費	2		検定料収益	23
		受託事業費	20		受託研究収益	2
		教員人件費	1,128		受託事業等収益	20
		職員人件費	394		寄附金収益	32
		合計	2,383		補助金等収益	109
	一般管理費	151	施設費収益		7	
	財務費用・雑損	1	資産見返負債戻入		95	
合計	2,536	雑益	52			
当期総利益			12	合計		2,549

※百万円未満切捨て



4 その他の主要諸表

① キャッシュ・フロー計算書

損益計算書は発生主義により作成されるため、資金の状況とは一致しないことから、資金の状況を把握するために、業務活動、投資活動、財務活動の区分から、当期の資金収支の状況を示した書類がキャッシュ・フロー計算書です。なお、当期末の資金残高は、3億6千万円である。

キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	162
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	22
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 36
IV 資金増減額	148
V 資金期首残高	211
VI 資金期末残高	360

※百万円未満切捨て

② 利益の処分に関する書類

利益の処分に関する書類は、損益計算上の利益の処分を明らかにするための書類である。公立大学法人における利益処分方法は、公立大学法人が効率的・効果的に事業を実施し、自己収入の増加あるいは費用の節減等により生じた利益として、設立団体の長が承認し翌事業年度以降に大学で自由に用途を決定できる「目的積立金」と翌事業年度以降の損失の補填のみに用途が限定された「積立金」として処分する方法がある。

③ 行政サービス実施コスト計算書（法人全体）

行政サービス実施コスト計算書は、損益計算書上の費用に加え法人運営上コストとなっている損益外減価償却費や機会費用等を計上することにより、県(県民)が負担している全コストを明らかにするための書類である。当年度の実質的成本は、19億5千3百万円である。

行政サービス実施コスト計算書の概要

(単位:百万円)

I 業務費用	1,636
(1)損益計算書上の費用	2,536
(2)自己収入等	△900
II 損益外減価償却相当額	261
III 引当外賞与増加見積額	△1
IV 引当外退職給付増加見積額	46
V 機会費用	10
VI 行政サービス実施コスト	1,953

※百万円未満切捨て

5 外部資金導入の状況
 (1) 科学研究費助成事業交付状況
 【科学研究費助成事業交付実績】

研究種目	課題番号	所属名	職名	研究代表者名	研究課題名	新規継続の別	補助事業期間開始	補助事業期間終了	令和2年度の直接経費	令和2年度の間接経費	(参考) 研究期間全体の直接経費	(参考) 研究期間全体の間接経費
基盤研究(B)	17H04450	看護学部	教授	中野 綾美	命に向き合う子どもと親のエンド・オブ・ライフへの看護支援モデルの構築と活用	継続	2017	2020	2,900,000	870,000	13,000,000	3,900,000
基盤研究(B)	17H04451	看護学部	准教授	佐東 美緒	医療的ケアが必要な在宅療養中の子どもと家族の災害に備えた協働支援プログラムの開発	継続	2017	2020	1,700,000	510,000	7,300,000	2,190,000
基盤研究(B)	18H03085	看護学部	研究員	中山 洋子	重度・慢性精神障害者のセルフケア能力の評価方法と看護介入モデルの開発	継続	2018	2021	2,300,000	690,000	10,600,000	3,180,000
基盤研究(B)	18H03097	看護学部	教授	野嶋 佐由美	脆弱性を抱えた家族のレジリエンスを促進するケアガイドラインと教育プログラムの構築	継続	2018	2021	2,800,000	840,000	13,000,000	3,900,000
基盤研究(B)	18H03120	看護学部	教授	神原 咲子	地域の全体最適を目指した減災ケアの可視化とツールの開発	継続	2018	2021	2,700,000	810,000	12,100,000	3,630,000
基盤研究(B)	20H03984	看護学部	教授	藤田 佐和	外来治療する高齢がん患者を支える協働型包括的機能評価に基づく統合ケアモデルの開発	新規	2020	2023	2,500,000	750,000	7,000,000	2,100,000
基盤研究(B)	20H04022	看護学部	教授	山田 覚	災害に関連する専門職者・行政と住民とのリスクコミュニケーションガイドラインの提案	新規	2020	2023	2,600,000	780,000	6,100,000	1,830,000
基盤研究(B)	19H01566	社会福祉学部	教授	田中 きよむ	中山間地域の運転免許返納者を含む移動問題と地域共生拠点を活かした課題解決の探求	継続	2019	2021	2,000,000	600,000	7,000,000	2,100,000
基盤研究(C)	18K01195	文化学部	准教授	飯高 伸五	パラオ諸島の戦跡観光におけるサブジェクトとエージェントの民族誌的研究	継続	2018	2020	500,000	150,000	1,900,000	570,000
基盤研究(C)	18K02072	文化学部	准教授	根岸 忠	台湾における居宅介護労働者の労働条件保護の決定プロセスとそのあり方	継続	2018	2020	400,000	120,000	1,200,000	360,000
基盤研究(C)	19K01449	文化学部	准教授	清水 直樹	内閣による議院解散権の制約の政策的帰結:政治的景気循環論による研究	継続	2019	2021	600,000	180,000	1,800,000	540,000
基盤研究(C)	20K00040	文化学部	准教授	吉川 孝	ポルノグラフィにおける性的モノ化の哲学的考察——現象学的倫理学からのアプローチ	新規	2020	2022	500,000	150,000	1,900,000	570,000
基盤研究(C)	20K00527	文化学部	教授	高西 成介	「翻訳」「注釈」の創造性とフィクション生成をめぐる学際的・理論的研究	新規	2020	2022	1,100,000	330,000	2,500,000	750,000
基盤研究(C)	18K10287	看護学部	教授	池田 光徳	がん化学療法による手足症候群および爪囲爪炎の早期検出と新規外用剤による予防的介入	継続	2018	2020	1,100,000	330,000	3,400,000	1,020,000
基盤研究(C)	18K10288	看護学部	助教	森本 紗磨美	消化器がん患者の周術期ヘルスリテラシー支援プログラムの開発	継続	2018	2020	400,000	120,000	2,600,000	780,000
基盤研究(C)	18K10320	看護学部	助教	坂元 綾	糖尿病足病変予防のための看護師のアセスメント力を高める教育プログラムの開発	継続	2018	2020	600,000	180,000	2,700,000	810,000
基盤研究(C)	18K10356	看護学部	助教	塩見 理香	自閉症スペクトラム障害者の対人関係におけるセルフコントロールを高めるプログラム	継続	2018	2020	1,100,000	330,000	3,100,000	930,000
基盤研究(C)	18K10548	看護学部	教授	森下 安子	慢性心不全高齢者の再入院を予防するシームレスケアを創る退院支援ガイドラインの開発	継続	2018	2020	1,100,000	330,000	3,200,000	960,000
基盤研究(C)	19K10907	看護学部	教授	森本 悦子	地域の一般病院通院中の後期高齢がん患者への複合的な外来看護支援モデルの検証と評価	継続	2019	2021	1,200,000	360,000	3,200,000	960,000
基盤研究(C)	19K10933	看護学部	助教	庄司 麻美	がん患者の緩和ケア主体治療へのTransitional Care Model開発	継続	2019	2022	700,000	210,000	2,800,000	840,000
基盤研究(C)	19K10955	看護学部	教授	内田 雅子	慢性病者中心のケア・コーディネーション:事例研究法による看護実践理論の構築	継続	2019	2022	1,100,000	330,000	3,300,000	990,000
基盤研究(C)	19K10987	看護学部	講師	有田 直子	血液・腫瘍疾患を持つ青年のSDMを支援する高度実践看護師の教育プログラムの開発	継続	2019	2022	900,000	270,000	3,300,000	990,000
基盤研究(C)	19K11012	看護学部	講師	岩崎 順子	低出生体重児のFamilyConfidenceを育成する看護介入プログラムの開発	継続	2019	2021	1,100,000	330,000	3,400,000	1,020,000
基盤研究(C)	19K11041	看護学部	助教	中井 美喜子	人工呼吸器を装着した児と家族のヘルスケア機能を増進するためのケアガイドライン開発	継続	2019	2021	800,000	240,000	2,400,000	720,000
基盤研究(C)	19K11091	看護学部	准教授	高谷 恭子	成人期に移行する先天性心疾患と共に生きる子どもと親の軌跡を説明できるモデルの構築	継続	2019	2022	400,000	120,000	3,300,000	990,000
基盤研究(C)	19K11254	看護学部	助教	川本 美香	住民による健康な地域づくりを可能にするplace attachmentの解明	継続	2019	2021	400,000	120,000	2,000,000	600,000
基盤研究(C)	19K11279	看護学部	教授	竹崎 久美子	急性期病院に入院中の認知症高齢者に対する効果的ケア・パッケージの開発	継続	2019	2021	400,000	120,000	1,600,000	480,000
基盤研究(C)	20K10610	看護学部	教授	久保田 聡美	看護の質の向上に貢献する看護師のエンゲージメントモデル開発	新規	2020	2022	1,200,000	360,000	3,300,000	990,000
基盤研究(C)	20K10696	看護学部	准教授	森下 幸子	組織学習を支える訪問看護管理者のコンサルテーション力を高める教育支援モデル構築	新規	2020	2022	1,300,000	390,000	2,800,000	840,000
基盤研究(C)	20K10738	看護学部	講師	井上 正隆	術前の心理的準備性向上による術後認知機能障害を防ぐケアモデルの開発	新規	2020	2022	1,600,000	480,000	3,400,000	1,020,000
基盤研究(C)	20K10811	看護学部	講師	山中 福子	心不全重症化予防に向けたアウトカム評価に基づく患者教育連携プログラム	新規	2020	2023	1,000,000	300,000	2,400,000	720,000

研究種目	課題番号	所属名	職名	研究代表者名	研究課題名	新規継続の別	補助事業期間開始	補助事業期間終了	令和2年度の直接経費	令和2年度の間接経費	(参考)研究期間全体の直接経費	(参考)研究期間全体の間接経費
基盤研究(C)	20K10842	看護学部	教授	池添 志乃	発達障害のある子どもと家族の移行を支える協働型看護ケアガイドラインの開発	新規	2020	2023	800,000	240,000	3,400,000	1,020,000
基盤研究(C)	20K10891	看護学部	助教	源田 美香	学童期にある発達障害児の家族の家族ストレスを促進するケアプログラムの開発	新規	2020	2023	900,000	270,000	3,300,000	990,000
基盤研究(C)	20K10914	看護学部	教授	瓜生 浩子	患者・家族と看護者間のコンフリクトの発生・悪化を予防する教育プログラムの開発	新規	2020	2022	1,200,000	360,000	3,200,000	960,000
基盤研究(C)	20K10915	看護学部	教授	長戸 和子	慢性心不全患者・家族のアドバンス・ケア・プランニング支援ガイドラインの開発	新規	2020	2022	1,200,000	360,000	3,200,000	960,000
基盤研究(C)	20K10944	看護学部	助教	田之頭 恵里	生体肝移植を受けた子どもの心理・社会的フォローアップケアガイドラインの開発	新規	2020	2022	2,000,000	600,000	2,900,000	870,000
基盤研究(C)	20K10967	看護学部	教授	畦地 博子	障害文化と健全文化を超えて共創する支援のパターンランゲージ	新規	2020	2023	1,100,000	330,000	3,300,000	990,000
基盤研究(C)	20K11079	看護学部	講師	小澤 若菜	市町村保健師による医療保険者と連携型の高齢者心不全重症化予防プログラムの開発	新規	2020	2022	1,100,000	330,000	2,700,000	810,000
基盤研究(C)	20K11132	看護学部	准教授	木下 真里	全被災者の健康状態把握を支援するモバイル・ツール開発研究	新規	2020	2022	1,400,000	420,000	3,300,000	990,000
基盤研究(C)	18K02112	社会福祉学部	准教授	遠山 真世	重度障害者の就労支援における工賃向上のための「高知モデル」の構築	継続	2018	2020	200,000	60,000	1,400,000	420,000
基盤研究(C)	18K02158	社会福祉学部	教授	西内 章	ソーシャルワークにおけるICTを活用した多職種連携モデルの構築	継続	2018	2020	100,000	30,000	1,000,000	300,000
基盤研究(C)	18K02340	社会福祉学部	助教	田中 真希	「演じる行為」に着目した介護の実践価値生成と共有化－職場学習論に基づく分析－	継続	2018	2020	400,000	120,000	1,200,000	360,000
基盤研究(C)	19K02191	社会福祉学部	助教	玉利 麻紀(平井麻紀)	社会的マイノリティへの偏見軽減要因の探索 無関心という壁を越えるために	継続	2019	2021	900,000	270,000	2,200,000	660,000
基盤研究(C)	20K02212	社会福祉学部	准教授	西梅 幸治	エンパワメント志向ジェネラル・ソーシャルワークにおける協働アセスメント方法の構築	新規	2020	2022	400,000	120,000	1,700,000	510,000
基盤研究(C)	20K02267	社会福祉学部	教授	長澤 紀美子	ケア視点に基づく性的指向・性自認に関する社会福祉士養成教育プログラムの開発	新規	2020	2022	1,000,000	300,000	3,000,000	900,000
基盤研究(C)	20K02611	地域教育研究センター	教授	鈴木 康郎	東南アジア諸国における「多様な価値の共存」を目指す道徳教育の比較研究	新規	2020	2022	1,200,000	360,000	3,300,000	990,000
挑戦的研究(萌芽)	18K19695	看護学部	教授	神原 咲子	住民参加型モニタリングによる生活環境評価法の開発	継続	2018	2020	1,000,000	300,000	4,800,000	1,440,000
研究活動スタート支援	19K24208	看護学部	助教	竹中 英利子	慢性疾患患者を支える外来看護師のアセスメント能力を育成する教育プログラムの開発	継続	2019	2020	200,000	60,000	700,000	210,000
研究活動スタート支援	20K23138	看護学部	助教	中井 あい	中山間地域の独居高齢者の食環境アクセシビリティに着目したスクリーニングシート開発	新規	2020	2021	1,000,000	300,000	1,800,000	540,000
若手研究	20K12924	文化学部	講師	田中 裕也	三島由紀夫文学における思想系テキストの受容と実践に関する研究	新規	2020	2023	600,000	180,000	1,900,000	570,000
若手研究	18K17512	看護学部	准教授	藤代 知美	統合失調症患者の在宅生活を支援する看護師の交渉コンピテンシー育成プログラムの開発	継続	2018	2021	300,000	90,000	3,100,000	930,000
若手研究	18K17646	看護学部	教授	渡邊 聡子	ICTを用いた妊婦の災害への備えを促進するための介入の効果検証	継続	2018	2021	500,000	150,000	3,300,000	990,000
若手研究	19K19740	看護学部	講師	小原 弘子	難治性褥瘡への多職種在宅褥瘡ケアのマネジメントに向けたアセスメントツールの開発	継続	2019	2021	600,000	180,000	2,300,000	690,000
若手研究	20K19063	看護学部	助教	神家 ひとみ	ICUにおける人工呼吸器装着患者の集中治療後症候群予防のケアガイドライン開発	新規	2020	2023	1,100,000	330,000	1,600,000	480,000
若手研究	18K12968	社会福祉学部	講師	加藤 由衣	省察的実践の理論に基づくソーシャルワーク実践方法と省察ツールの開発	継続	2018	2020	700,000	210,000	1,700,000	510,000
若手研究	18K12999	社会福祉学部	准教授	福間 隆康	障がいのある従業員の組織適応プロセスに関する研究	継続	2018	2021	500,000	150,000	1,500,000	450,000
若手研究	19K14071	社会福祉学部	講師	河内 康文	介護現場リーダーの越境的学習に基づく職場学習の実証研究－混合研究法に基づく分析－	継続	2019	2021	600,000	180,000	1,300,000	390,000
若手研究	20K13673	社会福祉学部	講師	辻 真美	ホームヘルパーが利用者から受けているハラスメントの実態と要因に関する研究	新規	2020	2022	300,000	90,000	900,000	270,000
若手研究	20K13826	社会福祉学部	准教授	三好 弥生	終末期に至る要介護高齢者の食事摂取困難に対する食事ケアモデルの有用性に関する研究	新規	2020	2022	300,000	90,000	900,000	270,000
若手研究	19K14034	健康栄養学部	助教	沼田 聡	ハラル制度対応に向けた豚由来タンパク質に対する超高度同時酵素免疫測定法の開発	継続	2019	2020	1,400,000	420,000	3,200,000	960,000
若手研究(B)	17K17446	看護学部	助教	田中 雅美	トランジションを基盤としたICU新人看護師の看護実践能力向上支援プログラムの開発	継続	2017	2022	0	0	3,200,000	960,000
合計									62,000,000	18,600,000	208,900,000	62,670,000

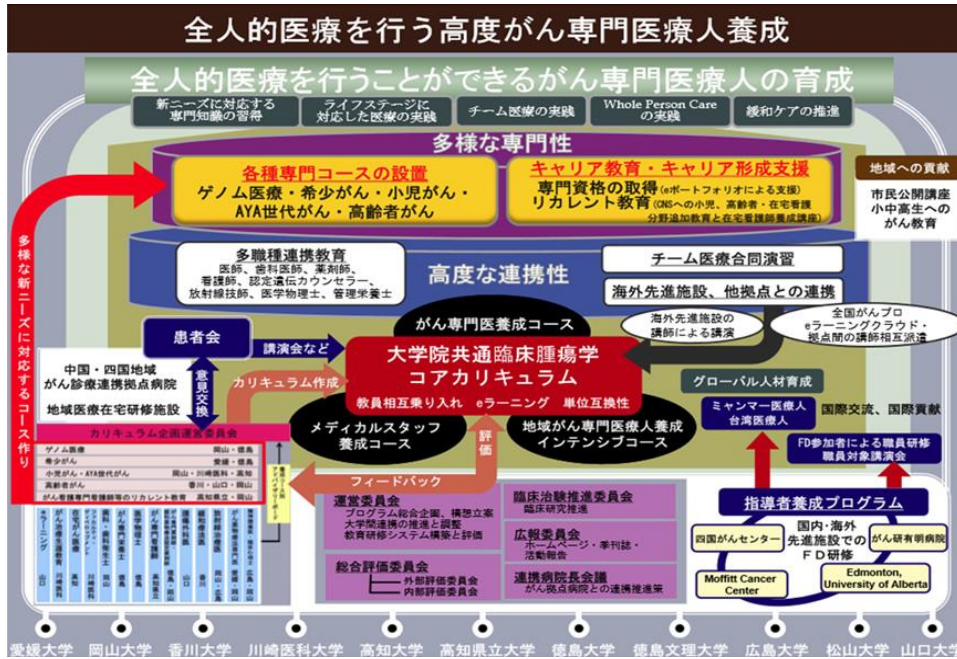
※令和2年度の実施状況・実績報告があった研究(繰越・期間延長課題を除く)について、研究種目・学部・課題番号順に掲載。令和2年度の直接経費・間接経費及び研究期間全体の直接経費・間接経費は交付内定時の金額(調整金は含まない)。職名は、実施状況・実績報告の職名を記載。

(2)【「全人的医療を行う高度がん専門医療人養成」プロジェクト】

●事業目的

「全人的医療を行う高度がん専門医療人養成」プロジェクトは、中国・四国地方の岡山大学、香川大学、徳島大学、徳島文理大学、高知県立大学、高知大学、愛媛大学、松山大学、山口大学、広島大学、川崎医科大学の11の大学院と、35のがんセンター・がん診療連携拠点病院が参加する多職種の高度がん専門医療人養成の教育プログラムです。平成19年度に始めました「中国・四国広域がんプロ養成プログラム」から、平成24年度からの「中国・四国がんプロ養成基盤プログラム」を経て、平成29年度から第3期事業と発展しています。

平成29年度からの5年間にわたる第3期事業では、第3期がん対策推進基本計画に盛り込まれるゲノム医療の実用化、小児および希少がんに対するがん医療、さらにAYA(Adolescent and Young Adult)世代や高齢者などのライフステージに応じたがん対策など、新たな視点から優れたがん専門医療人を育成し輩出することを目指しています。



本学は、中国・四国広域がんプロコンソーシアムに参加し、がん高度実践看護師養成WGの幹事校として活動しています。最初の5年間は、岡山大学、徳島大学とともにがん看護専門看護師WGとして取り組み、コンソーシアム内のがん看護専門看護師養成の教育課程を整備し、中国・四国の看護職の進学の機会を増やすとともに、チーム医療を推進していくがん看護専門看護師の存在意義や専門性、活動内容の理解促進に成果をあげてきました。平成24年度からは、広島大学と山口大学が加わった5大学のWGの幹事校として、がん高度実践看護師の養成をはじめ、インテンシブコースⅠ、インテンシブコースⅡを企画し、看護職の看護実践能力の向上に貢献してきました。

平成29年度からは、“小児がんの子どものケア”、“高齢者がん患者の治療とケア”に焦点を当て、教育プログラムを実施しています。また、中国・四国の実情に沿ったライフステージの多様な新ニーズに応える看護の質向上を推進する看護師、質の高い高齢がん患者のケアを創造していく訪問看護師を養成する教育コースを、5大学との連携、地域の保健医療福祉の関連機関との連携体制を強化し、多職種の方々のご支援を得て開講いたします。子どもから高齢者までのライフステージやがんの特性を考慮して、Cancer Trajectoryをたどる人の新ニーズを捉えて対応することのできる高度実践看護師の育成や、すでに実践で活躍されている専門看護師や認定看護師の新ニーズに対応する力を高めるリカレント教育を新たに展開していきます。

がん看護の質向上への貢献

がん高度実践看護師養成コース

がん高度実践看護師リカレントコース

がん高度実践看護師WG インテンシブコース

5大学院がん看護学合同セミナー

各大学の取り組み

幹事校

高知県立大学大学院
看護学研究科

岡山大学大学院
保健学研究科

山口大学大学院
医学系研究科 保健学専攻

広島大学大学院
医歯薬保健学研究科

徳島大学大学院
医歯薬学研究科 保健科学部門

●事業内容

担当教員

学部	職名	氏名
看護学部	教授	藤田 佐和
	教授	池田 光徳

事業費

年度	交付金額
令和2年度	3,858千円

●がん高度実践看護師教育課程におけるCNS養成と認定の実績

年度	入学者数	修了者数	CNS認定数
平成24年度	5	4	4
平成25年度	2	5	4
平成26年度	1	2	5
平成27年度	3	1	3
平成28年度	2	2	1
平成29年度	4	1	0
平成30年度	2	4	1
平成31年度	2	1	2
令和2年度	2	3	1

●インテンシブコースⅡ

平成24年度からスタートしたがん高度実践看護師WGでは、がん医療の実践現場において質の高いがん看護実践を推進していく中心的存在となる看護職を育成することを目的に、中国・四国のがん看護実践に携わる看護職の方を対象としたインテンシブコースⅡを企画しています。

インテンシブコースⅡでは、5年間の全体テーマを「がん患者のライフステージの様々な新ニーズに応える高度な看護実践の展開」とし毎年テーマを変えて講演会を開催します。令和2年度は、「遺伝性腫瘍と生きる患者へのがん看護」をテーマにWeb配信による講演会を開催し、79人が受講しました。

●がん高度実践看護師(APN)コースⅠ

本学看護学研究科博士前期課程がん看護学およびその他の領域のCNSコースの学生を対象に、がん高度実践看護師の養成および、がん看護をサブスペシャリティとする高度実践看護師の養成を目指し、APNコースⅠを開講し、5人が受講しました。

●がん高度実践看護師(APN)コースⅡ

専門看護師、修士課程修了生、がん看護、小児看護、老年看護に関連する認定看護師を対象に、小児から高齢者までのライフステージやがんの特性を考慮し、がんとともに生きる人とその家族の健康と生活に関わるニーズに応えられる、専門性の高い実践ができる看護師の養成を目指し、平成31年度は4科目合計60時間の講義・演習を開講し、34人が受講しました。

●がん高度実践看護師(APN)セミナー

本学ががん看護学領域を修了し、高知県内で活躍するがん看護専門看護師から、高度な看護実践の実際と6つの役割機能について学び、自己のがん高度実践看護師(APN)像を形成していく機会を得ることを目的として令和2年度は6回セミナーを実施しました。

●がん看護学領域特別講義

本学看護学研究科のがん看護学領域では、大学院生や修了生を対象とした特別講義を開催しています。特別講義では、修了生が後輩である大学院生や修了生に対して、修了後の役割開発のプロセスや日頃のOCNSとしての実践活動について語る機会を令和2年度は2回開催しました。

●チーム医療合同演習

11大学院のがんプロ大学院生が集まり、がん医療に関するテーマについて多職種でディスカッションを行うことで、チーム医療や多職種コミュニケーションの重要性についての学びを深めるチーム医療合同演習に参加しました。

●がん看護合同セミナーⅠ

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムのがん看護専門看護師養成WGである5大学(高知県立大学・岡山大学・徳島大学・広島大学・山口大学)のがん高度実践看護師コースの大学院生を対象として、徳島大学が企画・運営を担当しているがん看護学合同セミナーⅠ「がん患者におけるリンパ浮腫と症状マネジメントの実際」に参画しました。

●アストラルの会

高知県立大学大学院看護学研究科がん看護学領域修了生の会「アストラル」は、がん看護の質向上のための自己研鑽、情報交換、修了生のネットワークづくりの充実を図ることを目的として、①学習会の開催、②メンターシップ、③メーリングリスト等による情報共有、④学会参加、⑤研究、⑥ホームページ・アストラルのブログ作成の活動を行いました。

(3) 奨学寄附金受入状況(過去5年間分)

平成28年度

(単位:円)

寄附を受けた者				金額	寄附者	研究題目
1	文化学部	准教授	清水 直樹	150,000	日本行政学会	選挙制度と政治的景気循環:日本の選挙と経済政策を根拠として
2	社会福祉学部	講師	福間 隆康	200,000	生協総合研究所	中間的就労の活用による生活困窮者雇用拡大のための方策 グリーンコープ共同体の実践と効果の検証
3	地域教育研究センター	講師	野辺 陽子	1,000,000	上廣倫理財団	養子と里子の「出自を知る権利」に関する社会学的研究 -法律関係という変数に着目して-
合計		3件		1,350,000		

平成29年度

(単位:円)

寄附を受けた者				金額	寄附者	研究題目
1	社会福祉学部	講師	福間 隆康	640,000	ひと・健康・未来研究財団	精神障害者の就労継続に関する研究 -自己効力感に着目して
2	健康栄養学部	教授	小林 淳	200,000	高銀地域経済振興財団	高知県特産品のブランド価値を維持・上昇させるための含有量等分析法の確立
合計		2件		840,000		

平成30年度

(単位:円)

寄附を受けた者				金額	寄附者	研究題目
1	看護学部	教授	神原 咲子	2,200,000	Yahoo!基金	誰も取り残さない減災ケアの地図化と社会化
2	看護学部	教授	山田 覚	2,000,000	Yahoo!基金	災害看護支援ネットワークの構築・維持と効率的な運用
3	看護学部	助教	小原 弘子	700,000	公益信託 高知新聞・高知放送 「生命(いのち)の基金」	在宅療養に関わる医療・介護職への急変対応スキル向上に向けた取り組み
4	健康栄養学部	講師	竹井 悠一郎	1,000,000	公益財団法人 日本栄養・食糧学会	動脈瘤発症の予防と治療を目指した食品に関する基礎研究
合計		4件		5,900,000		

令和元年度

(単位:円)

寄附を受けた者				金額	寄附者	研究題目
1	文化学部	准教授	根岸 忠	1,000,000	公益財団法人 ユニバーサル財団	公的扶助と私的扶助の関係をめぐる日台比較法研究
合計		1件		1,000,000		

令和2年度

(単位:円)

寄附を受けた者				金額	寄附者	研究題目
1	看護学部	准教授	川上 理子	200,000	高銀地域経済振興財団	高齢者の在宅看取りに対する自己効力感と先行要因の明確化
合計		1件		200,000		

(4) 受託研究費受入状況(過去5年間分)

平成28年度

(単位:円)

No.	研究者			金額	委託者	研究題目	期間
	所属	職名	氏名				
1	看護学部	准教授	神原 咲子	200,000	国立研究開発法人 科学技術振興機構	避難移住地における感染症流行予防のための 生活環境モニタリング	平成27年7月29日- 平成28年6月30日
2	健康栄養学部	教授	稲井 玲子	216,000	南国市	食育の実践から「ことばの力」を高める ～主体的・共働的に学ぶ学習(アクティブラー ニング)を通して～	平成28年6月15日- 平成29年2月15日
3	健康栄養学部	教授	渡邊 浩幸	6,169,386	高知県商工労働部 新産業推進課	高知県産学官連携 産業創出研究推進事業(新規事業) 「食用カンナの多分野活用の研究」	平成28年9月2日- 平成29年3月31日
4	健康栄養学部	教授	渡邊 浩幸	350,000	株式会社アミノエース	食品の賞味期限と脂質酸化	平成29年1月4日- 平成29年3月3日
5	健康栄養学部	教授	渡邊 浩幸	5,564,000	株式会社協和 株式会社あさの	生姜と体温上昇に関する研究	平成29年3月1日- 平成30年3月31日
合計		5件		12,499,386			

平成29年度

(単位:円)

No.	研究者			金額	委託者	研究題目	期間
	所属	職名	氏名				
1	健康栄養学部	教授	渡邊 浩幸	5,564,000	株式会社協和 株式会社あさの	生姜と体温上昇に関する研究	平成29年3月1日- 平成31年3月31日
2	健康栄養学部	教授	渡邊 浩幸	6,053,723	高知県	食用カンナの多分野活用の研究	平成29年4月1日- 平成30年3月31日
3	健康栄養学部	教授	渡邊 浩幸	500,000	公益財団法人 高知県牧野記念財団	牧野富太郎博士ゆかり植物の高度利用による 食品・健康・観光産業の創出	平成29年4月1日- 平成30年3月31日
4	文化学部	教授	大村 誠	144,000	情報・システム研究機構 国立極地研究所	合成開口レーダ(SAR)データの偏波特性に着 目した南極域の観測手法の高度化	平成29年4月1日- 平成32年3月31日
5	社会福祉学部	講師	鳩間亜希子	1,600,000	NPO法人介護人材 キャリア開発機構	在宅高齢者を支える介護人材のあり方等につ いての調査研究事業	平成29年7月1日- 平成30年2月28日
6	健康栄養学部	教授	渡邊 浩幸	3,000,000	株式会社協和	ブタ由来プラセンタ及びびサイタイの生理活性 評価	平成30年1月5日- 平成30年3月30日
合計		6件		16,861,723			

平成30年度

(単位:円)

No.	研究者			金額	委託者	研究題目	期間
	所属	職名	氏名				
1	健康栄養学部	教授	渡邊 浩幸	5,949,012	高知県	食用カンナの多分野活用の研究	平成30年4月1日- 平成31年3月31日
2	地域教育研究 センター 文化学部 文化学部	教授 准教授 准教授	清原 泰治 宇都宮千穂 清水 直樹	1,231,956	安芸市	「安芸市少子化対策強化基本計画策定のため の調査・研究委託業務」	平成30年5月1日- 平成31年3月29日
3	健康栄養学部	教授	渡邊 浩幸	605,715	株式会社アミノエース	イタドリ葉部含有ポリフェノールの機能性	平成31年1月22日- 平成31年1月25日
合計		3件		7,786,683			

令和元年度

(単位:円)

No.	研究者			金額	委託者	研究題目	期間
	所属	職名	氏名				
1	看護学研究科 看護学部 看護学部	教授 教授 准教授	神原 咲子 山田 寛 木下 真里	2,500,000	国立大学法人 大阪大学	災害対応に資するPLRの事前整備と利用モデルの検討	平成31年4月1日- 令和2年3月31日
2	文化学部	准教授	根岸 忠	1,000,000	公益財団法人 日本台湾交流協会	外国人労働者受入れをめぐる労働市場法政策の日台比較－外国人非熟練労働者に焦点をあてて	平成31年4月1日- 令和2年3月31日
3	健康栄養学部	教授	渡邊 浩幸	1,940,000	株式会社 協和	生姜摂取後の血流に関する研究	令和元年11月1日- 令和2年3月31日
合計		3件		5,440,000			

令和2年度

(単位:円)

No.	研究者			金額	委託者	研究題目	期間
	所属	職名	氏名				
1	看護学部	大学院 教授	神原 咲子	2,500,000	国立大学法人 大阪大学	災害対応に資するPLRの事前整備と利用モデルの検討	令和2年4月1日- 平成3年3月31日
2	健康栄養学部	教授	稲井 玲子	495,880	高知県	令和2年度食生活実態調査事業	令和2年11月11日- 平成3年3月31日
合計		2件		2,995,880			

(5) 受託事業費受入状況(過去5年間分)

平成28年度

(単位:円)

		代表教員		金額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教授	森下 安子	3,425,000	高知県	平成28年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	平成28年4月1日-平成29年3月31日
2	看護学部	教授	森下 安子	5,691,395	高知県中央西福祉保健所	退院支援体制推進事業	平成28年4月14日-平成29年3月31日
3	社会福祉学部	講師	河内 康文	1,906,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	平成28年5月17日-平成29年3月31日
合計		3件		11,022,395			

平成29年度

(単位:円)

		代表教員		金額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教授	森下 安子	8,967,000	高知県	退院支援事業	平成29年4月25日-平成30年3月31日
2	看護学部	教授	森下 安子	3,425,000	高知県	平成29年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	平成29年5月19日-平成30年3月31日
3	社会福祉学部	講師	河内 康文	2,934,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	平成29年6月6日-平成30年3月31日
合計		3件		15,326,000			

平成30年度

(単位:円)

		代表教員		金額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教授	森下 安子	13,950,000	高知県	退院支援事業	平成30年4月1日-平成31年3月31日
2	地域教育研究センター	教授	清原 泰治	1,231,956	安芸市	安芸市少子化対策強化基本計画策定のための調査・研究委託業務	平成30年5月1日-平成31年3月29日
3	社会福祉学部	講師	河内 康文	2,934,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	平成30年6月1日-平成31年3月31日
4	看護学部	教授	森下 安子	2,719,000	高知県	平成30年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	平成30年6月4日-平成31年3月31日
合計		4件		20,834,956			

令和元年度

(単位:円)

		代表教員		金額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教授	森下 安子	16,233,000	高知県	退院支援事業	平成31年4月1日-令和2年3月31日
2	看護学部	教授	内田 雅子	1,960,000	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	平成31年4月19日-令和2年3月31日
3	社会福祉学部	講師	河内 康文	3,512,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和元年5月13日-令和2年3月31日
4	看護学部	教授	森下 安子	2,719,000	高知県	令和元年度高知県介護職員喀痰吸引等研修事業	令和元年6月25日-令和2年3月31日
合計		4件		24,424,000			

令和2年度

(単位:円)

	代表教員			金額	委託者	業務名	期間
1	看護学部	教授	森下 安子	13,749,000	高知県	退院支援事業	令和2年4月1日- 令和3年3月31日
2	看護学部	教授	内田 雅子	4,492,020	高知県	糖尿病保健指導連携体制構築事業	令和2年4月6日- 令和3年3月31日
3	看護学部	教授	森下 安子	2,100,000	高知県	令和2年度高知県介護職員喀痰吸引等 研修事業	令和2年8月11日- 令和3年3月31日
合計		3件		20,341,020			

(6) その他受入状況(過去5年間分)

平成28年度

(単位:円)

	研究者	金額	相手先	事業名	期間
1	森下 安子	20,000,000	高知県	平成28年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	平成28年4月1日-平成29年3月31日
合計		1件	20,000,000		

平成29年度

(単位:円)

	研究者	金額	相手先	事業名	期間
1	森下 安子	20,000,000	高知県	平成29年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	平成29年4月1日-平成30年3月31日
合計		1件	20,000,000		

平成30年度

(単位:円)

	研究者	金額	相手先	事業名	期間
1	森下 安子	20,000,000	高知県	平成30年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	平成30年4月1日-平成31年3月31日
合計		1件	20,000,000		

令和元年度

(単位:円)

	研究者	金額	相手先	事業名	期間
1	森下 安子	20,000,000	高知県	平成31年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	平成31年4月1日-令和2年3月31日
2	渡邊 浩幸	13,200,000	高知県	“IoP (Internet of Plants)”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	平成31年4月1日-令和2年3月31日
3	渡邊 浩幸	400,000	高知県牧野記念財団	牧野富太郎博士ゆかり植物の高度利用による食品・健康・観光産業の創出	平成31年4月1日-令和2年3月31日
4	渡邊 浩幸	500,000	株式会社ファンケル	コーン由来のASG含有抽出物の内臓脂肪増加と血中LDL上昇の抑制効果の検証	令和元年11月1日-令和2年3月31日
合計		4件	34,100,000		

令和2年度

(単位:円)

	研究者	金額	相手先	事業名	期間
1	渡邊 浩幸	13,200,000	高知県	“IoP (Internet of Plants)”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化	令和2年4月1日-令和3年3月31日
2	清原 泰治	1,817,000	文部科学省	持続的な産学共同人材育成システム構築事業	令和2年4月1日-令和3年3月31日
3	藤田 佐和	3,858,000	文部科学省	多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材養成プラン」事業	令和2年4月1日-令和3年3月31日
4	森下 安子	20,000,000	高知県	令和2年度高知県中山間地域等訪問看護師育成講座	令和2年4月1日-令和3年3月31日
5	河内 康文	3,512,000	高知県	高知県キャリア教育推進事業	令和2年4月1日-令和3年3月31日
合計		5件	42,387,000		

6 学長助成事業等の状況

【学長助成事業実績】

(単位:千円)

事業名	助成費	備考
本学の教育研究分野を紹介する広報誌作成事業	2,869	
総合情報センター・図書館改革委員会	600	
池図書館電動集密書架更新	18,689	
東洋経済「SDGsに取り組む大学特集 第2段」掲載	1,320	
第25回日本在宅ケア学会学術集会	300	
合 計	23,778	

【戦略的研究推進プロジェクト事業実績】

(単位:千円)

事業内容	助成費	備考
高知県立大学の学術研究の充実及び高知県の課題解決を目指し、特に重点的に本学を特徴づけるテーマ1～5のいずれかにおいて、教育研究力を格段に高めようとする取り組みに対し、経費を補助することにより、教育・研究のイノベーションを促すことを目指す。	6,099	
合 計	6,099	

XIII キャンパス

1 土地

(単位: m²)

	区 分	所 在 地	面 積
1-1	校舎敷地(図書館、体育館、学生会館)	高知市永国寺町5番15号	11,313.84
1-2	校舎敷地(地域連携棟)	高知市永国寺町6番28号	3,115.98
1-3	校舎敷地(教育研究棟)	高知県高知市永国寺町91番	7,406.09
1-4	校舎敷地	高知市池2751-1	31,586.00
1-5	運動場敷地	高知市池2532-2	9,620.00
1-6	多目的広場・大学駐車場	高知市池2469-1	23,963.00
1-7	学生寮教職員宿舍敷地	高知市東石立町17番2号	2,653.72
1-8	池教員宿舍敷地	高知市池2160-1	3,226.00
1-9	朝倉教員宿舍敷地	高知市朝倉本町1丁目210-3	247.03
1-10	鴨部教員宿舍敷地	高知市鴨部字天神ノ前1258-1	568.51
1-11	幸町教員宿舍	高知県高知市幸町36番2、3	306.01
1-12	その他(法面等)	高知市池2155-1 ほか	10,947.70
	計		104,953.88

2 建 物

(単位: m²)

	区 分	所 在 地	面 積
2-1	南校舎(地域連携棟)	高知市永国寺町6番28号	3,135.89
2-2	教育研究棟	高知市永国寺町2番22号	14,821.49
2-3	図書館	高知市永国寺町5番15号	2,057.36
2-4	学生会館	〃	952.46
2-5	食堂兼体育館	〃	2,690.78
2-6	自転車置場	〃	134.00
2-7	校 舎	高知市池2751-1	12,565.89
2-8	体育館	〃	3,337.16
2-9	自転車置場	〃	262.50
2-10	グラウンド内トイレ等	高知市池2751-1	67.20
2-11	学生寮	高知市東石立町17番2号	1,173.02
2-12	東石立宿舍	〃	684.48
2-13	東城山宿舍	〃	746.76
2-14	朝倉教員宿舍	高知市朝倉本町1丁目210-3	134.02
2-15	鴨部教員宿舍	高知市鴨部字天神ノ前1258-1	278.60
2-16	幸町教員宿舍	高知県高知市幸町36、37番2	306.01
2-17	池教員宿舍	高知市池2160-10	1,116.19
	計		44,463.81